

東京外かく環状道路(関越～東名)
地盤補修の施工状況・中央JCT付近及びシールドトンネル工事の
状況等をお知らせするオープンハウスの資料

【地盤補修の施工状況】

令和7年12月19日～20日

東日本高速道路(株) 関東支社 東京外環工事事務所
国土交通省 関東地方整備局 東京外かく環状国道事務所
中日本高速道路(株) 東京支社 東京工事事務所

目次

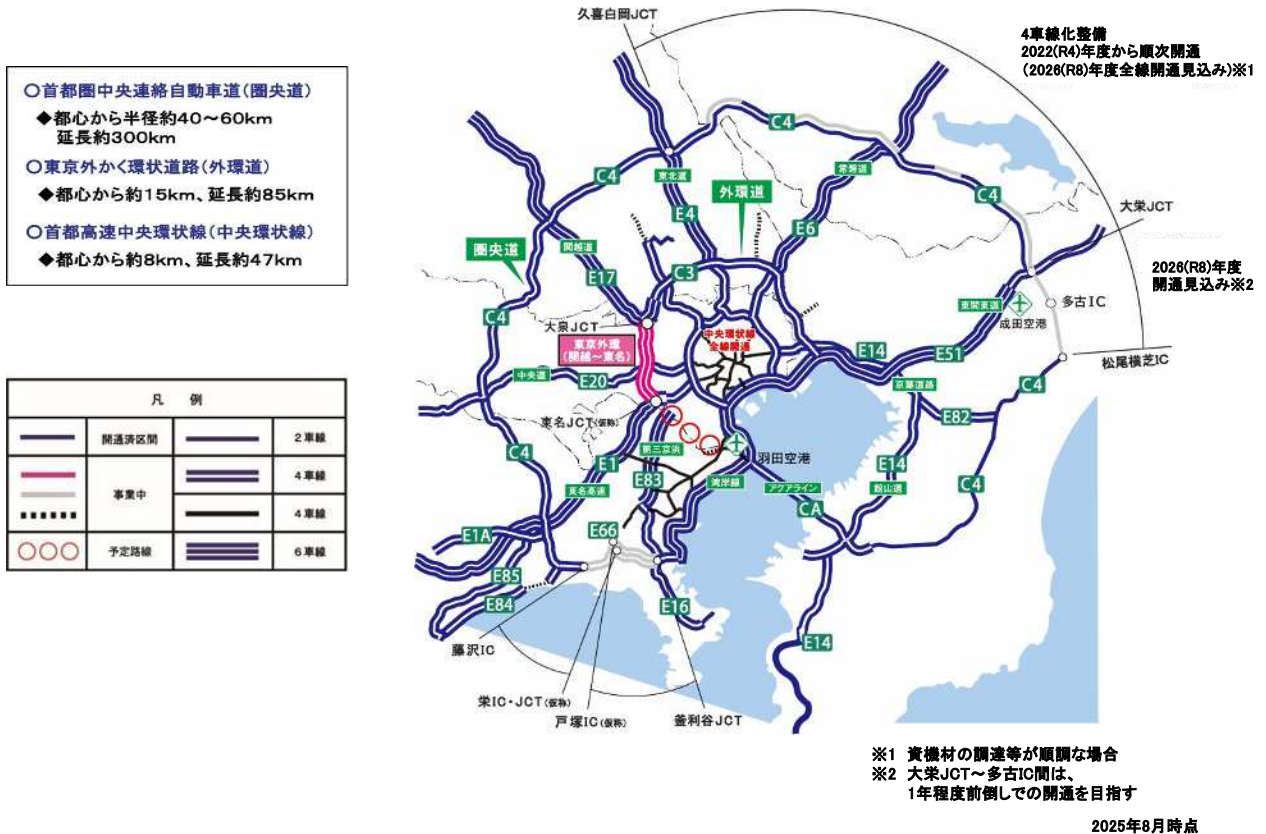
▪ 事業概要	1
▪ これまでの経緯	3
▪ 地盤補修の施工計画	7
▪ 地盤補修の進捗状況	13
▪ 隣接地の地盤の確認状況	15
▪ 入間川で発生した気泡	17
▪ 地下水への影響	20
▪ 振動・騒音対策	25
▪ 緊急時の対応	27
▪ その他の取り組み	30
▪ 地盤補修工事に関するお知らせ	31
▪ 補償	32
▪ 相談窓口・お問い合わせ先	36

東京外かく環状道路の概要

首都圏三環状道路の概要

首都圏三環状道路は、都心部の慢性的な交通渋滞の緩和及び、環境改善への寄与等を図り、さらに、我が国の経済活動の中核にあたる首都圏の経済活動と暮らしを支える社会資本として、重要な役割を果たす道路です。

近年の開通により、首都圏全体の生産性を高める重要なネットワークとしてストック効果を発揮しています。



東京外かく環状道路の全体計画

全体計画と幹線道路網図



[JCT・ICは仮称・開通区間は除く]

東京外かく環状道路は、都心から約15kmの圏域を環状に連絡する延長約85kmの道路であり、首都圏の渋滞緩和、環境改善や円滑な交通ネットワークを実現する上で重要な道路です。

関越道から東名高速までの約16kmについては、平成21年度に事業化、平成24年4月には、東日本高速道路(株)、中日本高速道路(株)に対して有料事業許可がなされ、国土交通省と共同して事業を進めています。

東京外かく環状道路(関越～東名)の計画概要

(平成19年4月6日 都市計画変更(高架→地下))
 (平成27年3月6日 都市計画変更(地中拡幅部))

平面図



計画概要

延長: 約16km

高速道路との接続: 3箇所

- ・東名JCT(仮称)
- ・中央JCT(仮称)
- ・大泉JCT

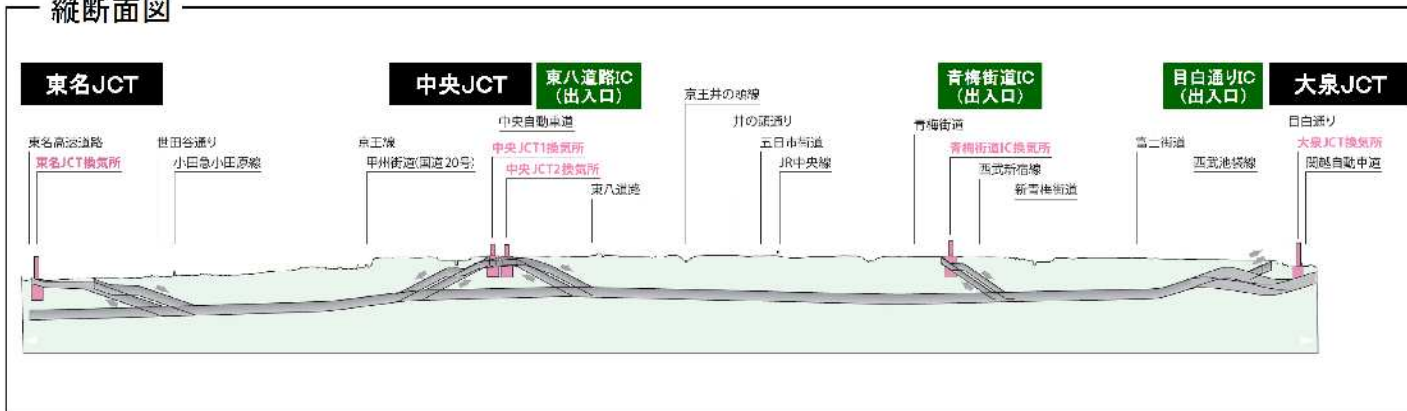
出入口: 3箇所

- ・東八道路IC(仮称)
- ・青梅街道IC(仮称)
- ・目白通りIC(仮称)

構造形式: 地下式

(41m以上の大深度に計画)

縦断面図



(JCT・ICは仮称。開通区間は除く)

トンネル完成イメージ



住民の皆さまへ

令和2年10月18日、調布市東つつじヶ丘2丁目付近において地表面陥没を確認、それ以降も地中に空洞が発見され、周辺にお住まいの皆さまにはご迷惑、ご心配をおかけしておりますことを心よりお詫び申し上げます。

わたしたち事業者は事故発生直後より、ただちに有識者委員会を立ち上げ、事故原因の特定を行った結果、シールドトンネルの施工に課題があったことが確認されました。現在、地盤の補修範囲にお住まいの皆さまへ、仮移転または事業者による買取等のお願いをさせていただくとともに、令和4年12月からプラントヤード等の整備や管路等の設置工事、家屋の解体工事を進め、令和5年8月から地盤補修に着手しております。

本日は、現在の地盤補修工事の進捗及び今後の予定についてご説明させていただきます。

住民の皆さまのご不安な気持ちを早く解消していただくため、少しでも早い地盤補修の実施に向けて家屋の解体工事や地盤補修工事を進めてまいります。

地盤補修工事のこれまでの経緯

■これまでの経緯

2020年

- | | |
|------------|---|
| 10月18日 | 地表面の陥没を確認
応急措置として砂による埋土を実施(翌朝埋土完了) |
| 10月19日 | 第1回 有識者委員会※を開催 |
| 10月23日 | 第2回 有識者委員会を開催 |
| 11月 3日 | 陥没箇所から約40m北にて、空洞①を確認
(11月24日充填作業完了) |
| 11月 5日 | 第3回 有識者委員会を開催 |
| 11月6日、7日 | 陥没箇所周辺の方を対象とした説明会を開催(計3回) |
| 11月21日 | 陥没箇所から約30m南にて、空洞②を確認
(12月3日充填作業完了) |
| 11月27日 | 第4回 有識者委員会を開催
陥没箇所周辺の方を対象に家屋中間調査の意向確認を開始 |
| 12月18日 | 第5回 有識者委員会を開催
・陥没・空洞の要因分析(中間とりまとめ) |
| 12月20日、21日 | 陥没箇所周辺の方を対象とした説明会を開催(計3回) |
| 12月25日 | 専用フリーコールを開設 |

※トンネルの構造、地質・水文、施工技術等について、より中立的な立場での確認、検討することを目的として設置。

地盤補修工事のこれまでの経緯

2021年

1月 8日

家屋補償等に関する相談窓口を開始

1月14日

陥没箇所から約120m北にて、空洞③を確認
(1月22日充填作業完了)

2月12日

第6回 有識者委員会を開催

- ・追加調査等を踏まえたメカニズムの特定
- ・地盤の補修範囲等の特定
- ・再発防止対策の基本方針の議論

2月14日、15日

陥没箇所周辺の方を対象とした説明会を開催(計3回)

2月26日

陥没箇所周辺の各戸訪問(約1,000世帯)を開始

3月19日

第7回 有識者委員会を開催

- ・再発防止対策の確定
⇒報告書の公表

4月 2日～7日

陥没箇所周辺及び沿線7区市の方を対象とした説明会を開催
(計10回)

4月19日

常設の相談窓口(つつじヶ丘相談所)を開設

9月10日

トンネル坑内からの調査結果に基づく地盤補修範囲の特定

地盤補修工事のこれまでの経緯

2021年

- 12月10日、11日 現場視察会を開催
- 12月14日 調布市域(入間川東側エリア)における追加調査結果の公表
- 12月17日、18日 『地盤調査状況及び地盤補修に関する検討状況のご説明』

2022年

- 3月27日、28日 『陥没・空洞箇所周辺にお住まいの方を対象としたオープンハウス』
- 9月11日、12日 『地盤補修工事の全体計画の検討状況をご説明するオープンハウス』
- 10月 7日、 8日 『地盤補修工事の全体計画に関するオープンハウス』
- 12月21日 地盤補修に向けた準備工事に着手

2023年

- 1月17日 家屋解体に着手
- 6月 9日～12日 『地盤補修の施工に関する見学会』
- 6月16日、17日 『地盤補修の施工に関するオープンハウス』
- 8月 2日 地盤補修に着手

2024年

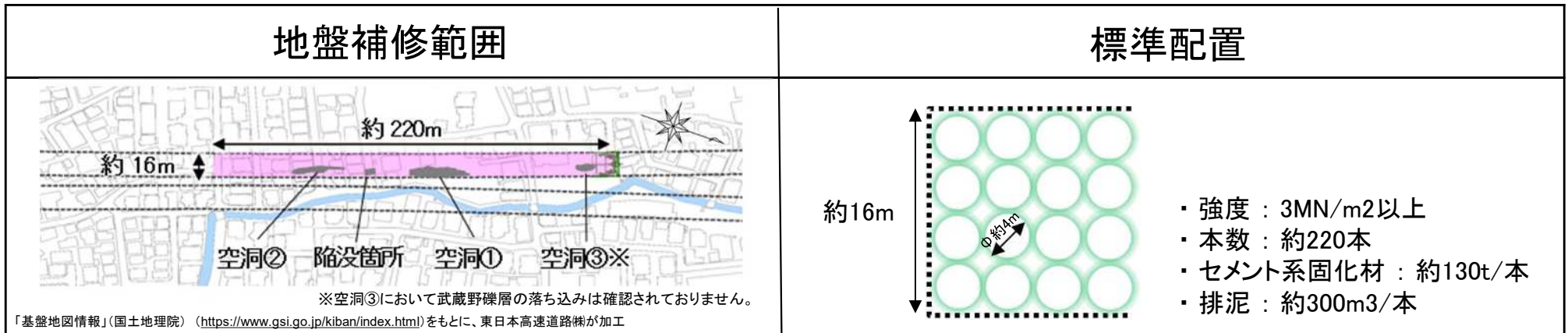
- 5月31日、6月1日 『地盤補修の施工状況に関するオープンハウス』
- 12月21日 『地盤補修の施工状況等に関するオープンハウス』

2025年

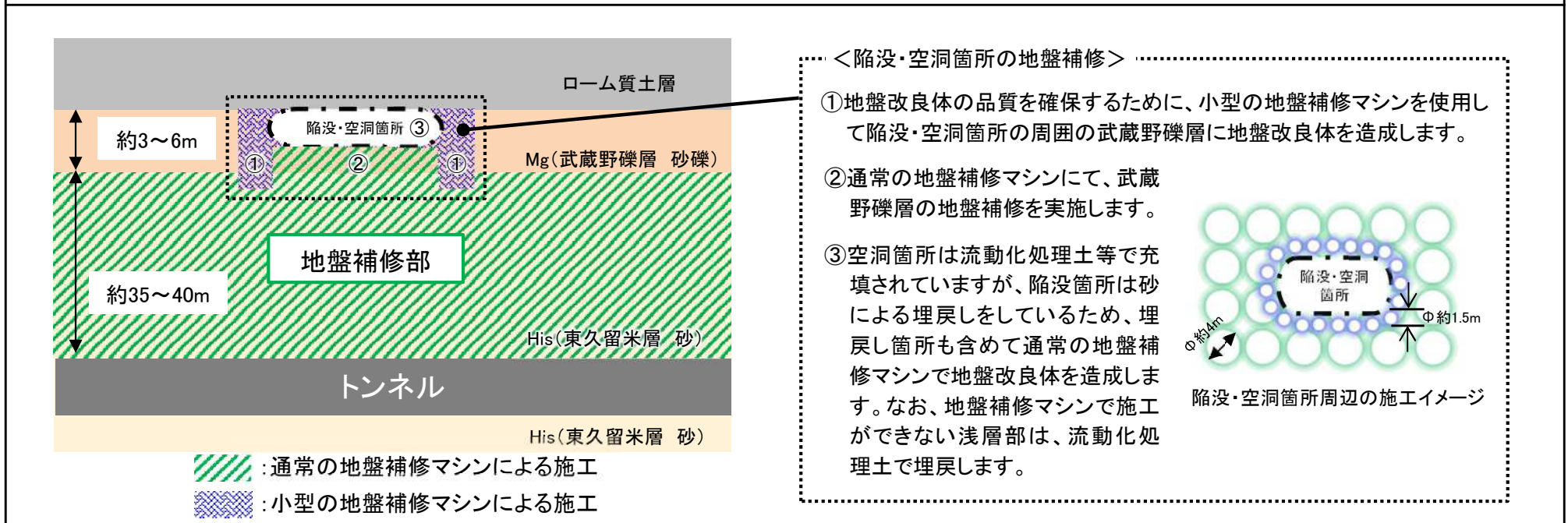
- 4月25日 『地盤補修等に関する意見交換の場』
- 8月30日 『地盤補修の施工状況等に関するオープンハウス』
- 12月20日 『地盤補修の施工状況等に関するオープンハウス』

地盤補修の範囲と方法

- 地盤補修範囲に地盤改良体を連続配置することで、元の地盤強度(N値50相当)に戻します。
- 地盤補修は、トンネル上の東久留米層(砂層)を対象に実施しています。
- 武蔵野礫層の落ち込みが確認された陥没・空洞箇所では、武蔵野礫層も地盤補修を実施します。



断面図



地盤補修の作業フロー

○家屋解体後、高圧噴射攪拌工法を用いて地盤補修を下記の通り実施しています。

作業フロー

家屋解体完了



地盤補修範囲の境界に沿って仮囲いの設置



整地



地盤補修マシンの据付



削孔※



地盤改良体造成

地盤改良体造成後、次の箇所に地盤補修マシンを移動

家屋解体完了



仮囲いの設置



整地



地盤補修マシンの据付



削孔・地盤改良体造成
(通常の地盤補修マシン)



削孔・地盤改良体造成
(小型の地盤補修マシン)

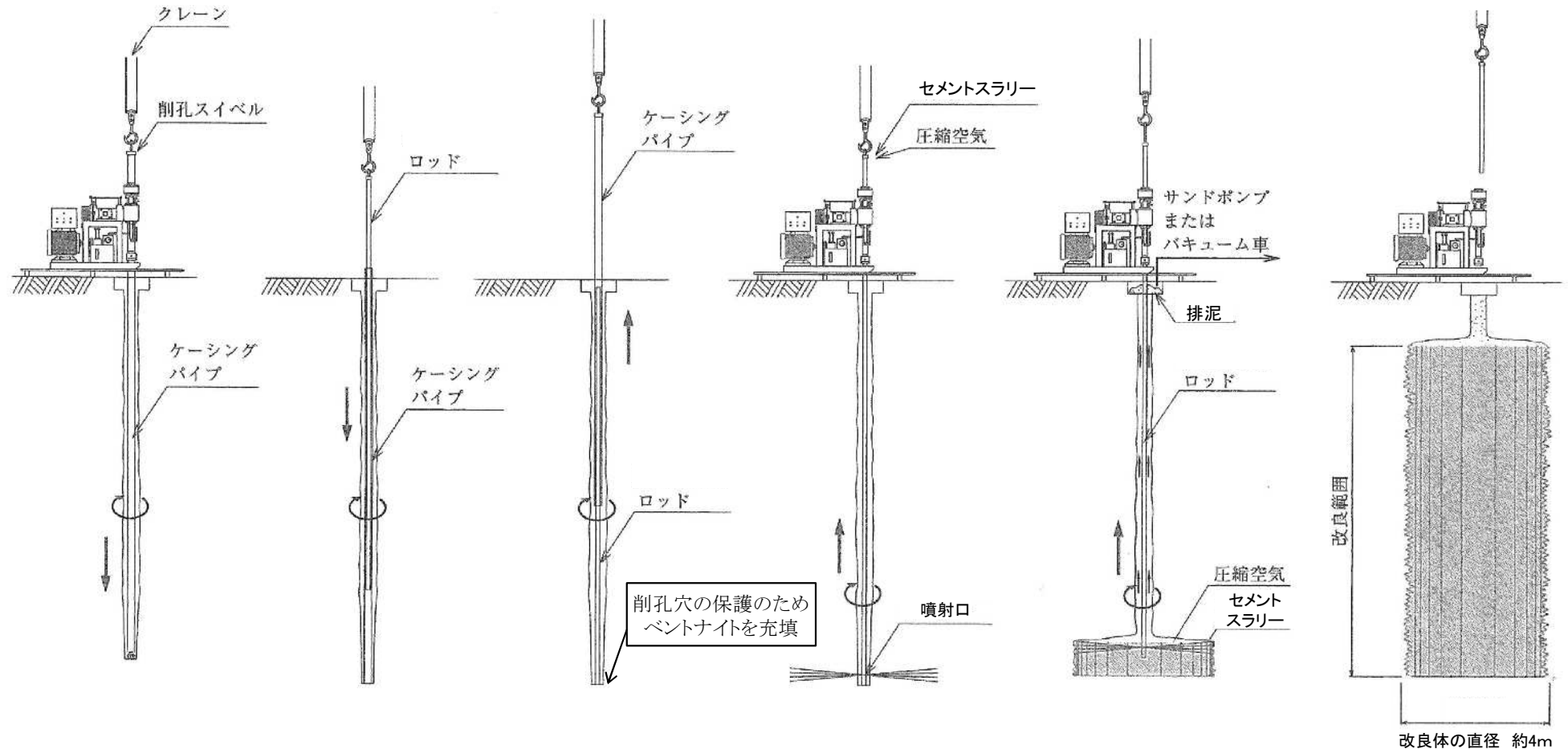


※削孔を用いた物理探査にて隣接地の地盤を確認します。

高圧噴射攪拌工法の施工ステップ

- 高圧噴射攪拌工法は、固化材料(以下、セメントスラリーという)を土中に噴射しながら土と混合攪拌して、円柱状の改良体を造成する工法です。
- 地盤改良体の施工は、1本あたり概ね5日程度要します。
- 地盤補修マシンは、最大4基で施工します。

①ケーシングパイプによる削孔 → ②ロッド挿入 → ③ケーシングパイプ引抜き → ④地盤改良体造成 (造成開始 ⇒ 造成中 ⇒ 造成完了)



地盤補修の施工等の確認

○地盤補修時には、地盤改良体の位置や深度、噴射圧力を確認し、地盤補修範囲の隣接地に影響を及ぼさないように適切に施工するとともに、地盤改良体の強度を確認しています。

①位置	②深度	③噴射圧力
 <p>衛星を利用した位置計測機器</p> <p>測量を行い、削孔位置が所定の位置にあることを確認しています。</p>	 <p>パイプの残尺を計測</p> <p>削孔に使用したパイプの残尺を計測し、削孔した孔が所定の深さに達していることを確認しています。</p>	 <p>圧力計を用いて、セメントスラリーの噴射圧力が設定値であることを確認しています。</p>

④地盤改良体の強度

【一軸圧縮強度試験】



ボーリング実施状況



一軸圧縮試験

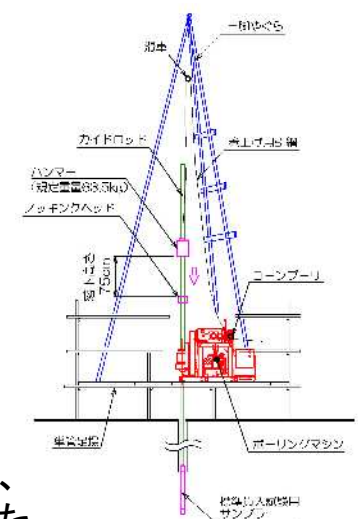
ボーリングにて採取したコアで一軸圧縮強度試験を行い、地盤改良体が必要とする強度(3MN/m²以上)を確保していることを確認しています。

【標準貫入試験】



実施状況

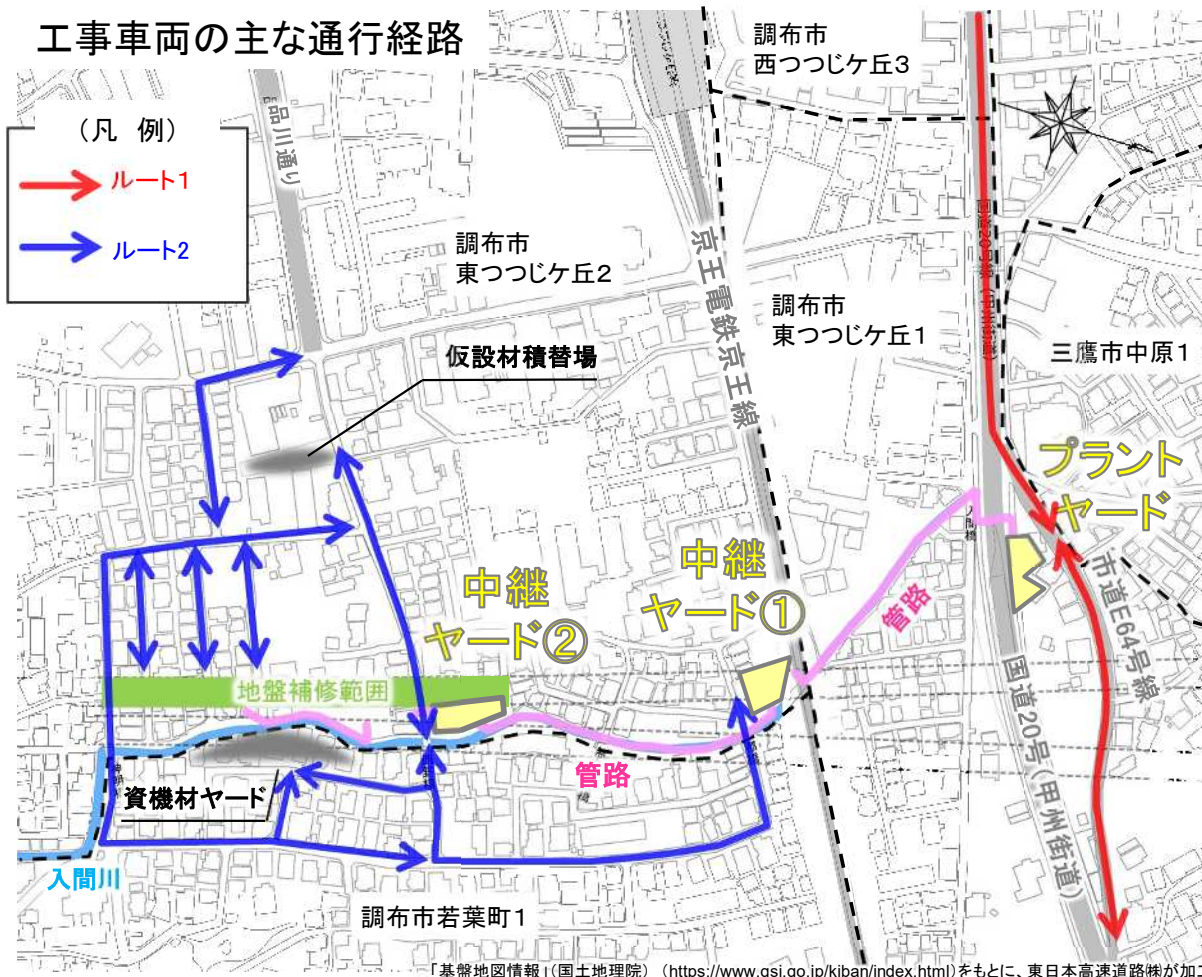
地盤改良体で標準貫入試験を行い、N値50相当であることを確認しました。



装置の概要図

地盤補修施工時の工事車両の主な通行経路

- プラントヤードへの工事車両は、国道20号(甲州街道)、市道E64号線を通行して資機材の運搬や排泥の搬出を行っています。
- また、仮設材積替場から地盤補修箇所及び中継ヤード、資機材ヤードの各ヤードへは、4tトラック等を使用して資機材を運搬しています。
- 工事車両が集中しないように分散に努めます。



地盤補修施工時の主な通行車両



12tセメントローリー車

10tタンク車

通行時間: 8時30分～17時(土日祝日無し)
 通行台数: 40～80台程度/日(5～10台程度/時間) ルート1

地盤補修施工時の主な通行車両



4tトラック

2tダンプ

通行時間: 8時30分～17時(土日祝日無し)
 通行台数: 数台程度/日

ルート2

地盤補修工事の作業日と作業時間

工種	作業時間及び工事車両通行時間						
	月	火	水	木	金	土	日
管路設置	作業時間 8時00分～17時00分(準備・後片付け含む)					休 工	
家屋解体	※祝休日、夏期休暇及び年末年始は休工						
	工事車両通行時間 8時30分～17時00分						
地盤補修	※児童・園児の登下校時間帯は、工事車両の通行を可能な限り少なくするよう配慮致します。						

※不測の事態により上記時間外作業を行う場合は、周辺にお住まいの皆さまにお知らせします。

※異常気象等の予測できない突発的な事象が発生した場合は、第三者被害が生じないように工事区域の点検・対策等で時間に関わらず作業を行う場合があります。

※市道を交通規制し作業する場合は、周辺にお住まいの皆さまへ事前にお知らせします。

※作業音がほとんど発生しない調査等については、土曜日・祝日に実施する場合があります。

作業を実施する場合は、周辺にお住まいの皆さまへ事前にお知らせします。

地盤補修の進捗状況

<地盤補修の進捗状況(令和7年11月30日時点)>

- 令和5年8月から地盤補修に着手し、地盤改良体約220本のうち概ね6割の造成が完了しています。
- 地盤補修範囲の仮移転・買取の対象は約30件で、現在までに26件の家屋解体が完了しています。
- 地盤補修後の土地利用については、地盤補修後にお住まいになる皆さま、地盤補修範囲周辺にお住まいの皆さまのご意見をお聞きし、自治体と調整しながら、検討を進めてまいります。

<地盤補修期間>

- 令和6年12月のオープンハウスにて「令和4年12月の準備工事着手から概ね2年程度を想定していた地盤補修工事の期間は、1年程度延長となる見込み※」とお知らせしておりましたが、現在の家屋解体や地盤補修の進捗状況を踏まえ、地盤補修工事の期間は更に1年程度延長となる見込み※です。
- 引き続き、地盤補修範囲にお住まいの皆さまへは丁寧に仮移転・買取についてお願いさせていただき、責任を持って地盤補修を実施してまいります。



市道・私道上の地盤補修状況

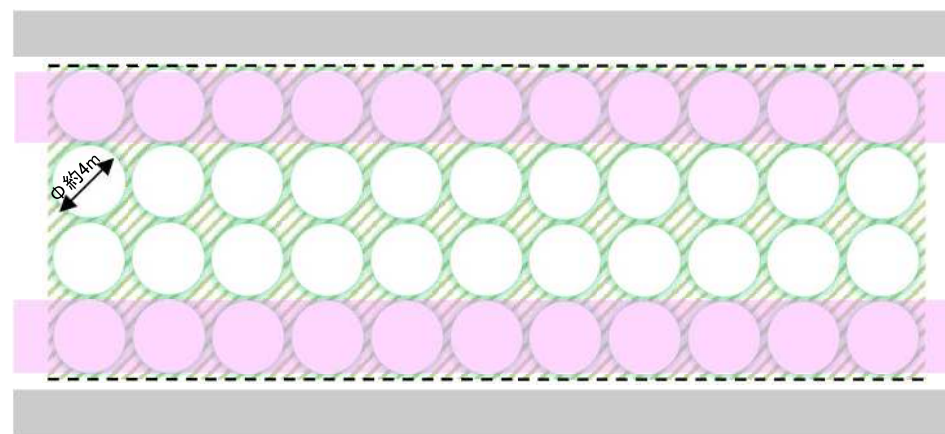
- 地盤補修範囲を横断する市道及び私道は、切り回しまたは通行止めを行い、地盤補修を実施しています。
- 市道E206号線は、令和7年9月24日に現道に復旧しました。
- 市道E293号線及び私道の通行止め解除時期は、令和8年春頃を予定しています。
- その後、市道E294号線及び市道E212号線は、家屋解体の進捗状況等を踏まえて通行止めを行い、地盤補修に着手していきます。
- 今後実施する道路の切り回し、通行止め及び現道への復旧の実施時期、期間等については、事前に周辺の皆さまにチラシ・掲示板上でお知らせします。



隣接地の地盤の確認状況

- 地盤補修範囲の隣接地の地盤については、地盤補修にあわせて、物理探査（S波検層）やボーリング調査を基本に確認を行います。
- 具体的な調査箇所については、事前に周辺の皆さまにチラシ・掲示板でお知らせします。
- 引き続き調査を実施し、調査結果については改めて周辺の皆さまにお知らせします。

地盤の確認



凡例

- ボーリング調査実施範囲
- 物理探査実施範囲

※物理探査は、地盤補修の削孔を用いて行います。

確認フロー

家屋解体・整地等



物理探査（S波検層）



ボーリング調査（標準貫入試験）



確認結果の評価

確認時の騒音対策

調査時は資機材を囲い騒音対策を行います。

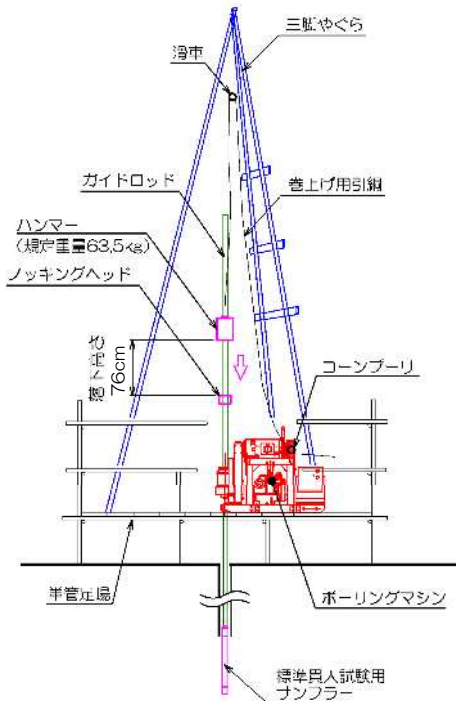


地盤補修範囲の隣接地における地盤の確認

ボーリング調査(標準貫入試験)

【標準貫入試験】

地盤の工学的性質(N値)等を求めるために行われる試験で、地盤の安定性を推定する値を得るための調査です。



装置の概要図



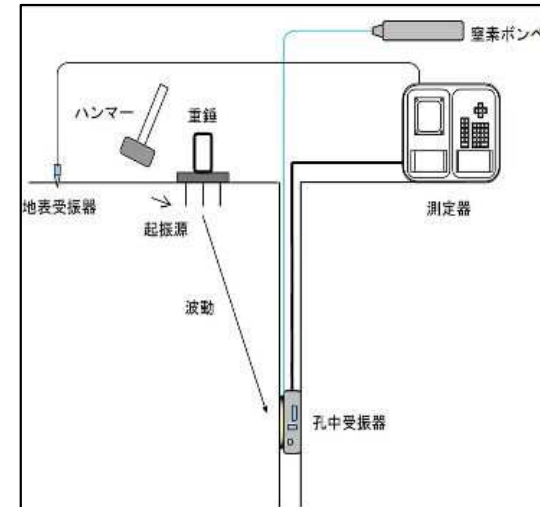
調査状況のイメージ

※調査時は資機材を囲い騒音対策を行います。

物理探査(S波検層)

【S波検層】

地盤補修の削孔を用いて、地盤内を伝播する弾性波の伝播時間を測定し、地盤のS波速度を求めることで地盤の状況を把握するための調査です。



探査状況のイメージ

入間川で発生した気泡（概要）

- 令和5年11月2日の地盤補修工事の改良体造成作業中に入間川において発生した気泡について、周辺環境への影響を確認するため地盤補修に関する削孔及び造成作業を一時中止し、気体調査等を行いました。
- 気泡が発生した原因や発生した空気が周辺環境へ影響を与えるものではないことを有識者に確認し、令和6年2月5日から地盤補修に関する削孔及び造成作業を再開しています。

気泡の発生原因(推定メカニズム)	安全・安心確保に向けた取組み
<div data-bbox="123 542 1321 1260"> <p>断面図</p> <p>造成ロッド</p> <p>入間川</p> <p>ローム質土層</p> <p>Mg (武蔵野礫層 砂礫)</p> <p>His (東久留米層 砂)</p> <p>噴射した圧縮空気は改良体の造成時にエネルギーを失う</p> <p>改良体</p> <p>排泥+空気の流れ</p> <p>(拡大)</p> <p><空気が流れるイメージ(拡大)></p> <p>漏出した空気は、大気圧相当で移動するため、地盤への影響はないものと推定</p> <p>ローム質土層</p> <p>地下砂</p> <p>Mg (武蔵野礫層 砂礫)</p> <p>His (東久留米層 砂)</p> <p>空気</p> <p>排泥</p> <p>削孔穴</p> <p>入間川</p> </div> <div data-bbox="649 1276 1344 1500"> <p>①削孔穴の中から一部の空気が、空気を通しやすい武蔵野礫層へ漏出する。</p> <p>②空気を通しにくいローム質土層が蓋となり、空気は武蔵野礫層内を横方向に移動する。</p> <p>③造成箇所が入間川に近接していたため、移動した空気は入間川の河床等から出て気泡が発生する。</p> </div>	<div data-bbox="1366 542 2083 1197"> <p>安全・安心確保に向けた取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 監視員の配置 河川内を監視する専属の監視員を配置します。 ・ 酸素濃度の計測 気泡の発生が確認された場合は、周辺の酸素濃度の計測を実施し、結果については、掲示板等でお知らせします。 ・ 地表面等のモニタリング これまで実施している周辺地域の地表面の変位計測や造成箇所周辺の地表面監視に加えて、河川管理施設の計測を実施します。 ・ 個別のご対応 酸素濃度の計測等のお申し出をいただいた場合は、個別に対応します。 </div> <div data-bbox="1388 1212 2083 1500"> <p>監視員配置状況</p> <p>酸素濃度の計測イメージ</p> <p>計測位置</p> </div>

入間川で発生した気泡（調査結果）

○令和5年12月に実施した気体調査等の結果は以下の通りです。

変状調査

○点検と測量の結果、気泡の発生前後で、造成作業実施箇所周辺や河川管理施設、地表面に特段の変状は確認されませんでした。



変状調査(点検)



変状調査(測量)

気体調査

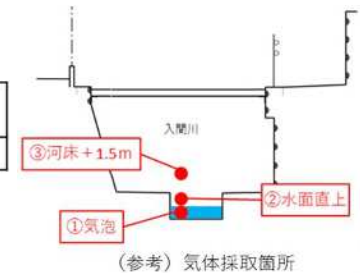
○気泡自体の酸素濃度は、基準値を満足しており、大気中の酸素濃度と同程度でした。

○また、有識者へ結果を報告し、発生した気体が大気に影響を与えていない事を確認しています。

<採取した気体を測定した酸素濃度>

酸素濃度	①気泡	②水面直上	③河床+1.5m
基準値：18%(vol)以上 (酸素欠乏症等防止規則より)	20.2%(vol)	21.2%(vol)	21.4%(vol)

なお、気体の発生量は0.67L/minでした。



水質調査

○河川内の水質調査の測定値は、気泡発生箇所の上流側と下流側を比較しても大きな変化はありませんでした。

○また、有識者へ結果を報告し、発生した気泡が河川の水質に影響を与えていない事を確認しています。

1) 水素イオン濃度を測定

水素イオン濃度 (pH)	調査箇所	気泡発生前 (8時頃)	気泡発生中 (13時頃)	気泡発生後 (16時頃)
	上流側	8.8	9.3	8.1
気泡	8.7	9.3	8.1	
下流側	8.7	9.4	8.2	

※今回、調査時間が昼頃であることから、藻類等の繁茂に伴う光合成の影響により、気泡発生中の数値が上昇したものと推定しています。

3) 水の濁りを測定

浮遊物質量 (計測下限値1mg/L)	調査箇所	気泡発生前 (8時頃)	気泡発生中 (13時頃)	気泡発生後 (16時頃)
	上流側	1mg/L未満	1mg/L未満	1mg/L未満
気泡	1mg/L未満	5mg/L	1mg/L未満	
下流側	1mg/L未満	3mg/L	1mg/L未満	

※河床の泥分等が巻き上げられ、一時的に気泡発生中の数値が上昇したものと推定しています。

2) セメント分に含まれる六価クロムの含有量を測定

六価クロム含有量 (計測下限値0.005mg/L)	調査箇所	気泡発生前 (8時頃)	気泡発生中 (13時頃)	気泡発生後 (16時頃)
	上流側	0.005mg/L未満	0.005mg/L未満	0.005mg/L未満
気泡	0.005mg/L未満	0.005mg/L未満	0.005mg/L未満	
下流側	0.005mg/L未満	0.005mg/L未満	0.005mg/L未満	



気泡発生状況

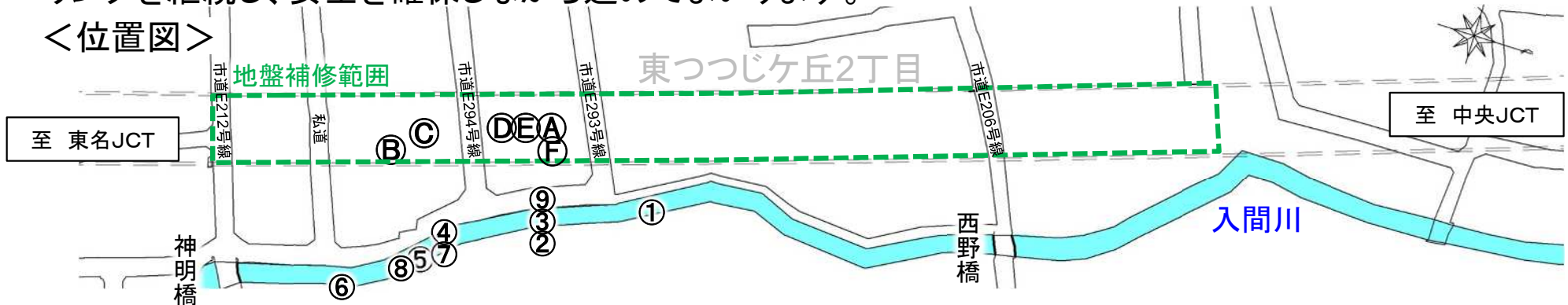


調査実施状況(水質調査)

地盤改良体造成作業中の気泡発生に伴うモニタリング結果

- 地盤改良体の造成作業中は、河川内の監視及び地表面等のモニタリングを実施し、気泡の発生が確認された際は酸素濃度計測を実施しています。
- 今後も、地盤改良体の造成作業時に空気が漏出する可能性はありますが、引き続き、周辺環境のモニタリングを継続し、安全を確保しながら進めてまいります。

<位置図>



「基盤地図情報」(国土地理院) (<https://www.gsi.go.jp/kiban/index.html>)をもとに、東日本高速道路株式が加工

<気泡の発生状況及びモニタリング結果>

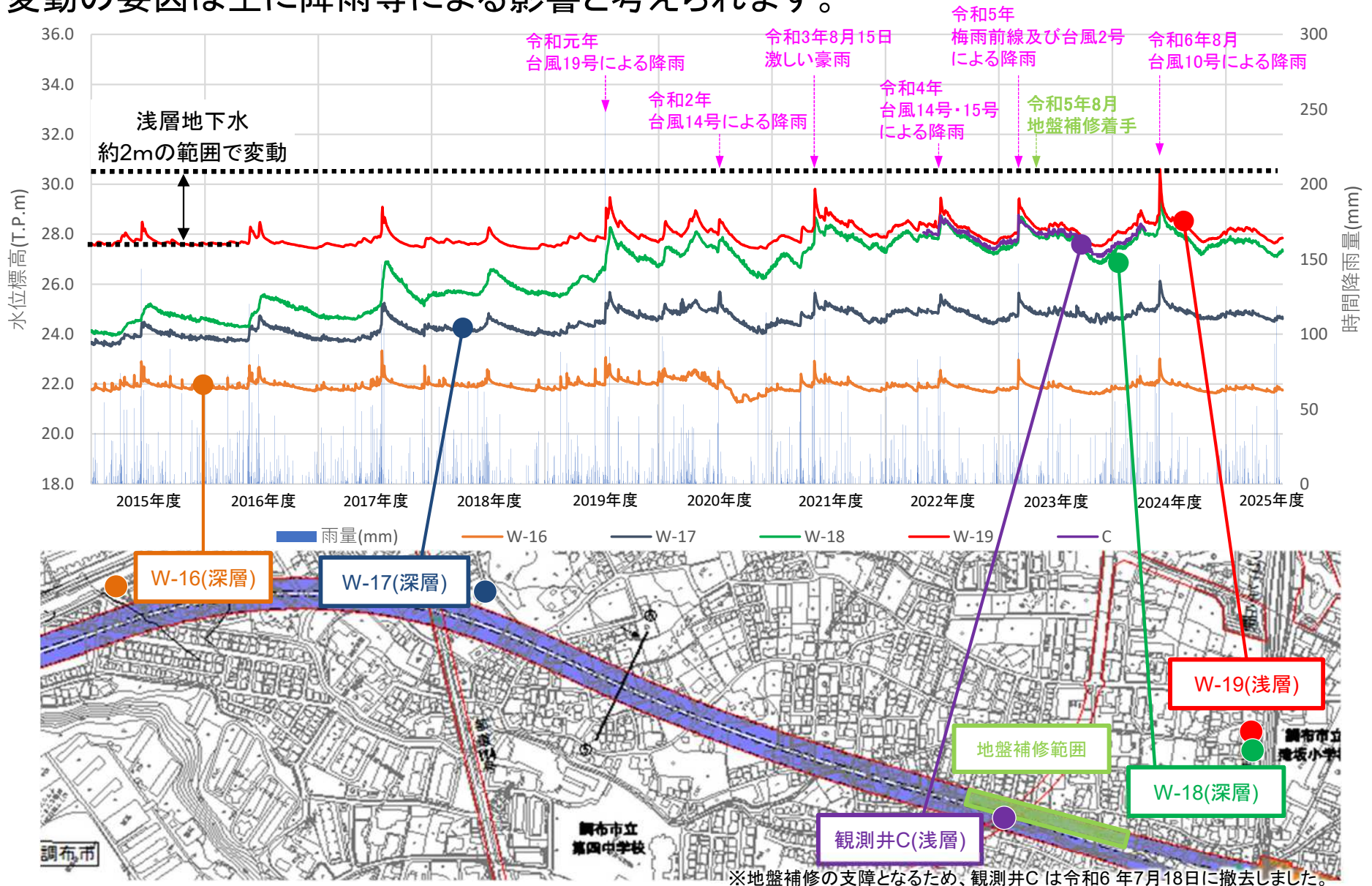
令和7年11月30日時点

日付	改良体造成位置	発生時間	発生箇所	酸素濃度計測結果※ 基準値: 18%(vol)以上 (酸素欠乏症等防止規則より)	地表面等の状況	日付	改良体造成位置	発生時間	発生箇所	酸素濃度計測結果※ 基準値: 18%(vol)以上 (酸素欠乏症等防止規則より)	地表面等の状況
R6.7.11	Ⓐ	13:30頃	⑨ 舗装目地部 (ボーリング孔跡)	- 気泡発生の確認は短時間であり、計測前に気泡発生が止まりました	異常なし	R6.10.18	Ⓒ	11:00頃	④~⑦	④~⑦21.0%(vol)	異常なし
R6.9.12	Ⓐ	12:40頃	①~⑤	①~⑤21.0%(vol)	異常なし	R6.10.24	Ⓓ	11:40頃	⑤、⑧	⑤、⑧21.0%(vol)	異常なし
R6.9.13	Ⓐ	9:55頃	③~⑤	③~⑤21.0%(vol)	異常なし	R6.11.1	Ⓔ	9:50頃	②	② 21.0%(vol)	異常なし
R6.9.17	Ⓐ	11:40頃	①~③	①~③21.0%(vol)	異常なし	R7.9.4	Ⓕ	13:00頃	⑨ 舗装目地部 (ボーリング孔跡)	⑨ 21.0%(vol)	異常なし
R6.10.1	Ⓑ	10:20頃	⑥	⑥ 21.0%(vol)	異常なし						

※簡易計測機を使用

地下水の水位変動

- 近年の地下水位は、浅層地下水(W-19(浅層))で、約2m程度の範囲で水位変動がみられます。
- 変動の要因は主に降雨等による影響と考えられます。



地下水水位の変動予測

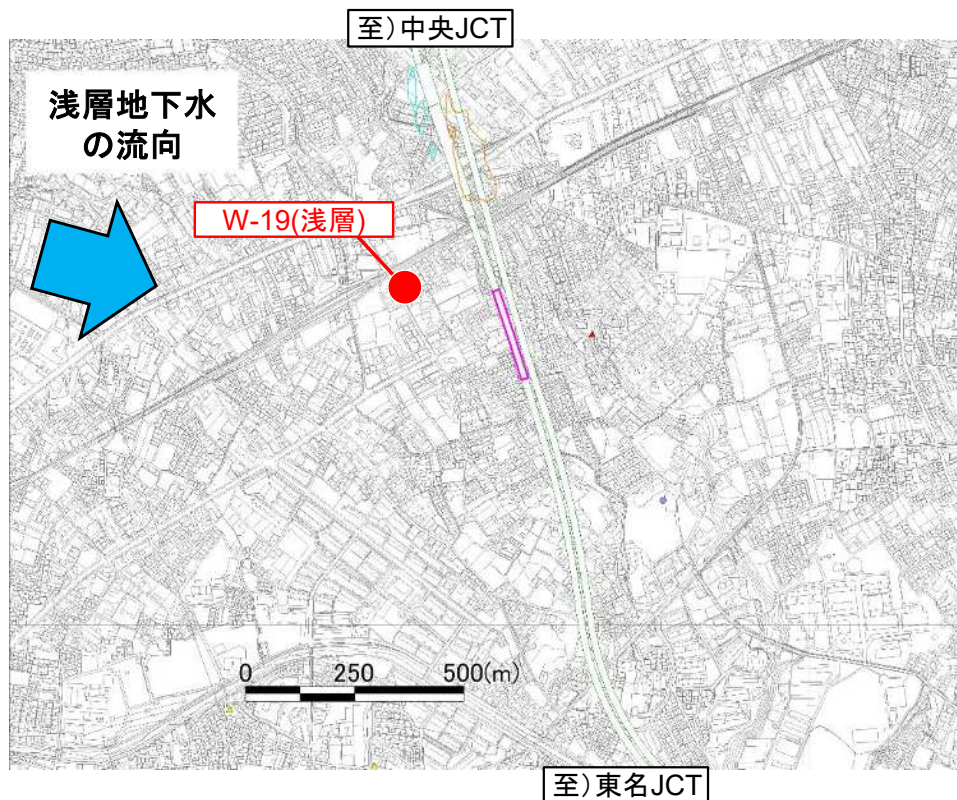
○地盤補修に伴う地下水水位変動は、地盤補修範囲を透水係数ゼロ(地下水を通さない構造)として3次元浸透流解析を行い、その結果、浅層地下水で10cm未満、深層地下水で20cm程度と予測しています。

○この変動量は、近年の降雨影響等による水位変動量と比較しても小さく、地盤補修による影響は、ごく小さいと考えています。

浅層地下水

・浅層地下水水位の変動量は10cm未満と予測しています ※1

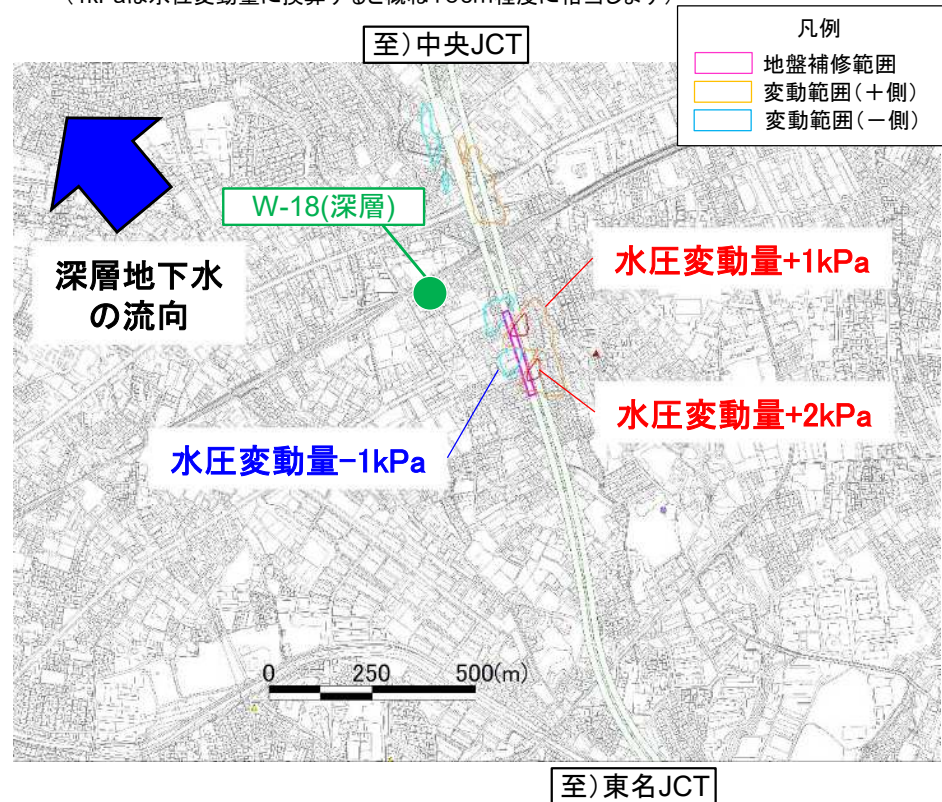
※1 : 浅層地下水水位の低下・上昇ともに10cm未満のため変動量が表示されません。



深層地下水

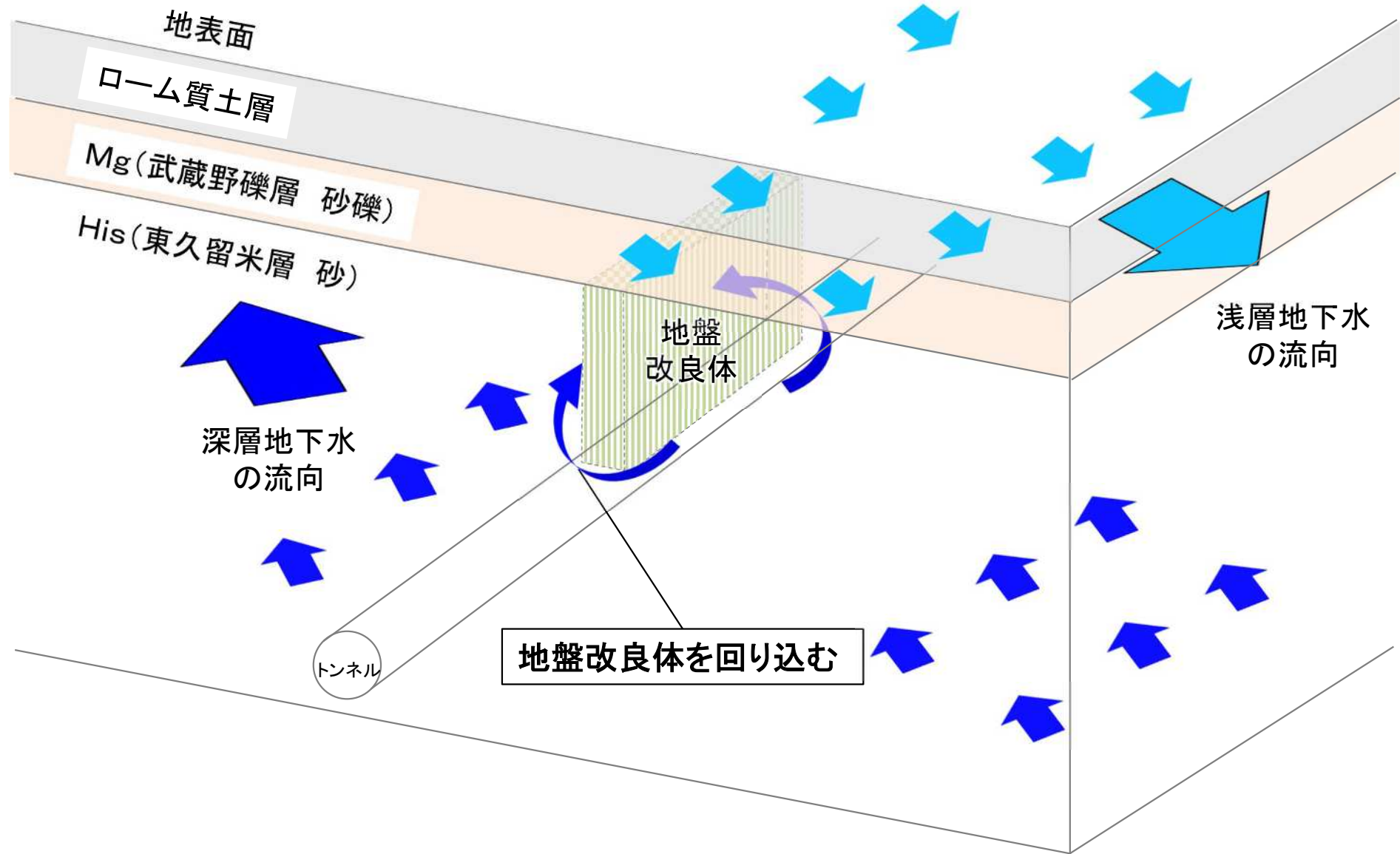
・深層地下水水位の変動量は20cm程度と予測しています ※2

※2 : 解析で得られた水圧変動量を、水位変動量に換算したものの。
(1kPaは水位変動量に換算すると概ね10cm程度に相当します)



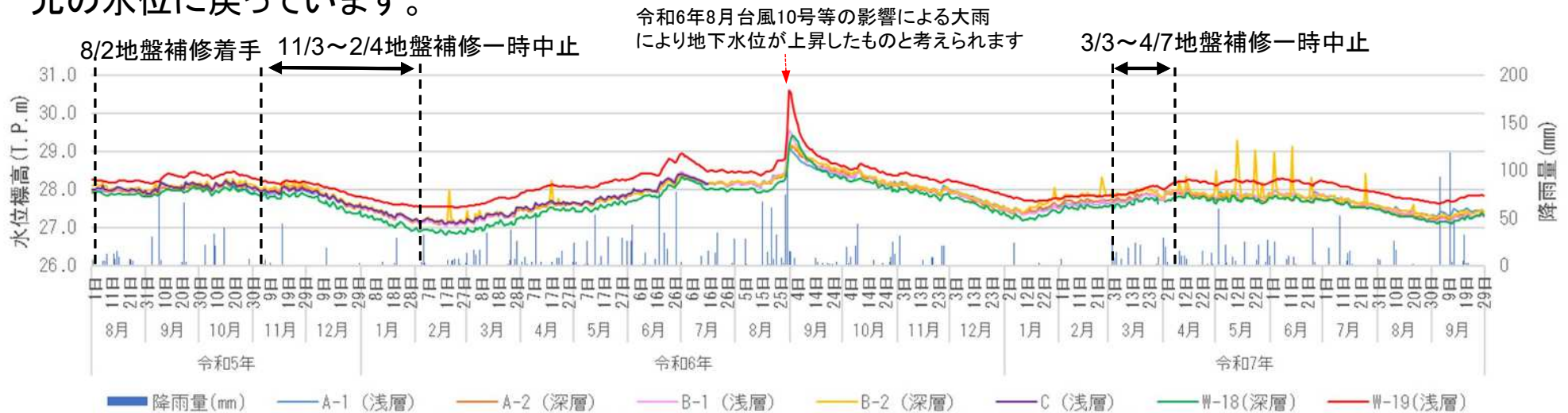
地下水の流向

- 地盤補修は、東久留米層以下を基本として、トンネル直上までを対象に行います。
- 東久留米層は、水を通しやすい地盤であり、地下水は地盤改良体を回り込みます。



地下水モニタリング結果(地下水位)

- 地盤補修による地下水への影響を確認するため、1回/日地下水位のモニタリングを実施しています。
- 地盤補修範囲近傍の地下水位は、造成作業中の一時的な変動を除き、周辺の地下水位(W-18(深層)及びW-19(浅層))と同じ傾向であるため、地盤補修は地下水位へ影響を与えていないものと考えられます。
- 観測井B-2の一時的な水位上昇は、近傍で造成作業を行った影響と考えられますが、造成完了後には元の水位に戻っています。



※地盤補修の支障となるため、観測井Cは令和6年7月18日に撤去しました。

地下水モニタリング結果（水質）

○地盤補修による地下水への影響を確認するため、定期的に地下水の水質のモニタリングを実施しています。

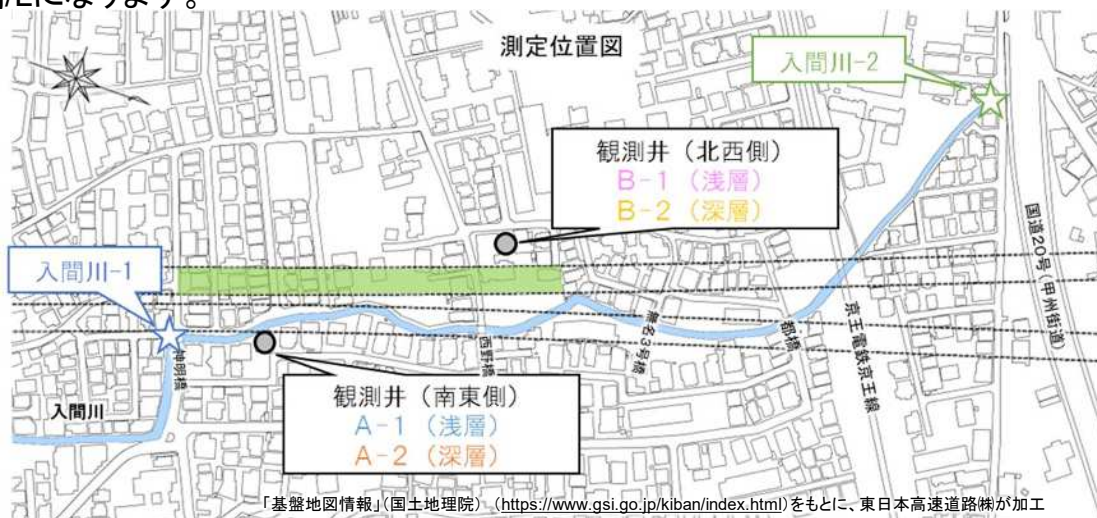
○地盤補修着手以降、水質への影響は確認されていません。

水素イオン濃度 (pH) モニタリングの結果	<u>入間川-1</u>	<u>入間川-2</u>	<u>A-1(浅層)</u>	<u>A-2(深層)</u>	<u>B-1(浅層)</u>	<u>B-2(深層)</u>
	7.0～10.7	6.7～9.6	4.7～7.0	5.6～7.5	5.8～7.8	6.3～8.2

- ・1回／日の計測を実施しています。
- ・令和5年8月から令和7年9月までのモニタリング数値の最小値と最大値を記載しています。

六価クロム モニタリングの結果	<u>入間川-1</u>	<u>入間川-2</u>	<u>A-1(浅層)</u>	<u>A-2(深層)</u>	<u>B-1(浅層)</u>	<u>B-2(深層)</u>
	0.005mg/L 未満	0.005mg/L 未満	0.005mg/L 未満	0.005mg/L 未満	0.005mg/L 未満	0.005mg/L 未満

- ・1回／月の計測を実施しています。
- ・令和5年8月から令和7年9月までの計測結果は全て同じ結果です。
- ・計測できる下限値は0.005mg/Lになります。



振動・騒音を抑制する各種の取り組み

○地盤補修着手後のモニタリング結果や現地確認状況を踏まえ、振動・騒音を抑制する各種の取り組みを行っています。

振動・騒音対策例			
<p>仮囲い(防音タイプ)</p>  <p>地盤補修の施工ヤード及び中継ヤード、プラントヤード等に仮囲い(防音タイプ)を設置しています。</p>	<p>防音パネル(金属製)</p>  <p>騒音レベルが大きい高圧コンプレッサーと超高圧ポンプは、騒音低減効果がより高い防音パネル(金属製)を設置しています。</p>	<p>防音パネル(プラスチック製)</p>  <p>その他の設備は、防音パネル(プラスチック製)を設置しています。</p>	<p>排泥タンク上部の防音</p>  <p>排泥タンクから発生する騒音を抑制するため、排泥タンクの上部に防音パネルを設置しています。</p>
<p>防音塗料・防振ゴム</p>  <p>管路と受桁の接触音を抑制するための防振ゴムの設置や、管路内の騒音を抑制するための防音塗料を塗布しています。</p>	<p>ゲートカーテン</p>  <p>工事による騒音を抑制するため、車両出入口にゲートカーテンを設置しています。</p>	<p>受電設備</p>  <p>低周波及び振動・騒音を抑制するため、発電機の代わりに、電力を受電する設備を設置しています。</p>	<p>クレーンの防音シート</p>  <p>エンジンによる騒音を抑制するため、ラフタークレーンの周囲に防音シートを設置しています。</p>

振動・騒音の測定結果

- 地盤補修施工中の振動・騒音レベルについて、測定を実施しました。
- 測定日の削孔・造成時の振動・騒音レベルについては、振動レベルL₁₀が42～51dB、騒音レベルL_{A5}が59～64dBであることを確認しました。
- 引き続き、振動・騒音の測定を実施し、振動・騒音対策の効果を検証していきます。



	①			②			③			④		
	休工時 (R7.9.13)	削孔時 (R7.9.12)	造成時 (R7.9.17)	休工時 (R6.9.7)	削孔時 (R6.9.4)	造成時 (R6.9.6)	休工時 (R6.3.9)	削孔時 (R6.3.18)	造成時 (R6.3.21)	休工時 (R5.9.2)	削孔時 (R5.9.4)	造成時 (R5.9.6)
振動レベル L ₁₀ (dB)	27	51	48	27	44	47	33	49	51	31	50	48
騒音レベル L _{A5} (dB)	45	60	59	41	59	61	54	64	63	42	61	60



	⑤		
	休工時 (R7.7.12)	削孔時 (R7.7.10)	造成時 (R7.7.14)
振動レベル L ₁₀ (dB)	29	45	42
騒音レベル L _{A5} (dB)	54	60	60

凡例

- 測定点(①～⑤)
- 地盤補修施工中箇所(①～⑤)
- 仮囲い(測定時の設置状況)



- ※振動レベルL₁₀: 振動レベルをある時間設定したとき、全測定値の大きいほうから10%目値をL₁₀と表します。
- ※騒音レベルL_{A5}: 騒音レベルをある時間設定したとき、全測定値の大きいほうから5%目の値をL_{A5}と表します。

振動規制法及び騒音規制法に示す特定建設作業の規制基準
振動レベルL₁₀: 75dB 騒音レベルL_{A5}: 85dB

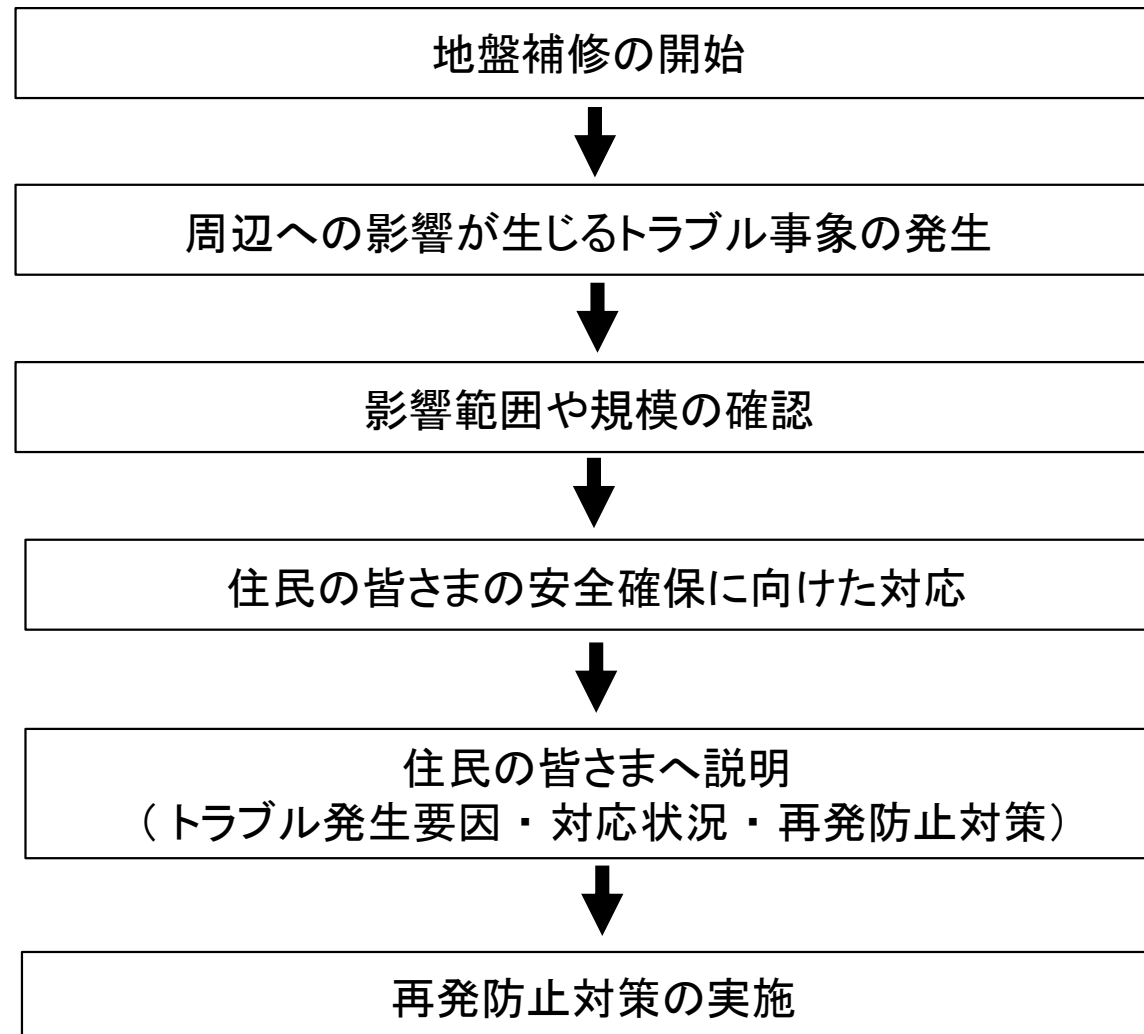
地盤補修時に想定されるトラブルと対策

○想定されるトラブル事象に対して、各種の対策を実施します。

想定されるトラブル事象	各種の対策
<p>①管路からの漏出 管路の継ぎ手部からセメントスラリーや排泥が漏れ出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 管路の接続部には、高耐圧性の継ぎ手金具を使用します。 ● 目視点検できる透明ビニルを継ぎ手部に設置し、管路を点検監視する巡回員を専任配置し、早期の異常の発見に努めます。
<p>②管路内の詰まり 管路内で排泥等が固着し、排泥が流れなくなる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 日々の作業終了後、管路に通水することで管路内を清掃し詰まりを防止します。 ● それでも詰まりが発生した場合は、高圧噴射ノズルやバキューム車により詰まりの解消を実施します。
<p>③地盤の変状 高圧噴射攪拌工法施工時、周辺地盤が変状する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 常に圧力等の状況や地表面変位等を監視しながら施工し、周辺地盤を緩めて沈下させたり隆起させたりすることがないように慎重に施工します。 ● また、地表面計測・巡回(1回/日)により早期の異常の発見に努めます。
<p>④排泥の噴出 高圧噴射攪拌工法施工時に、排泥が周辺地盤から噴き出す。</p>	
<p>⑤工事中の事故 工事用車両による交通事故、クレーンの転倒等が発生する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 現場作業時間は8時から17時としますが、工事車両は登校時間帯を避け学校始業開始後の8時30分以降より資機材の搬入や排泥の搬出を開始します。 ● 工事車両の出入り口や通行経路に交通誘導員を配置し、安全に通行します。 ● クレーン作業時は、施工基面の強度確認、アウトリガーの完全張出、強風時の中止基準(平均風速 10m/s以上)の順守を徹底して転倒を防止します。作業終了時にはブームを縮小格納します。 ● 作業開始前及び終了時の資機材の点検、作業開始前の手順書の確認やKY(危険予知)活動並びに作業従事者全員に対する毎月1回の安全教育を徹底し、トラブルの防止に最善を尽くします。

地盤補修時におけるトラブル事象への対応の流れ

- 想定されるトラブル事象の事前対策と工事中の安全対策を確実にいき、安全・安心を最優先に努めてまいります。
- 周辺への影響が確認された場合は、住民の皆さまの安全確保を最優先に行動します。



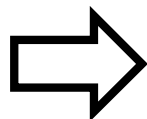
- 想定されるトラブル事象
- ① 管路からの漏出
 - ② 管路内の詰まり
 - ③ 地盤の変状
 - ④ 排泥の噴出
 - ⑤ 工事中の事故 など

地盤補修時におけるトラブル事象への対応

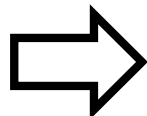
○第三者への影響が生じた場合、もしくは影響が想定される場合は、避難誘導など住民の皆さまの安全確保に努めます。

住民の皆さまの安全確保に向けた対応

1. けが人の有無や、程度を把握し、必要に応じて消防等の関係機関へ連絡します。
2. 周辺にお住まいの皆さまの避難が必要となる場合には、各戸を訪問するなど、直接お知らせした上で、安全な場所に皆さまを避難誘導します。
 - ・24時間体制で巡回する徒歩巡回員や警戒車両等により、直接、周辺の皆さまにお知らせします。
 - ・誘導員を配置し、歩行者の安全確保を行います。
 - ・必要に応じて、交通規制の実施及び誘導を行います。
 - ・バリケード等による立ち入り禁止措置を実施します。
 - ・施工の一時中止により、安全確保ができない場合、現場の保全措置を行います。
 - ・必要に応じて関係機関と連携し、対応を行います。



3. 住居や周辺道路、水道等への影響を把握し、必要に応じて関係機関と連携した対応を行います。



- ・停電や断水時における給水等の各種支援を行います。
- ・周辺道路や河川内の清掃(排泥の噴出時等)を行います。

また、現場で何かお気づきの点があれば、下記へご連絡ください。

鹿島・前田・三井住友・鉄建・西武特定建設工事共同企業体

TEL 03-6411-8723(24時間受付)

その他の取り組み

○地盤補修工事を進めるにあたり、住民の皆さまのご意見を頂きながら、下表の取り組み等を実施しています。

<p>カーブミラー設置</p>	<p>近隣小学校へ光反射キーホルダーを配布</p>	<p>入間川ぶんぶん公園の代替公園の設置</p>	<p>清掃活動</p>
			
<p>降雪時等の凍結防止剤の散布</p>	<p>工事関係者の明示</p>	<p>外部自習室の確保</p>	<p>ねずみ駆除対策</p>
	 <p>※夏季はタスキタイプも使用します。</p>	 <p>※実際の自習室にPCはございません。 ※写真はイメージです。</p>	 <p>※引き渡しを受けた家屋につきましては、専門業者の指導の下、ねずみ駆除・対策を行っています。</p>

地盤補修工事に関するお知らせ

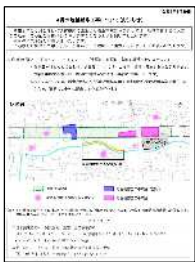
- ホームページや現場付近に設置している掲示板にて地盤補修工事の進捗状況や今後の予定、モニタリング結果等をお知らせしています。
- 地盤補修工事の1週間ごとの作業予定については、掲示板にてお知らせしています。
- 今後もオープンハウス等を開催し、地盤補修の進捗状況等をご説明します。

■ホームページでの公表 URL: <https://tokyo-gaikan-project.com/>

[メニュー] ⇒ [外環のイマ] ⇒ [陥没・空洞発生箇所地盤補修実施状況]



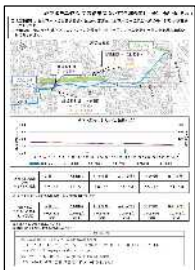
○翌月の工事予定



○地盤補修工事の進捗



○地下水モニタリング結果



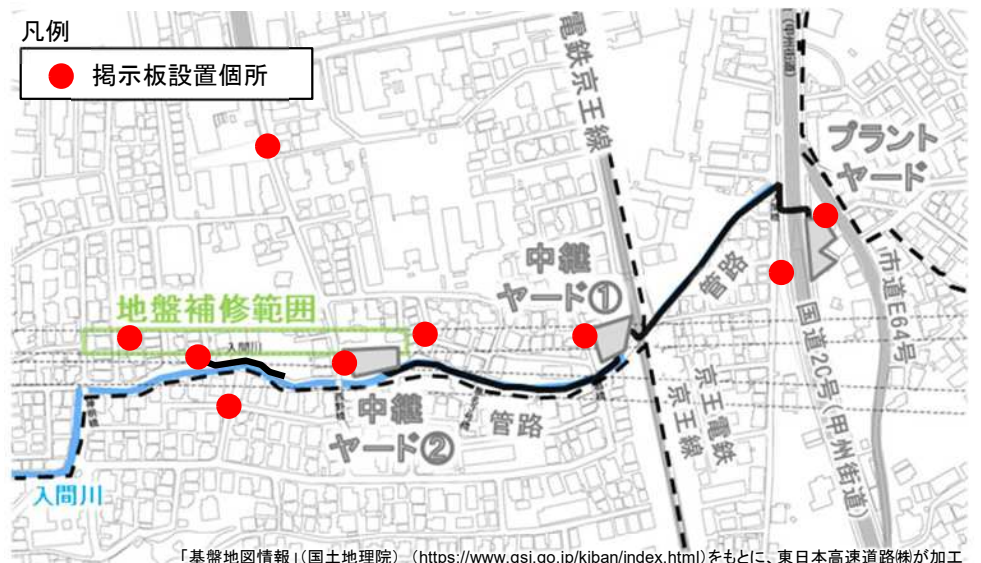
○振動・騒音測定結果



■掲示板 設置状況(令和7年11月時点)

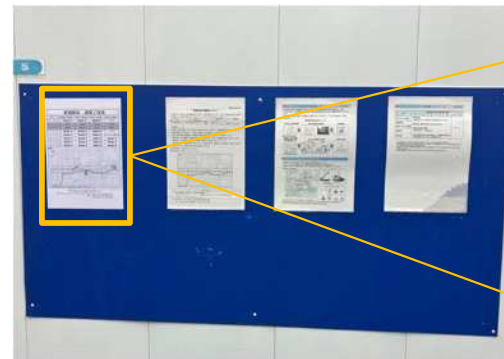
凡例

● 掲示板設置箇所



「基盤地図情報」(国土地理院) (<https://www.gsi.go.jp/kiban/index.html>) をもとに、東日本高速道路株が加工

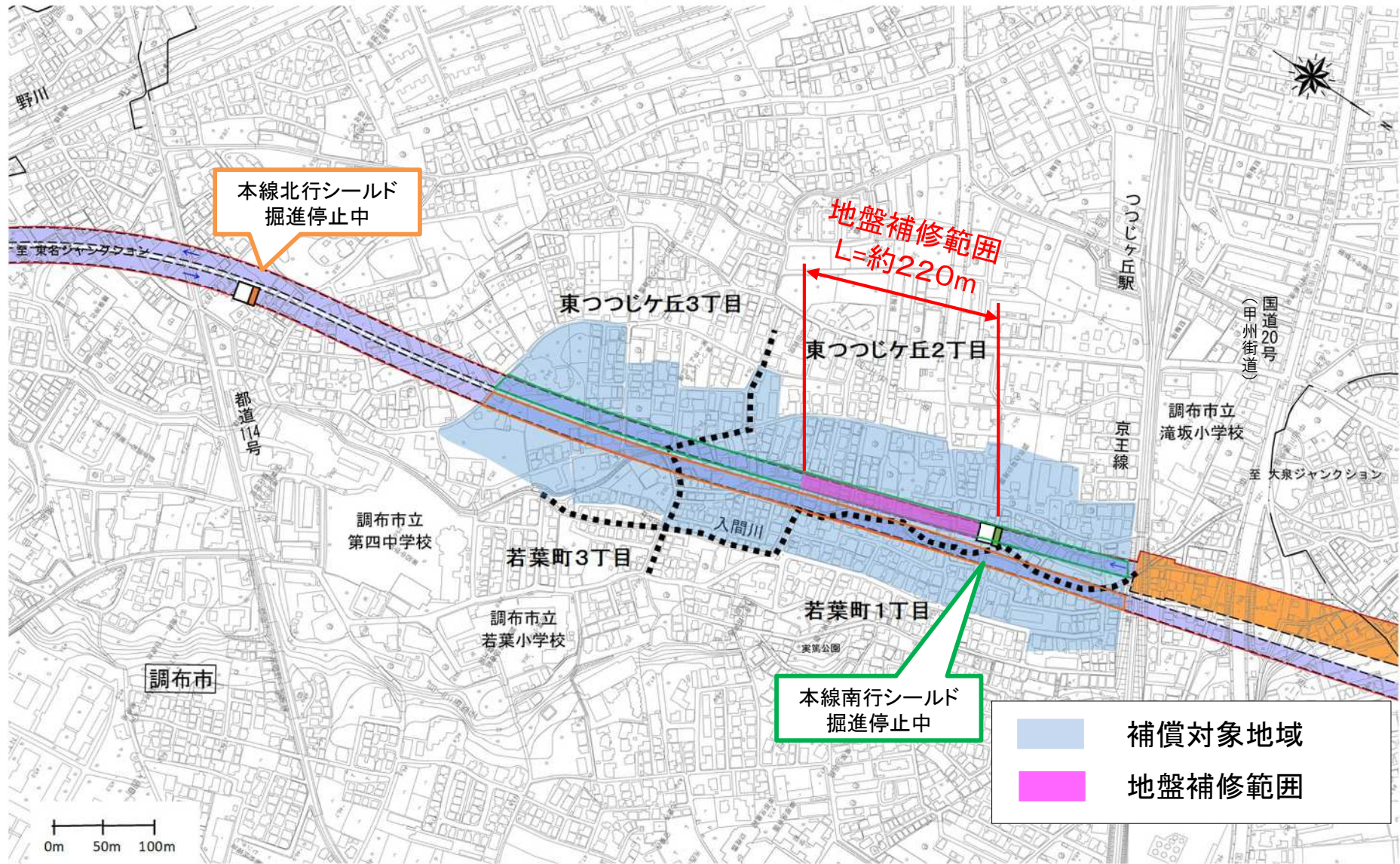
■掲示板への掲示状況



○地盤補修工事工程表

地盤補修工 進捗工程表	
作業内容	作業予定
掘削	11/13
掘削	11/14
掘削	11/15
掘削	11/16
掘削	11/17
掘削	11/18
掘削	11/19
掘削	11/20
掘削	11/21
掘削	11/22
掘削	11/23
掘削	11/24
掘削	11/25
掘削	11/26
掘削	11/27
掘削	11/28
掘削	11/29
掘削	11/30
掘削	12/1
掘削	12/2
掘削	12/3
掘削	12/4
掘削	12/5
掘削	12/6
掘削	12/7
掘削	12/8
掘削	12/9
掘削	12/10
掘削	12/11
掘削	12/12
掘削	12/13
掘削	12/14
掘削	12/15
掘削	12/16
掘削	12/17
掘削	12/18
掘削	12/19
掘削	12/20
掘削	12/21
掘削	12/22
掘削	12/23
掘削	12/24
掘削	12/25
掘削	12/26
掘削	12/27
掘削	12/28
掘削	12/29
掘削	12/30
掘削	12/31

補償等(補償対象地域・地盤補修範囲)



※上記範囲外についても損害等の申し出があった場合、因果関係等確認のうえ個別に対応を検討してまいります。

補償等(補償の方針)

(補償方針)

- 本事故により建物等に損害が発生した場合において、原則として従前の状態に修復、復元するなど原状を回復(補修)いたします。
- それ以外に実際に発生した損害につきましても補償いたします。
補償項目としては、家賃減収相当額、地盤補修工事完了後において生じた不動産売却損、疾病等による治療費などです。
- 相談窓口や個別訪問時に、皆さまから不安や被害の状況をお伺いしておりますが、実際に発生している損害は個々の事情によって異なっております。
- 引き続き状況をお伺いし、誠意をもって対応いたします。
- 地盤補修範囲にお住まいの方へ、仮移転または事業者による買取り等のご相談をさせていただいております。
- 補償に関する専門チームを設置し、個別に内容やご事情を確認しながら、誠意をもって対応してまいります。

補償等(現在の対応状況)

- 陥没・空洞箇所周辺にお住まいの約1,000世帯の皆さまへ、補償や家屋中間調査に関するご案内等を行うとともに、専用フリーコールや相談窓口等において、住民の皆さまからのご相談やお問合せ等に対応させていただいております。
- 家屋中間調査を実施したお宅の補修工事を行う等、被害の申し出をいただいた住民の皆さまに、個別の事情をお伺いし、必要な補償・補修の対応をさせていただいております。
- 地盤補修にあたり、補償対象地域においてこれまで家屋調査を実施していない方については、ご希望に応じて家屋調査を実施いたします。また、陥没・空洞事故以降にご自宅の建替えやリフォームを行われた方におきましても、ご希望に応じて家屋調査を実施いたします。
- 地盤の補修範囲にお住まいの皆さまへは、確実に地盤の補修を行うため仮移転または買取等のお願いをさせていただくとともに、調査や測量にもご協力いただきながら、地盤補修の施工を行ってまいります。

補償等(補償・補修の状況等)

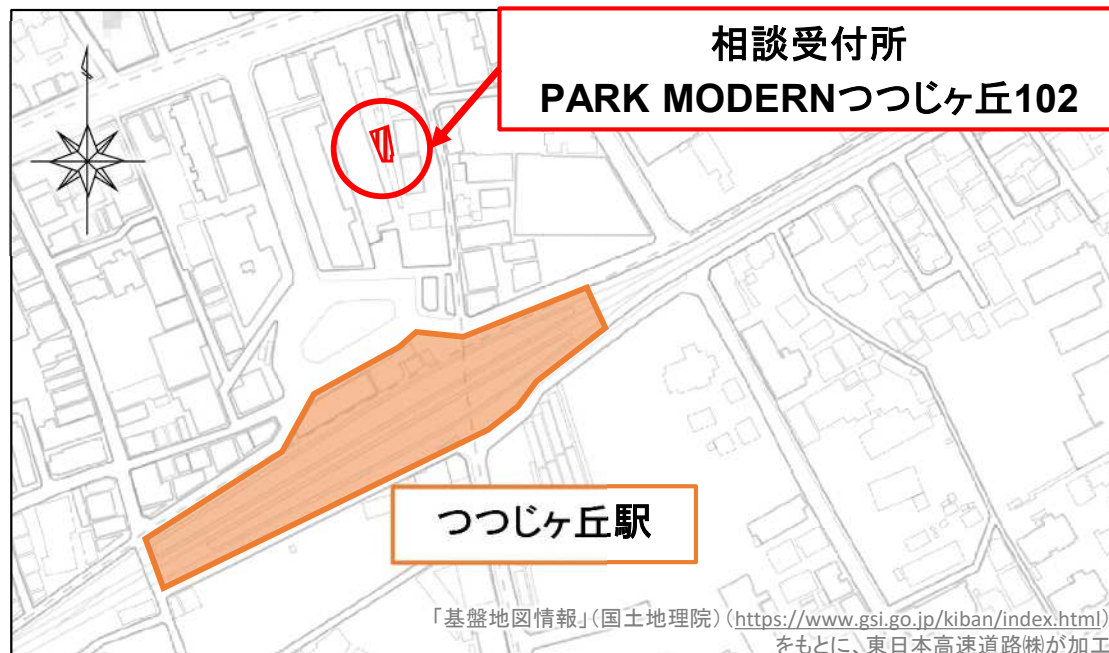
補償・補修の対応状況

令和7年11月30日時点

対応状況	件数
補償対象地域の世帯数	約1,000
家屋調査のご相談がある世帯数	約 290
うち、家屋調査が完了した世帯数	約 290
うち、 <u>家屋の補修等を実施中もしくは完了</u> となっている世帯数	約 290
上記以外の実際に発生した損害に関する補償等のご相談について対応を行っている世帯数	約 60

相談窓口・お問い合わせ先

- つつじヶ丘駅北口に、常設の相談窓口を設置しています。
- ご利用をご希望される方のご事情を踏まえて丁寧に対応させていただきます。



位置図

開設時間 : 平日 10:00~17:00

(事前予約のご協力をお願いします)

住所 : 東京都調布市西つつじヶ丘3丁目37-2

PARK MODERNつつじヶ丘102

(つつじヶ丘駅北口から徒歩2分)

TEL: 042-444-6879

※令和7年1月20日に移転し、住所及び電話番号が変わりました。



「つつじヶ丘相談窓口」の外観



地盤補修工事の関係者を名乗る不審者にご注意ください

- 地盤補修工事等の関係者を名乗る不審者が周辺家屋を訪問しているとの情報が確認されています。
- 工事のお知らせ等でご自宅を訪問する際は、鹿島JV職員またはNEXCO東日本社員がお伺いします。協力会社(下請業者)が訪問することはありません。
- 巡回員による不審者への警戒のほか、調布市や警察のパトロール頻度を強化していただいておりますが、住民の皆さまにおかれましても、十分にご注意くださいますようお願いいたします。

【訪問者が不審だと感じた場合は】

- ご自宅への訪問者が不審な場合は、自宅内へ訪問者を入れず、警察へご連絡ください。
- 訪問者が不審者かどうか迷われた場合は、訪問者の所属と氏名を確認し、お問い合わせ先(次ページ)へご連絡ください。



警察へのご連絡先

最寄りの警察署 または 警視庁総合相談センター #9110

【確認された不審者の例】

- 作業服を着た人間が鹿島JVの関係者などを名乗り訪問し、
「ご自宅周辺で作業を行うのでお知らせにきた」
「隣接地で作業を行うため敷地内に入らせてほしい」
「家屋解体の作業中にお宅の屋根に損傷を見つけた」
工事内容等を質問すると、「下請けの作業員なので、詳しいことは分からない」などと回答する例が確認されています。



お問い合わせ先

お問い合わせ内容	お問い合わせ先
<p>陥没・空洞事故に関する ご相談等</p>	 <p>東日本高速道路(株) 関東支社 東京外環工事事務所</p> <p>TEL 0120-861-305 (フリーコール: 平日9:00~17:30)</p>
<p>地盤補修工事の現場で お気づきの点があった場合</p>	<p>鹿島・前田・三井住友・鉄建・西武特定建設工事共同企業体</p> <p>TEL03-6411-8723(24時間受付)</p>
<p>その他外環事業に関すること</p>	 <p>国土交通省 関東地方整備局 東京外かく環状国道事務所 TEL : 0120-34-1491(フリーダイヤル) 受付時間: 平日 9:15~18:00</p>  <p>東日本高速道路株式会社 関東支社 東京外環工事事務所 TEL : 0120-861-305(フリーコール) 受付時間: 平日 9:00~17:30</p>  <p>中日本高速道路株式会社 東京支社 東京工事事務所 TEL : 0120-016-285(フリーコール) 受付時間: 平日 9:00~17:30</p>

東京外かく環状道路(関越～東名)
地盤補修の施工状況・中央JCT付近及びシールドトンネル工事の
状況等をお知らせするオープンハウスの資料

【中央JCT付近及びシールドトンネル工事の状況等】

令和7年12月19日～20日

東日本高速道路(株) 関東支社 東京外環工事事務所
国土交通省 関東地方整備局 東京外かく環状国道事務所
中日本高速道路(株) 東京支社 東京工事事務所

目次

▪ 事業概要	1
▪ 東京外かく環状道路(関越～東名)現在の状況	9
▪ 中央JCT部の工事	13
▪ 中央JCT ランプシールドトンネル工事の掘進状況等	17
▪ 地下水の観測結果	58
▪ 大気質・騒音・振動の調査結果	61
▪ 安全対策の取り組み事例	62
▪ 利用者等の避難	63
▪ お問い合わせ先	64

東京外かく環状道路(関越～東名)の計画概要

(平成19年4月6日 都市計画変更(高架→地下))
 (平成27年3月6日 都市計画変更(地中拡幅部))

平面図



計画概要

延長：約16km

高速道路との接続：3箇所

- ・東名JCT(仮称)
- ・中央JCT(仮称)
- ・大泉JCT

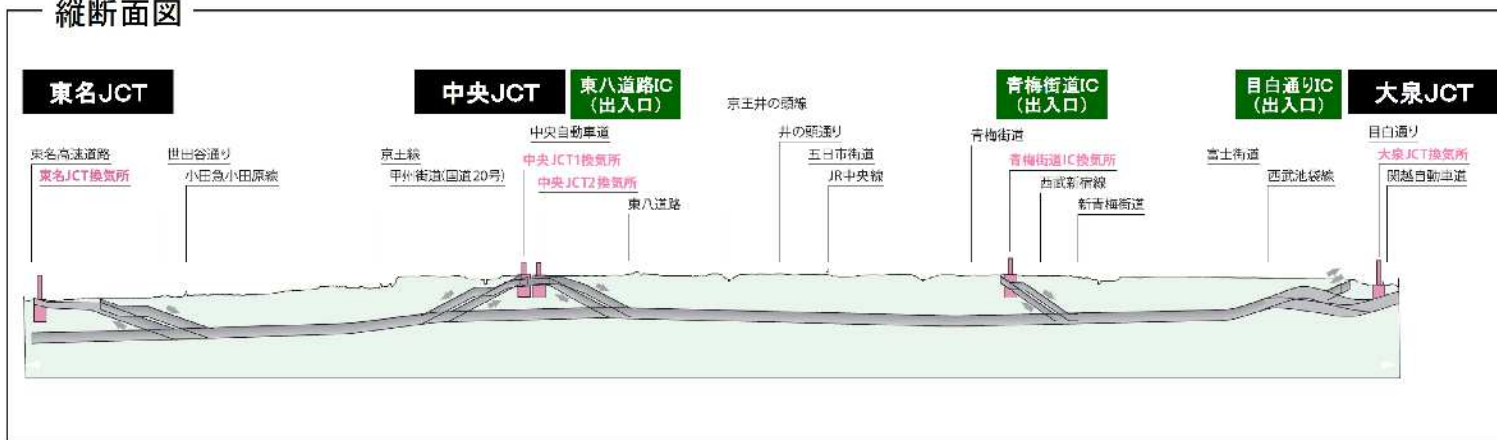
出入口：3箇所

- ・東八道路IC(仮称)
- ・青梅街道IC(仮称)
- ・目白通りIC(仮称)

構造形式：地下式

(41m以上の大深度に計画)

縦断面図



(JCT・ICは仮称。開通区間は除く)

トンネル完成イメージ



大深度地下利用について

東京外かく環状道路（関越～東名）は、「大深度地下の公共的使用に関する特別措置法」に基づく大深度地下の使用の認可を受け本線トンネルの大部分を地下40m以深の大深度地下としました。これにより、用地取得等を伴う箇所が地上部と大深度地下以浅部のみとなり、地域分断等による地上部の影響が少なくなります。

■大深度地下とは

・通常利用されない地下空間（①または②のいずれか深い方の空間）

①地下室の建設のための利用が通常行われない深さ（地下40m以深）



②建築物の基礎の設置のための利用が通常行われない深さ（支持地盤上面から10m以深）

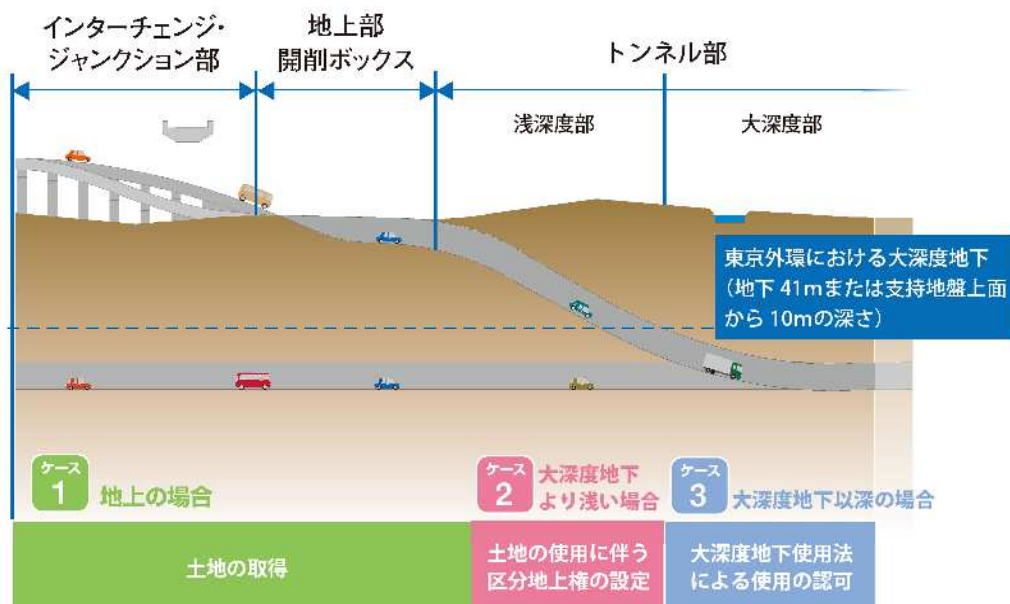


いずれか深い方の空間が大深度地下となります

東京外かく環状道路（関越～東名）（以下「東京外環」という）の構造はイメージ図のとおり、主にインターチェンジ・ジャンクション部、地上部開削ボックス及びトンネル部に区分され、トンネル部はさらに浅深度部と大深度部に区分されます。

※浅深度部：トンネルの一部若しくは全ての構造が大深度地下より浅い箇所（主としてイメージ図ケース2）

大深度部：トンネルの全ての構造が大深度地下以深になる箇所（イメージ図ケース3）



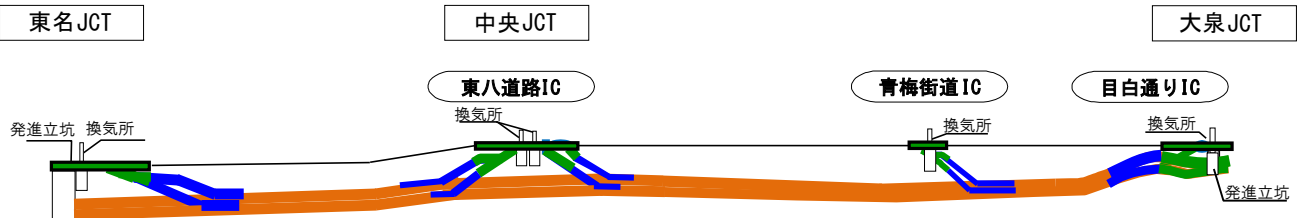
<イメージ図>

用地取得および埋蔵文化財調査の状況

【JCT・ICは仮称、開通区間は除く】

■ 用地取得区分イメージ

凡例
■ : 用地買収部 ■ : 区分地上権取得部 ■ : 大深度トンネル部



用地取得の状況

令和7年11月末

		東名JCT	中央JCT	青梅街道IC	大泉JCT	合計
面積 ベース	買収	99%	99%	41%	99%	94%
	区分地上権	100%	97%	75%	100%	94%
	合計	99%	99%	57%	99%	94%
件数 ベース	買収	97%	99%	60%	99%	95%
	区分地上権	100%	95%	73%	100%	93%
	合計	98%	98%	67%	99%	94%

埋蔵文化財調査の状況

令和7年11月末

埋蔵文化財調査対象地のうち着工可能な面積の割合 $\left(\text{※進捗率} = \frac{\text{調査済み面積}}{\text{調査対象面積}} \right)$

	東名JCT	中央JCT	青梅街道IC	大泉JCT	合計
進捗率	98%	100%	0%	100%	88%

東京外かく環状道路(関越～東名)沿線の課題

環状8号線の交通状況

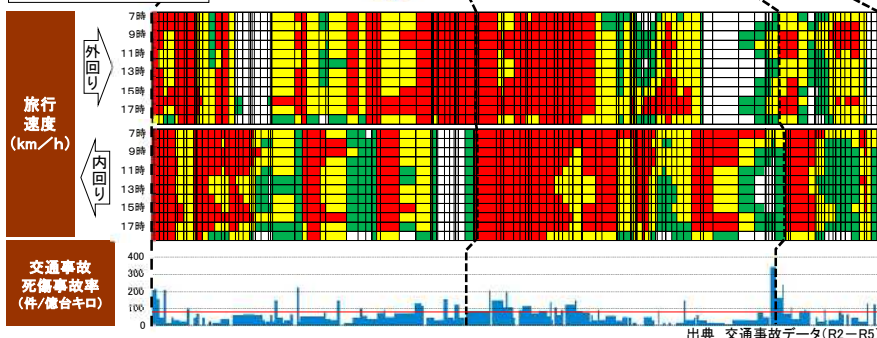
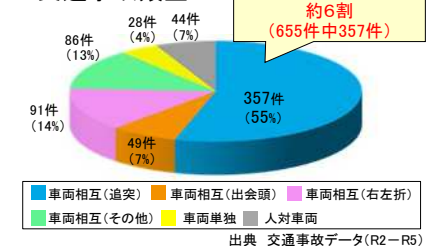
- 外環(関越～東名)に並行する環状8号線では、高速道路との交差点周辺で交通渋滞が発生。
- 環状8号線の事故類型別事故発生状況は、車両相互の追突事故が約6割。
- 外環(関越～東名)の整備により、交通の転換が図られ、交通混雑の緩和、交通事故の減少が期待。



■ 渋滞状況(中の橋交差点付近)



■ 交通事故類型



■ 関越道⇒東名高速の所要時間



環状8号線周辺の生活道路の交通状況

- 関越道(練馬IC)及び外環(大泉IC)と東名高速(東京IC)を乗り継ぎしている交通の約1割が、環状8号線周辺の生活道路を抜け道として利用。
- 環状8号線周辺の生活道路の交通事故件数は、都内の市区町村道と比較して9倍～12倍。
- 外環(関越～東名)の整備により、抜け道利用交通が転換することで、生活道路の安全性向上が期待。

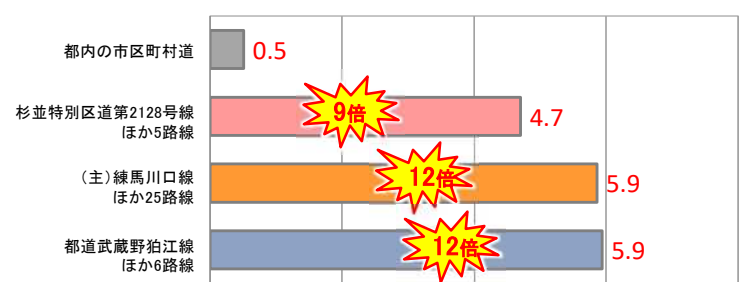
■ 環状8号線周辺道路の抜け道



【練馬IC・大泉IC⇄東京ICを乗り継ぐ交通の割合】



【生活道路における交通事故の発生率(件/km・年)】



出典 「交通事故発生マップ」警視庁HP 令和6年
「交通事故統計年報」財団法人交通事故総合分析センター 令和6年
「道路統計年報」国土交通省 令和6年

東京外かく環状道路(関越～東名)の整備効果 1/2

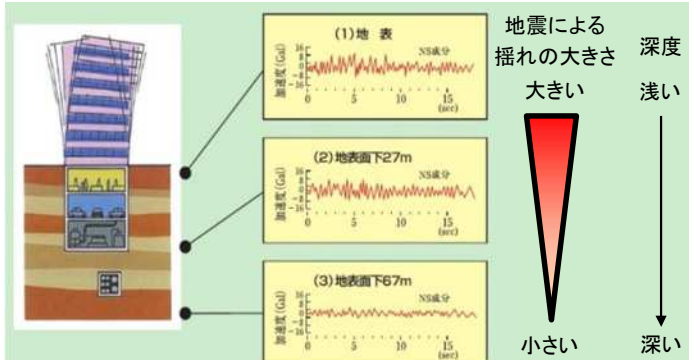
災害時等の代替路の確保

- 首都直下地震(M7クラスの地震)が今後30年以内に発生する確率は70%程度と推定。
- 道路管理者と関係機関は、首都直下地震に備え、都心に向けた八方向を優先啓開ルートに設定(八方向作戦)。
- リダンダンシーの強化により、災害だけでなく、事故などで放射道路が寸断された場合でも都心への経路が確保可能。



地震に対する安全性について

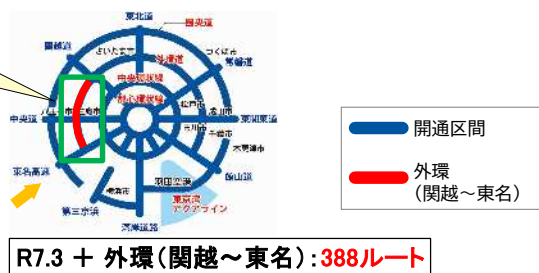
一般に地震の際の揺れは、地下深くなるほど小さくなる傾向にあるため、大深度地下空間は地震に対する安全性が高い空間と言える



三環状道路整備によるリダンダンシーの強化(東名高速から東京都心へ至るパターン(試算))

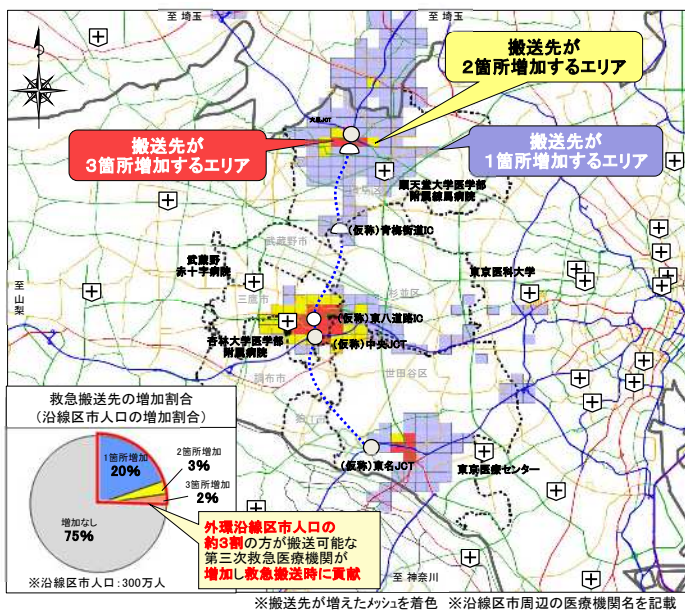


外環(関越～東名)整備により経路数が180ルート増加



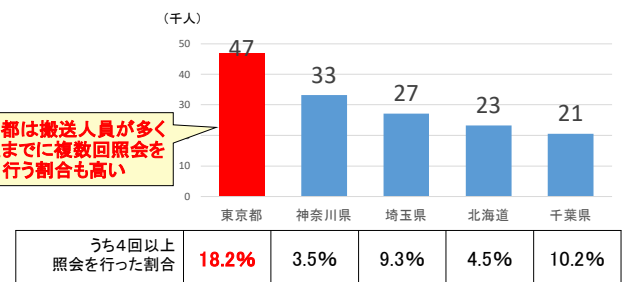
救急医療への支援

- 東京都は重症者の救急搬送人員が最も多く、搬送までに複数回照会を行う割合も高い。
- 外環が整備されることで沿線区市人口の約3割の方が30分以内で搬送可能な第三次救急医療機関の数が増加。
- 外環(関越～東名)が整備されることで救急搬送先の選択肢が増加し、重症者に対する円滑な救急活動を支援。



沿線区市の救急搬送先の増加

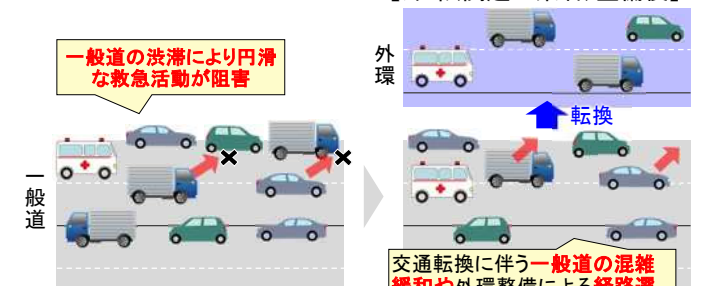
【都道府県別重症者以上搬送人員ランキング 上位5位】



外環(関越～東名)整備により期待される救急活動への効果

【現状】

【外環(関越～東名)整備後】



東京外かく環状道路(関越～東名)の整備効果 2/2

企業活動の支援

・外環(関越～東名)整備による既存路線の渋滞緩和、所要時間の短縮、時間圏域の拡大などを通じて、物流コスト削減、ドライバーの長時間労働緩和、物流品質の向上など企業活動を支援。

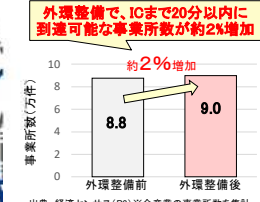
■所要時間の短縮効果



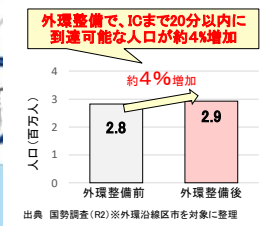
出典 現況:ETC2.0プローブデータ(R6.4～R7.3:全日 昼間12時間) 整備後:現況+外環(設計速度80km/h)により算出

■沿線アクセスの向上

【新規IC整備前後のカバー事業数】



【新規IC整備前後のカバー人口】



【所要時間の短縮】



■企業の声

①広域的な企業活動の支援(所要時間の短縮等) 物流業 A社

・東松山や松戸の配送センターから横浜町田エリアへ荷物を配送する際、中央環状線が混雑しているため配送時間がかかっている。
・外環(関越～東名)整備により、当該エリアへの配送時間短縮や新ルートの設定が期待できる。

※ヒアリング実施日:令和7年6月

②沿線企業の企業活動の支援(運送サービスの向上等)旅客運送業 B社

・渋滞の回避や所要時間短縮のために、周辺の生活道路を走行するよう乗客から依頼されることが多々ある。
・外環(関越～東名)が整備されると、環八周辺の渋滞が解消して速達性や収益性が向上するだけでなく、事故の減少も期待できる。

※ヒアリング実施日:令和6年8月

③沿線企業の企業活動の支援(ドライバー負担軽減等) 製造業 C社

・製造所から港まで製品・部品を搬入する際に、混雑により港の受付時間に間に合わず、待機時間が発生した。
・外環(関越～東名)整備によって、ICへのアクセス向上や、混雑回避のために多くの輸送経路を選択できる。

※ヒアリング実施日:令和7年6月

バスの定時性向上

・環状8号線は東西に延びる複数の鉄道路線の主要駅間を南北に結ぶバスルートとして利用。
・環状8号線には主要渋滞箇所が複数存在しており、所要時間(最短・最長)の差にバラツキがあり、定時運行に懸念が存在。
・外環(関越～東名)が整備されることで、環状8号線の混雑が緩和され、バスの定時性向上が期待。

■環状8号線周辺のバスルート



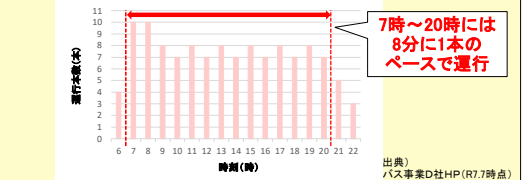
★ 主要渋滞箇所

■企業の声

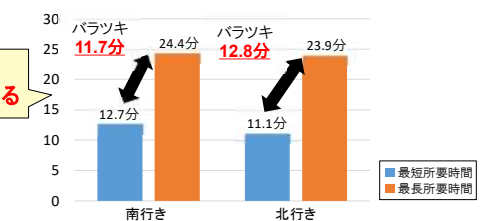
定時性の確保により、余裕時分の有効活用が可能に

・路線の中には、渋滞の影響を受け、通過時間が読みにくい時間帯がある。
・外環(関越～東名)整備により定時性が向上し、ダイヤ作成時に必要所要時間が見込みやすくなれば、運行回数増による利便性向上や、ドライバーの運転時間の管理労力の軽減化が期待される。

【環状8号線利用バス路線 運行本数一例】 ※ヒアリング実施日:令和7年6月



【環状8号線(中央線～京王線)の時間信頼性】



出典 ETC2.0プローブデータ(R6.4～R7.3:全日 昼間12時間) 所要時間は東電旅客バス社(新文芸点～上高井戸)下目交差点を対象に整理 最長・最長所要時間 特異値(所要時間の上位10%、下位10%)を除いた所要時間のバラツキ

事業再評価

- ・再評価実施要領に基づき、前回再評価(令和2年度)から5年が経過したことを受け、再評価を実施しました。
- ・令和7年度の第3回(10月9日)及び第4回(10月27日)の関東地方整備局事業評価監視委員会において審議を行った結果、対応方針(原案)の通り事業継続が了承されました。

※関東地方整備局事業評価監視委員会(第4回)資料東京外かく環状道路(関越～東名)... https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000929589.pdf

6. 今後の対応方針(原案)

(1) 事業の必要性等に関する視点

- ・外環(関越～東名)は、首都圏の都心方向に集中する交通を適切に分散導入し、都心に起終点を持たない交通をバイパスすることで、首都圏の慢性的な交通渋滞の緩和、周辺的生活道路の通過交通の削減による安全性の向上が期待される。
- ・本事業の整備により、羽田空港・京浜港と背後圏を結ぶ広域ネットワークが形成され、輸送時間短縮、定時性の向上等により企業活動への支援、物流流動の円滑化、国際観光の発展へ寄与。
- ・首都直下地震の災害発生時に、被災地への救援ルートの確保等の視点から安全・安心な国土づくりが必要。
- ・費用便益比(B/C)は4.4(1.2)である。 ※()書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。

(2) 事業進捗の見込みの視点

- ・本事業の用地取得率は約94%。(令和7年7月末時点 面積ベース)
- ・東名側については平成29年2月にシールドマシンが発進し、約4.4km、大泉側についても平成31年1月にシールドマシンが発進し、約4.3km掘進中。(令和7年7月末時点)
- ・東名側本線トンネル(南行)の直上にて令和2年10月に陥没・空洞事故が発生し、現在地盤補修等を実施中。
- ・各JCTにおいては改良工事等を実施中。
- ・合意形成については、構想段階からPI(パブリックインボルブメント)の取組を導入し、計画を具体化させ、事業を進捗させており、引き続きPI手法を活用し、事業への理解をいただく取組を継続。

(3) コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- ・大泉JCTにおけるパイプーフ接続方法の見直しや、東名JCTにおける仮設物の構造変更により約5億円のコスト縮減を実施。
- ・今後も継続的にコスト縮減方策を検討し、コスト管理に努める。

(4) 対応方針(原案)

- ・事業継続とする。
- ・本事業は、首都圏の慢性的な交通渋滞の緩和、沿道環境の改善、周辺的生活道路の安全性の向上、企業活動への支援、臨海部(羽田空港等)とのアクセス性向上、災害発生時の被災地への救援ルートの確保の観点から、事業の必要性・重要性は高く、早期の効果発現を図ることが妥当と考える。

50

<委員からの主な意見>

- ・首都圏三環状道路は、首都圏の経済や生活を支える重要な基幹インフラであり、東京外かく環状道路(関越～東名)は、再発防止対策等を徹底し、安全確保を最優先とした上で、1日も早い開通・供用開始が望まれる。
- ・陥没空洞事故を受けた地域住民への説明や、事故の再発防止に対する技術的な課題に対して、対応や検討ができていることを確認した。
- ・各事業の特性を踏まえた、多様な経済効果などの把握手法について、検討いただきたい。
- ・前回の付帯意見への対応は、陥没事故への対応にも該当することから、引き続き行うものとし、原案通り了承とする。

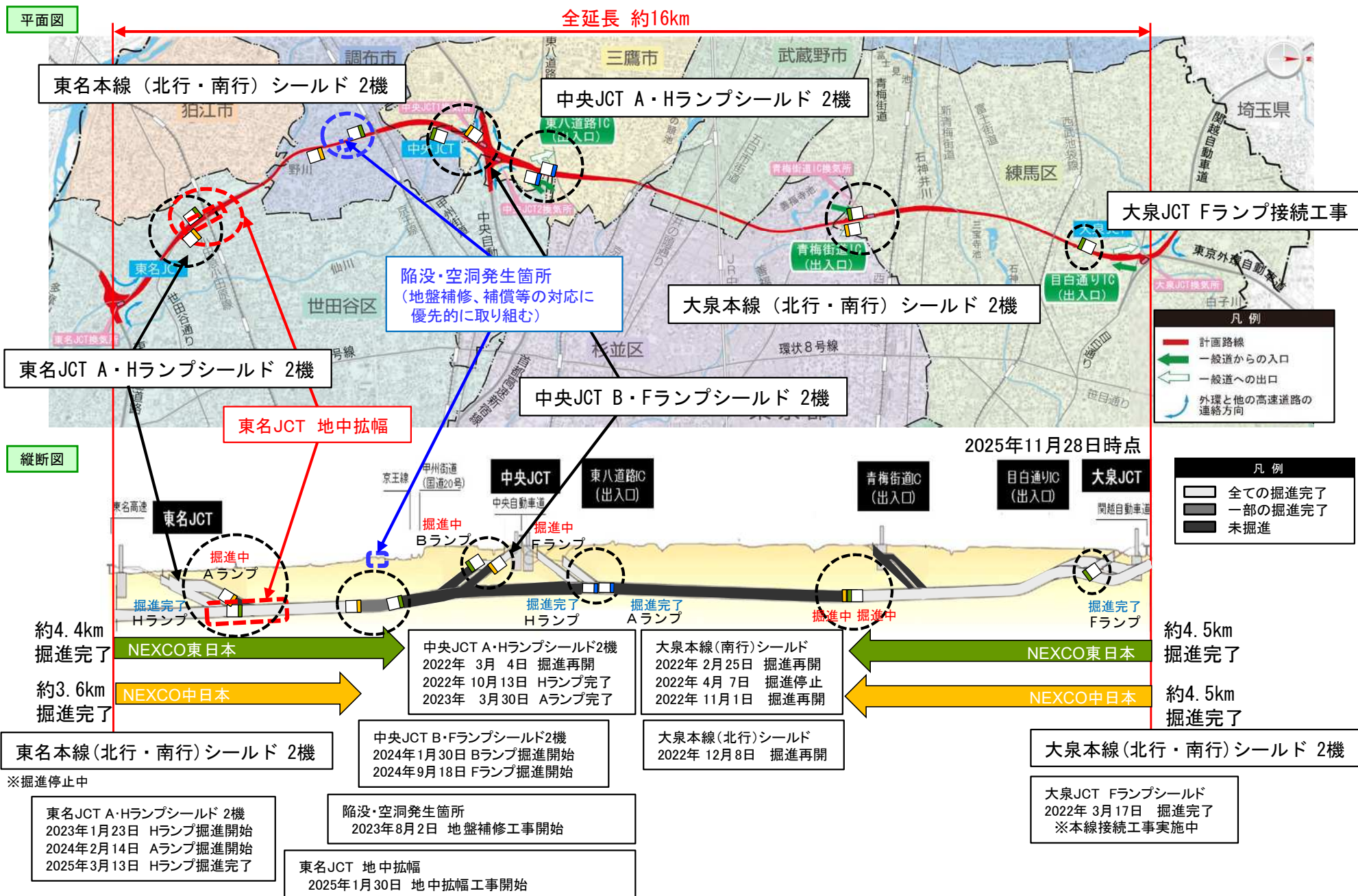
【前回(R2)付帯意見】

- ① 早期の完成と供用に努めること。
- ② コスト縮減を徹底するとともに、事業費増の要因を分析し、厳格なコスト管理を行うこと。
- ③ 事業進捗について、定期的に関係自治体と共有するなど引き続き事業の透明性を高めること。
- ④ 事業の必要性や現場で行われている事業の工夫などを社会一般に知ってもらえるよう、わかりやすい情報発信を行うこと。

▲対応方針(原案)について(第4回監視委員会資料 抜粋)

▲委員からの主な意見(第4回監視委員会 審議結果 抜粋)

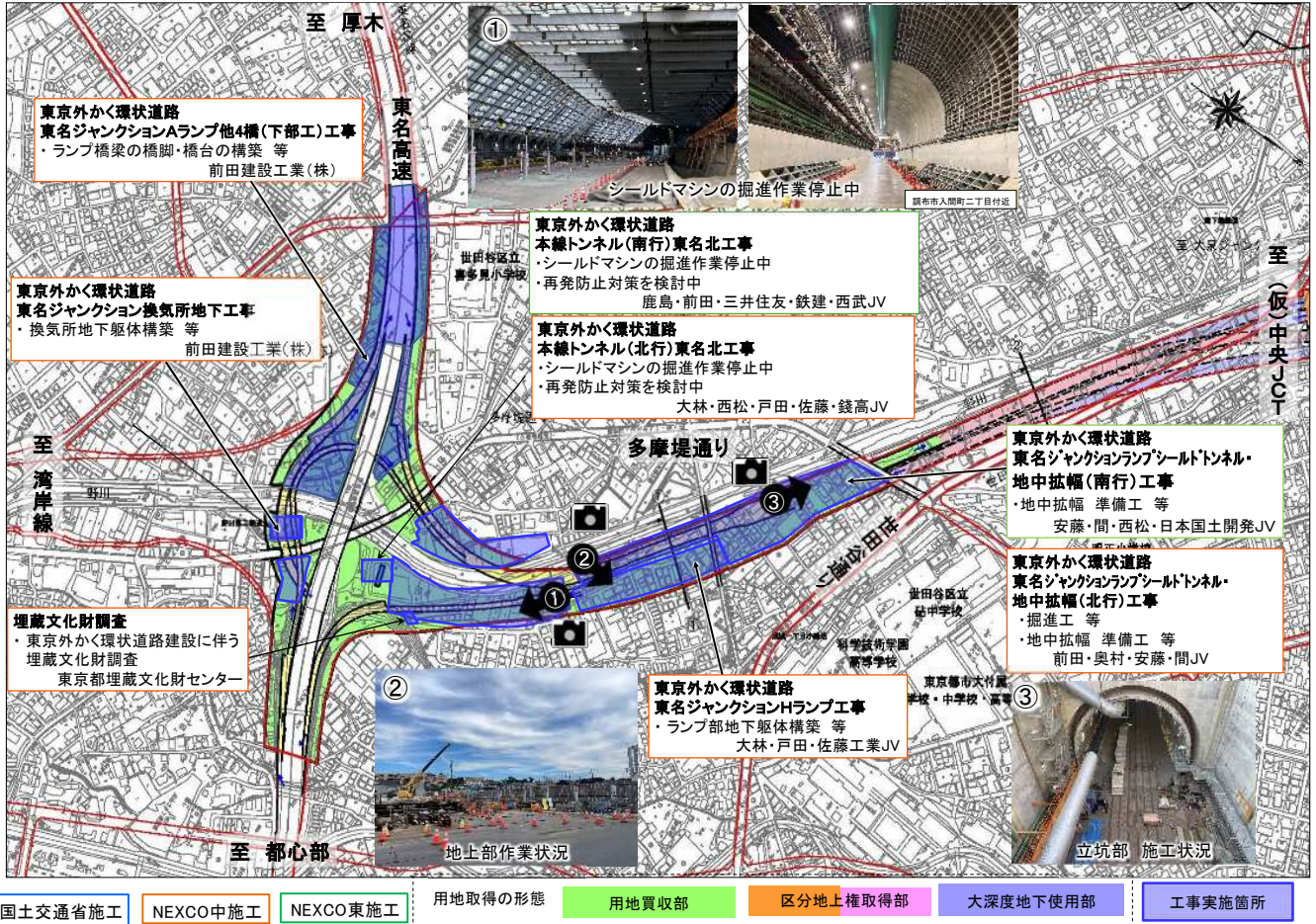
東京外かく環状道路(関越～東名) 現在の状況



現在の状況【東名JCT】

工事の状況

令和7年11月現在



空撮写真



[令和3年4月時点]

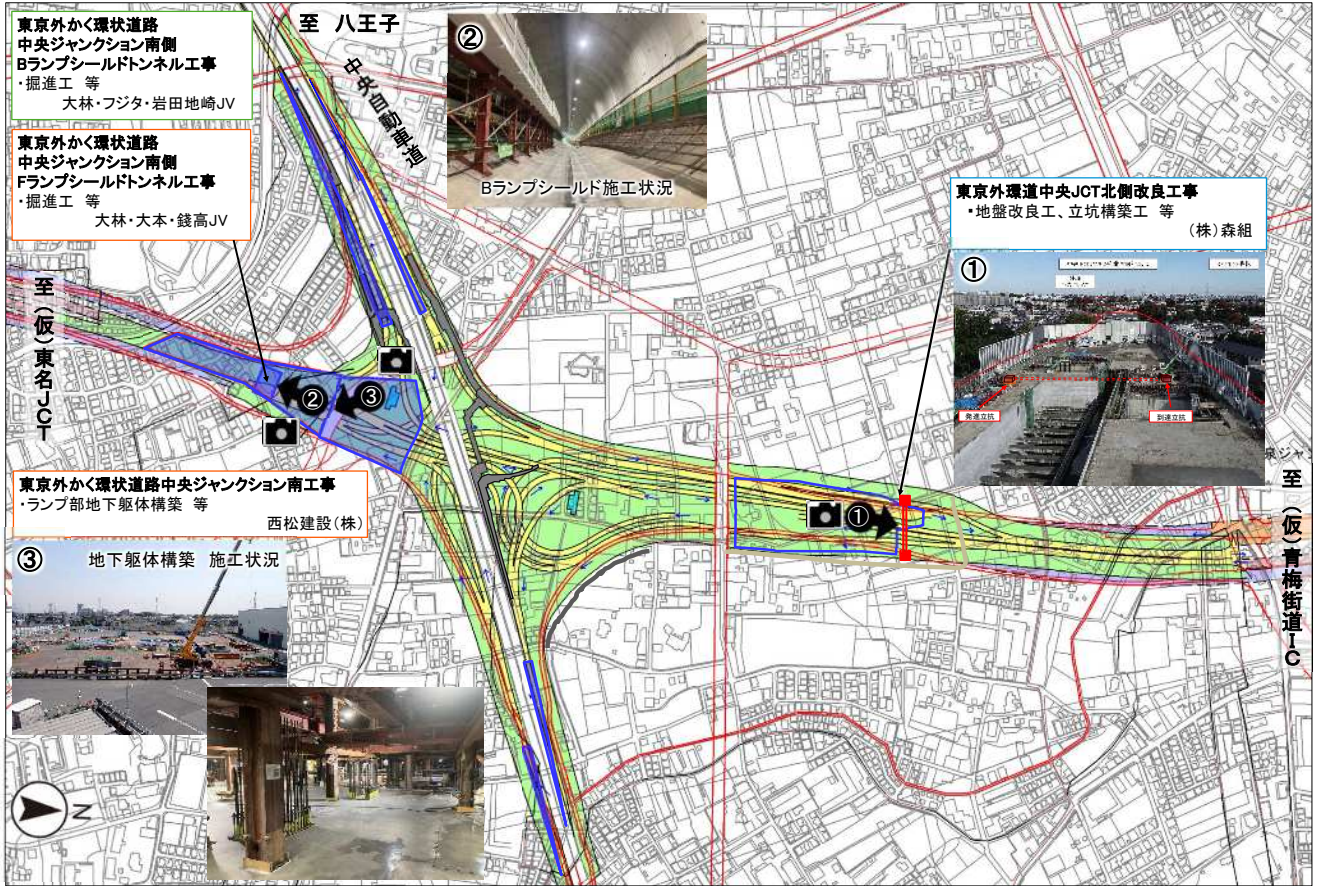


[令和7年11月時点]

現在の状況【中央JCT】

工事の状況

令和7年11月現在



国土交通省施工 NEXCO中施工 NEXCO東施工 用地取得の形態 用地買収部 区分地上権取得部 大深度地下使用部 工事実施箇所

空撮写真



[令和7年11月時点]

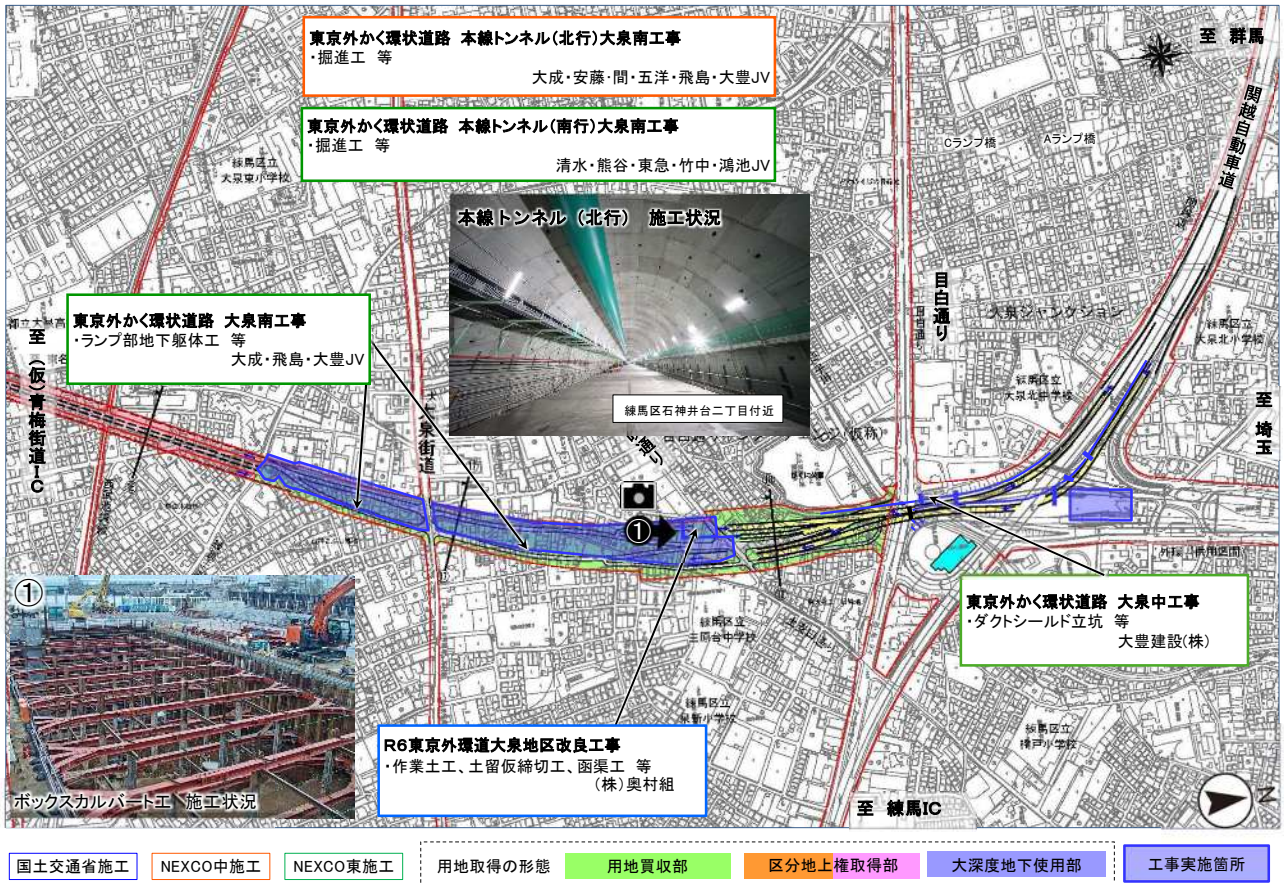


[令和7年11月時点]

現在の状況【大泉JCT】

工事の状況

令和7年11月現在



空撮写真

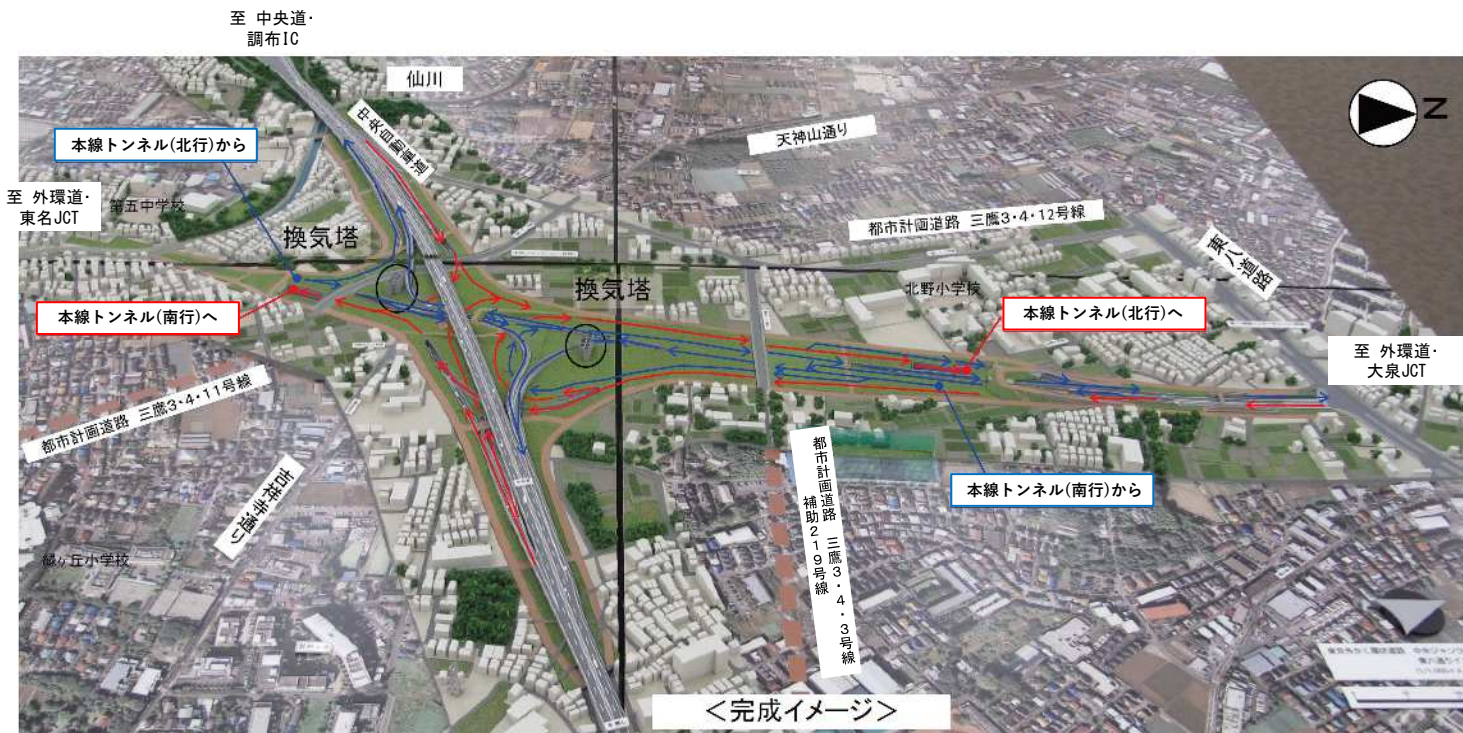


[令和7年11月時点]

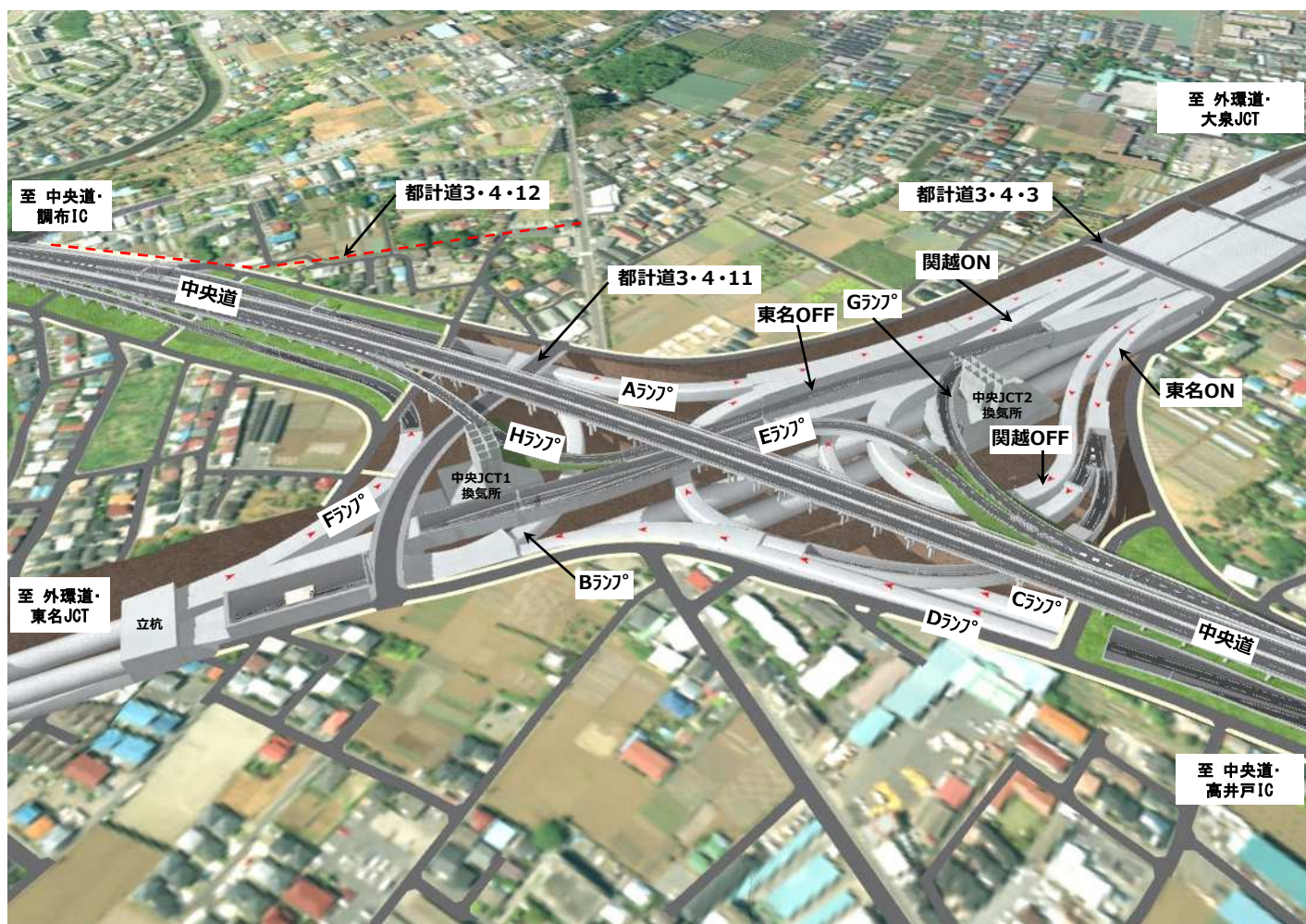
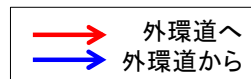


[令和7年11月時点]

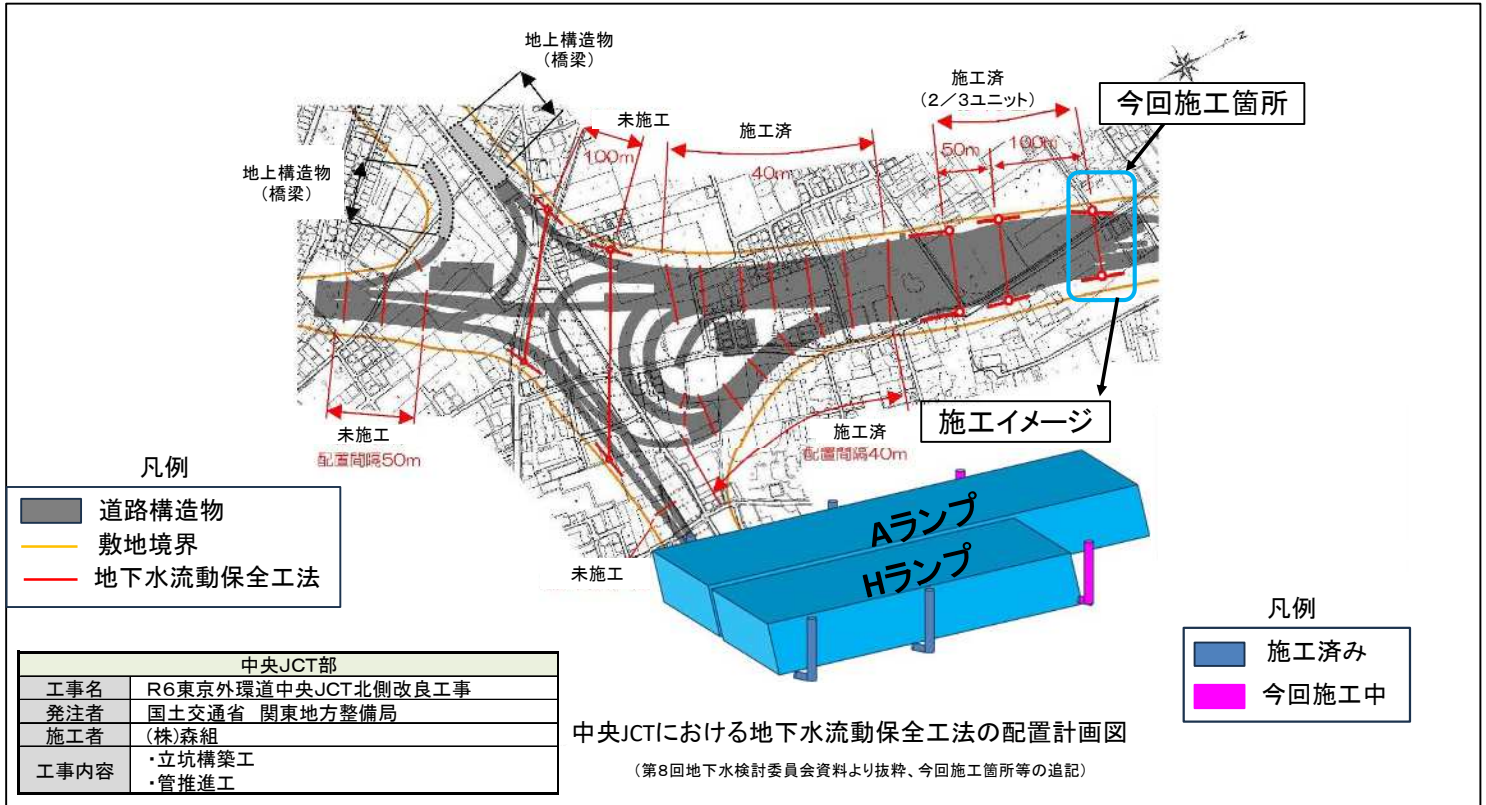
中央JCT部の工事【完成イメージ】



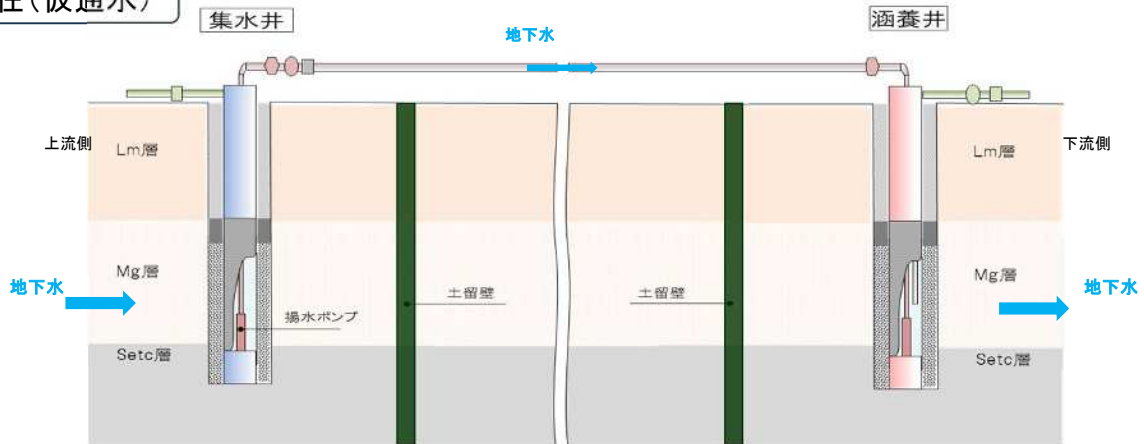
至 中央道・
高井戸IC



中央JCT北側改良工事の概要

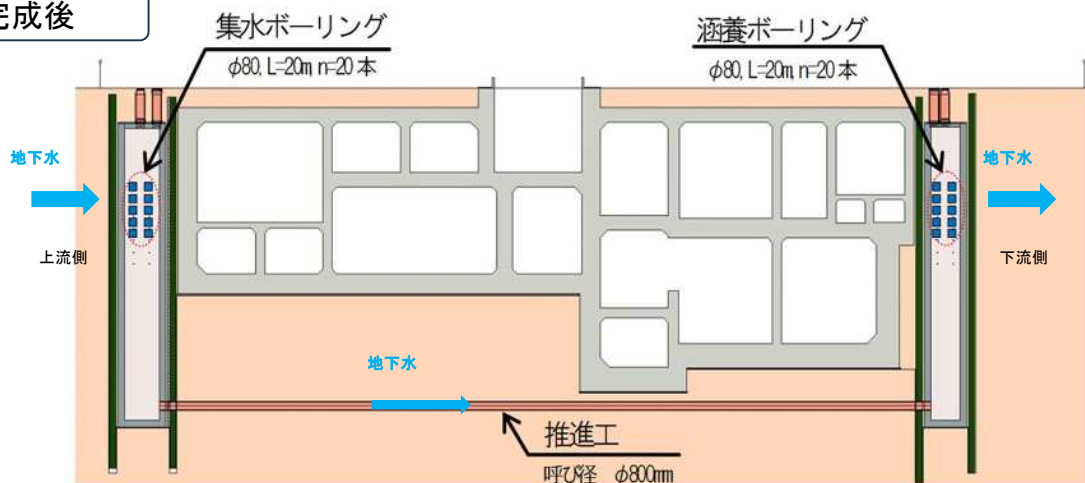


現在(仮通水)



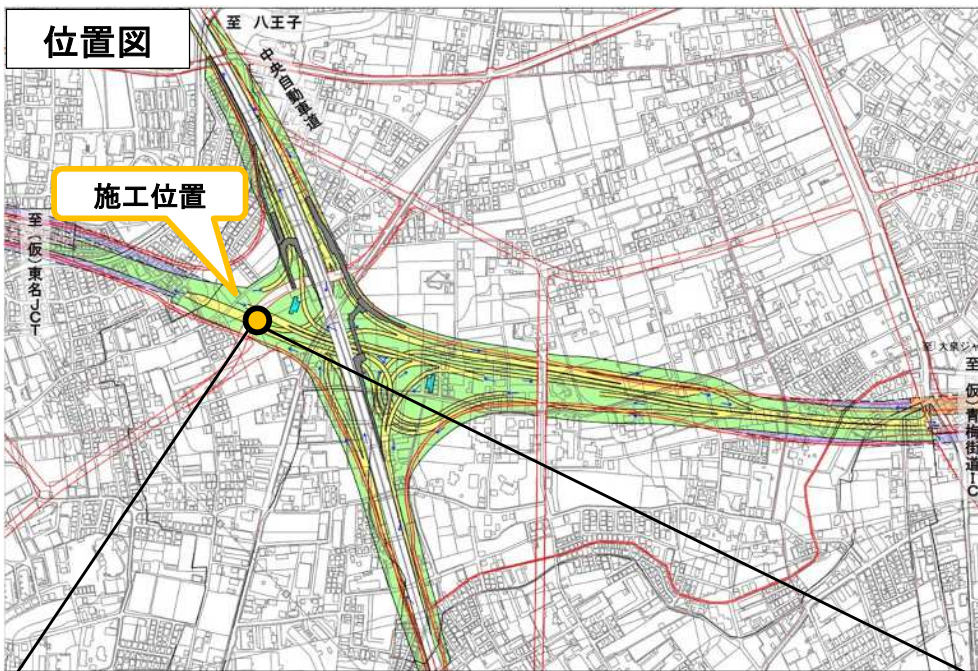
(イメージ図)

完成後

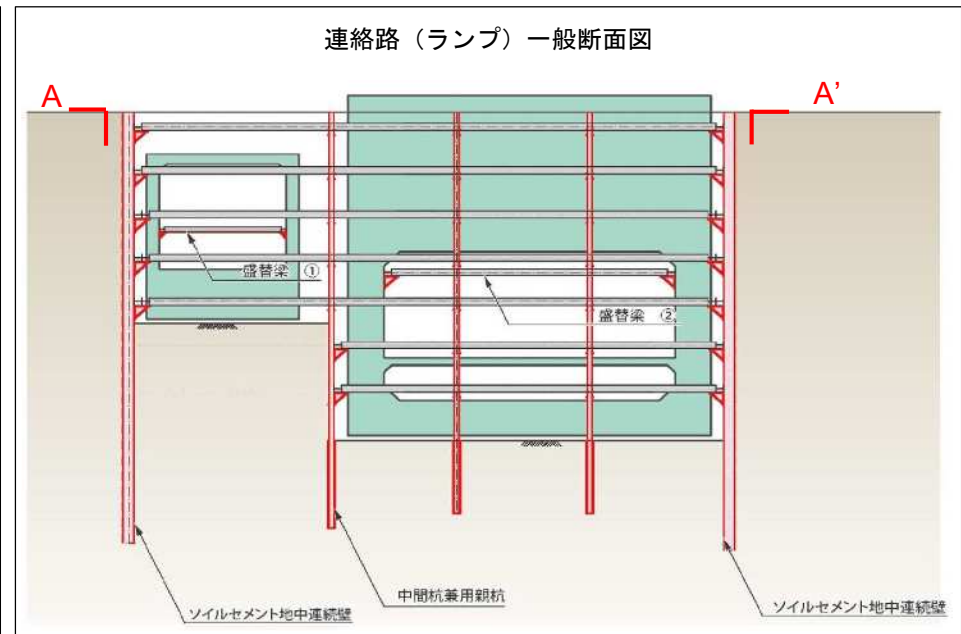
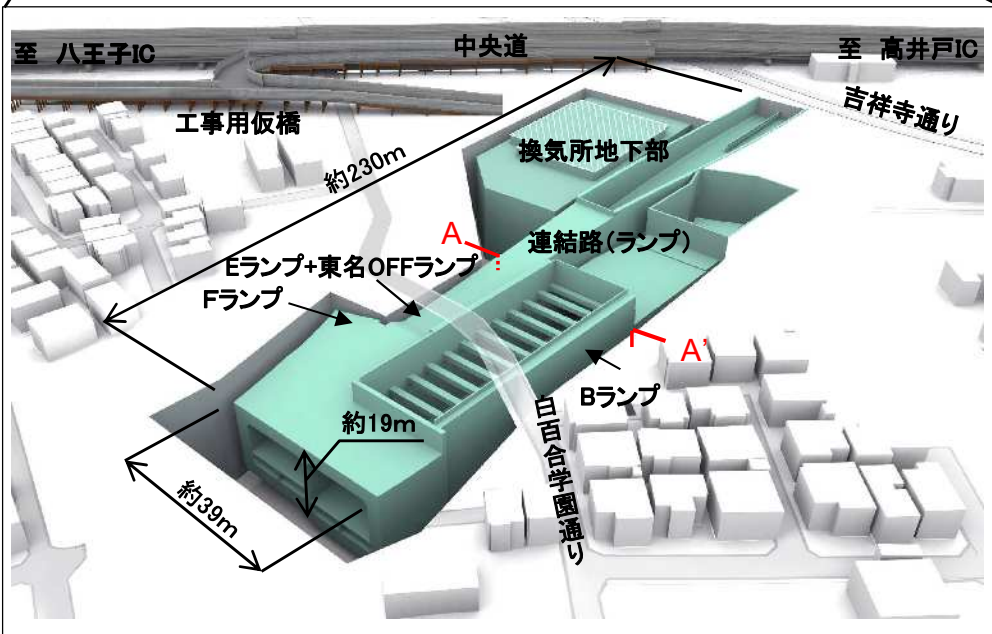


(イメージ図)

中央JCT部の工事【ランプボックス、地下構造物】



中央JCT部	
工事名称	東京外かく環状道路 中央ジャンクション南工事
発注者	中日本高速道路(株) 東京支社
施工者	西松建設(株) 関東土木支社
工事内容	<ul style="list-style-type: none"> ・開削によるランプボックスの構築(開削工) ・維持管理用の電気室の構築(地下構造物) ・地下水流動保全工



現場写真【中央JCT関連工事】



中央JCT北側開削トンネル施工状況
(令和5年5月16日)



中央JCT北側開削トンネル施工状況
(令和5年5月16日)



中央JCT北側開削トンネル施工状況
(令和5年5月16日)



中央道へアクセスする工事用仮橋設置状況
(外景) (令和元年6月17日)



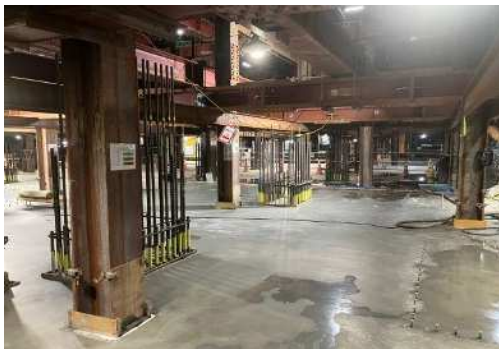
中央JCT上り線ONランプ工事用仮橋の状況
(令和5年5月18日)



中央JCT北側開削トンネル施工状況
(令和5年2月1日)



中央JCT南側ランプシールド防音設備設置状況
(令和4年9月27日)

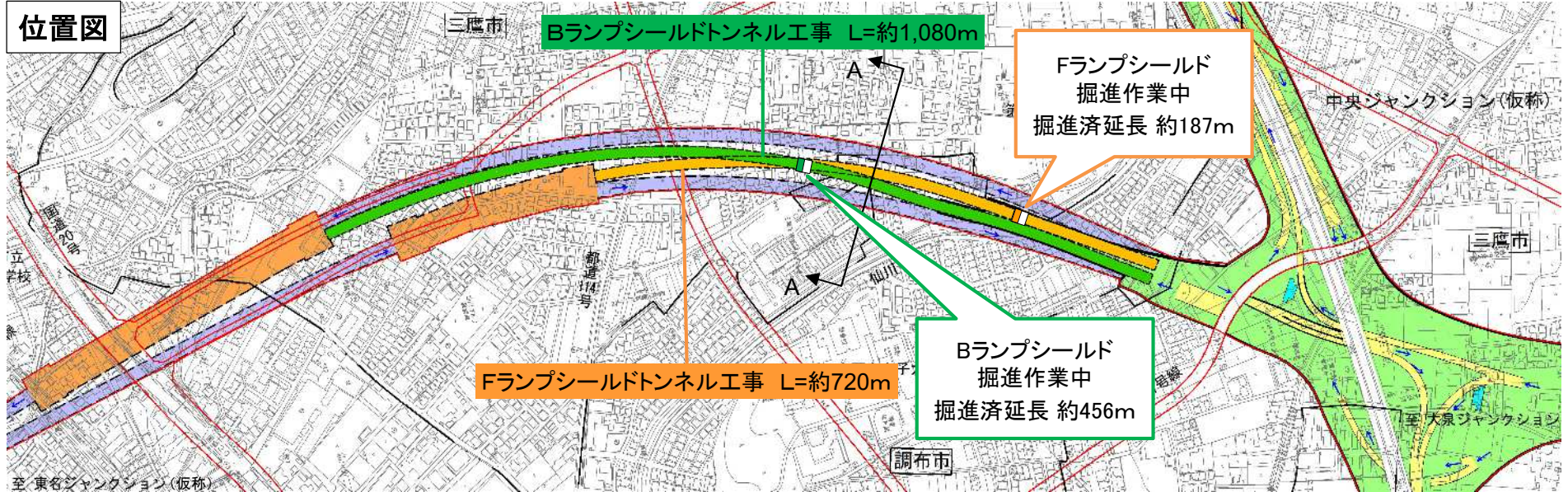


中央JCT南側換気所施工状況
(令和7年11月26日)

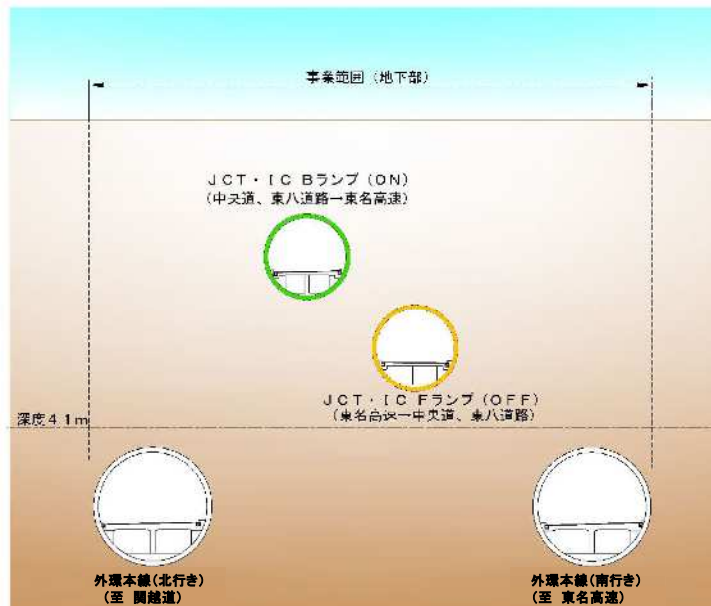


中央JCT南側開削トンネル施工状況(地上部)
(令和7年11月12日)

中央JCT B・Fランプシールドトンネル工事の概要



断面図(A-A)



B ランプシールドトンネル	
工事名称	東京外かく環状道路 中央ジャンクション南側 B ランプシールドトンネル工事
発注者	東日本高速道路(株) 関東支社
施工者	大林組・フジタ・岩田地崎建設 特定建設工事共同企業体
工事内容	・泥土圧シールド シールド機外径φ約12m、セグメント外径φ11.5m ・延長約1,080m
ランプシールド区間	東京都三鷹市北野～中原

F ランプシールドトンネル	
工事名称	東京外かく環状道路 中央ジャンクション南側 F ランプシールドトンネル工事
発注者	中日本高速道路(株) 東京支社
施工者	大林組・大本組・銭高組 特定建設工事共同企業体
工事内容	・泥土圧シールド シールド機外径φ約12m、セグメント外径φ11.5m ・延長約720m
ランプシールド区間	東京都三鷹市中原～北野

現場写真【中央JCT Bランプシールドトンネル工事】



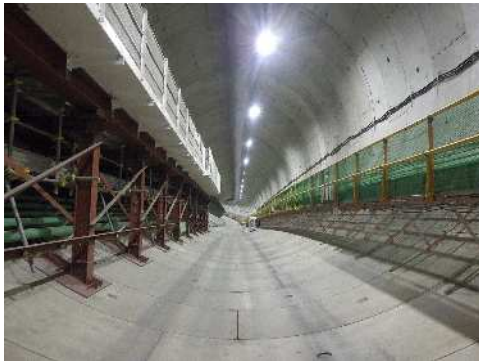
シールドマシンの組立状況
(平成30年12月11日)



シールドマシン発進前の状況
(令和5年1月20日)



セグメントストックヤードの状況
(令和7年11月27日)



坑内の状況
(令和7年11月27日)



シールドマシン後方の状況
(令和7年11月27日)



防音ハウス内の状況
(令和7年11月27日)



ベルトコンベヤーの状況
(令和7年11月27日)



土砂ピットヤードの状況
(令和7年11月27日)

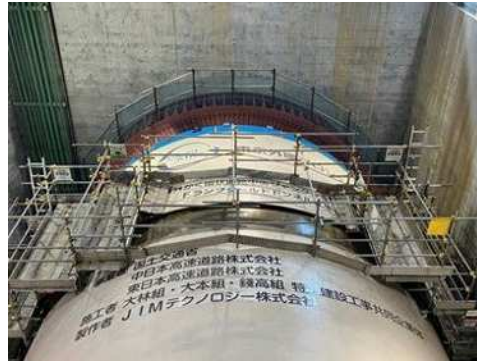


土砂ピットヤード内部の状況
(令和7年11月27日)

現場写真【中央JCT Fランプシールドトンネル工事】



シールドマシンの組立状況
(平成30年12月19日)



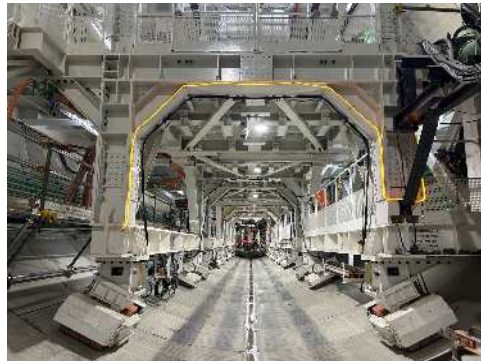
シールドマシン発進前の状況
(令和5年1月20日)



セグメントストックヤードの状況
(令和7年11月27日)



坑内の状況
(令和7年11月27日)



シールドマシン後方の状況
(令和7年11月27日)



防音ハウス内の状況
(令和7年11月27日)



ベルトコンベヤーの状況
(令和7年11月27日)



土砂ピットヤードの状況
(令和7年11月27日)



土砂ピットヤード内部の状況
(令和7年11月27日)

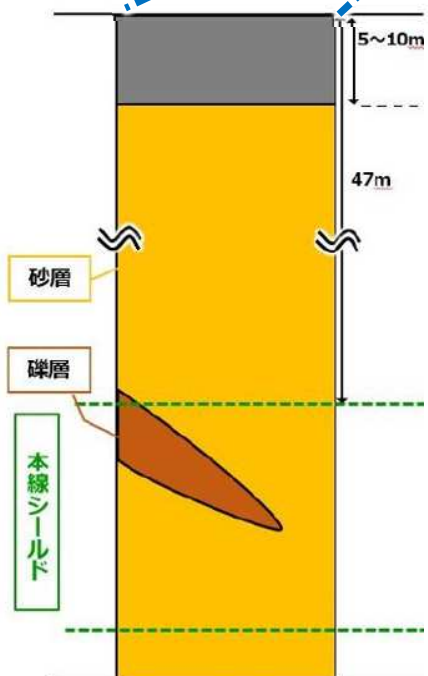
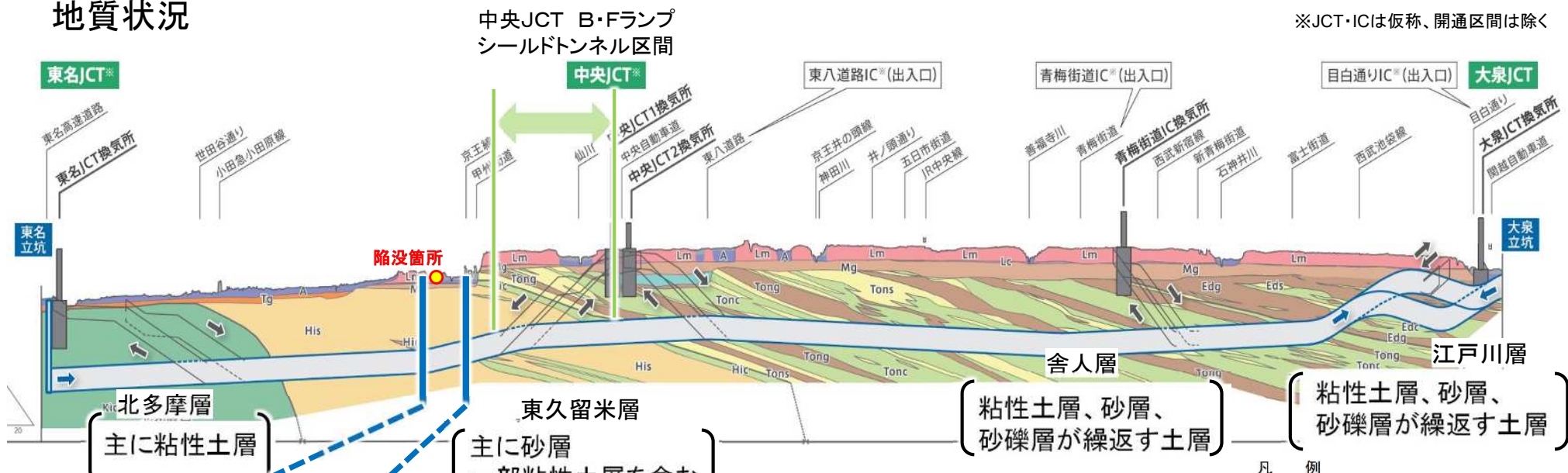
シールドマシンの動画



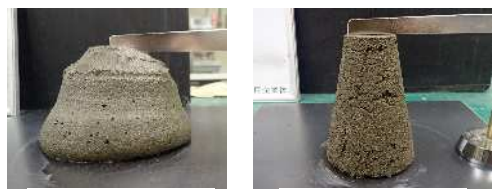
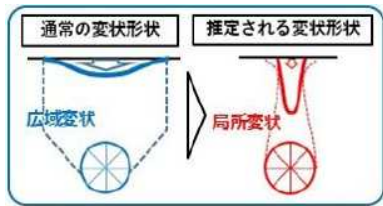
陥没箇所周辺の地盤

地質状況

※JCT・ICは仮称、開通区間は除く



- ①表層が薄い
- ②変状が煙突状に伝わる砂の層が連続
- ③塑性流動性(良い固さ・まとまり)の確保が難しい



塑性流動性○ 塑性流動性×

地質時代	地層名	地質記号	層相	
完新世	盛土、埋土	B	凝りじり土き体	
	沖積層	A	軟質な粘性土、腐植土	
第四紀更新世	関東ローム層	Lm	火山灰質粘性土	
	ローム質粘土層	Lo	粘土化した関東ローム層	
	立川礫層	Tg	砂 礫	
	武蔵野礫層	Mg	砂 礫	
	世田谷層	Sotc	細粒分の多い粘性土	
		Setg	砂 礫	
	上総層群	江戸川層	Edc	粘性土
			Eds	砂
			Edg	砂 礫
		舎人層	Tonic	粘性土
			Tons	砂
			Tong	砂 礫
東久留米層		Hic	粘性土	
			His	砂
		Hig	砂 礫	
北多摩層		Kic	粘性土	

塑性流動性(良い固さ・まとまり)

塑性流動性あり

- 良い固さ
- まとまり



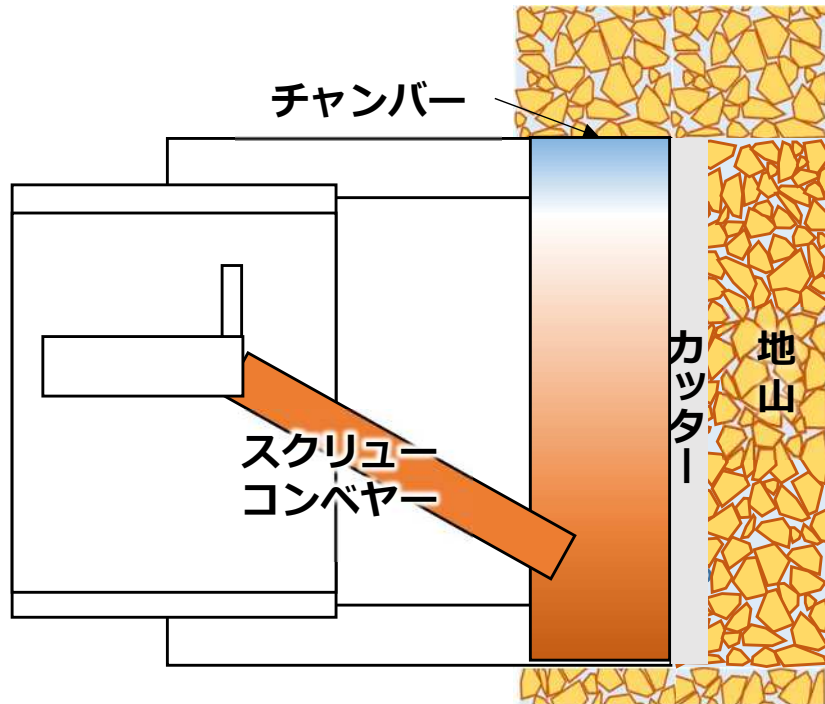
塑性流動性なし

- 固すぎる
(柔らかすぎてもだめ)
- まとまりがない



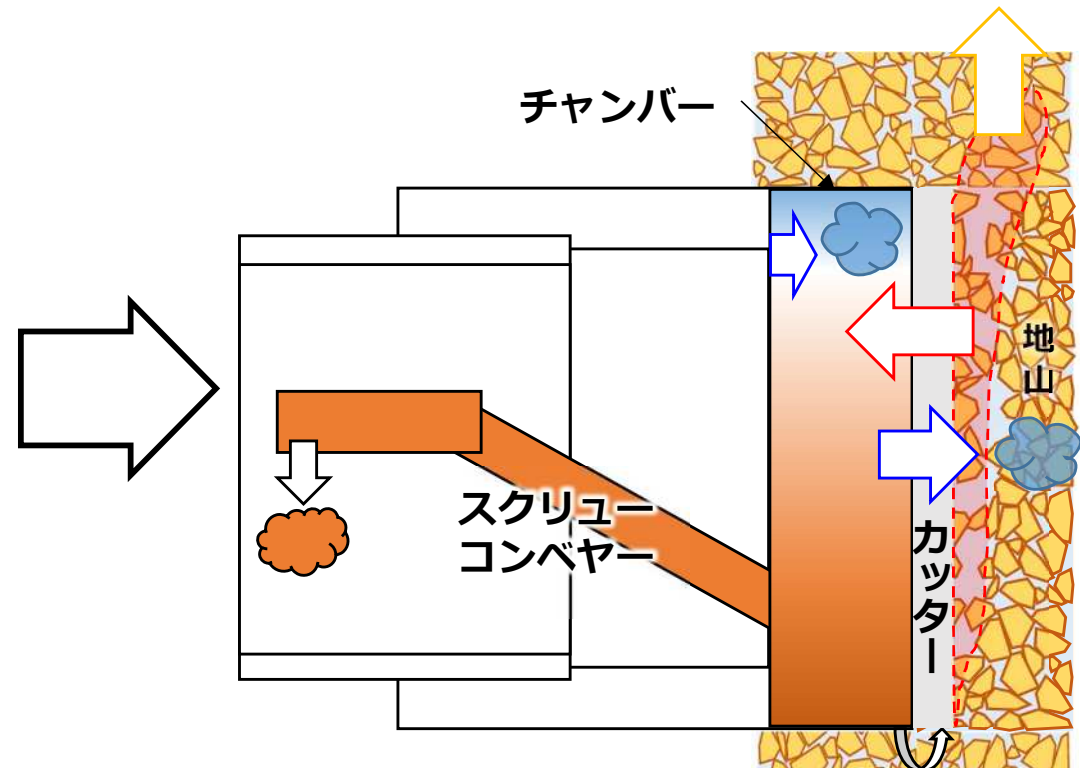
陥没・空洞の原因

〈事故発生箇所付近での夜間停止〉



- 夜間の停止中に削った土と添加材が分離
- 下部に土砂がたまり、土が締め固まってしまった
- 翌朝、カッターが回らなくなってしまった

〈翌朝の工事〉



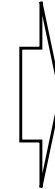
- 回らなくなったカッターを回すため、特別な作業を行った時に、地山の土が過剰に入り込んでしまい、その後の掘進において、土を取り込みすぎた
- シールドマシン上部にゆるみが発生
- 上方に煙突状に伝わり陥没・空洞が発生

事故を踏まえた対応

■ 陥没・空洞の原因

〈事故発生箇所付近での夜間停止〉

- 夜間の停止中に削った土と添加材が分離
- 下部に土砂がたまり、土が締め固まってしまった
- 翌朝、カッターが回らなくなってしまった



■ 対応

対応 I

- 掘進停止中も、土の締め固まりを生じさせません

〈翌朝の工事〉

- 回らなくなったカッターを回すため、特別な作業を行った時に、地山の土が過剰に入り込んでしまい、その後の掘進において、土を取り込みすぎた
- シールドマシン上部にゆるみが発生
- 上方に伝わり陥没・空洞が発生



対応 II

- 取り込んだ土の量を丁寧に把握します



対応 III ○お住まいの皆さまの安全・安心を高めます

- ・ 振動・騒音をできるだけ低減します
- ・ 積極的に情報提供を行います
- ・ 地表面などのモニタリングを強化します
- ・ 緊急時にも安心できる対応を整えます

対応Ⅰ：掘進停止中も、土の締め固まりを生じさせません

ポイント 様々な条件でも土の締め固まりを生じさせない添加材を確認

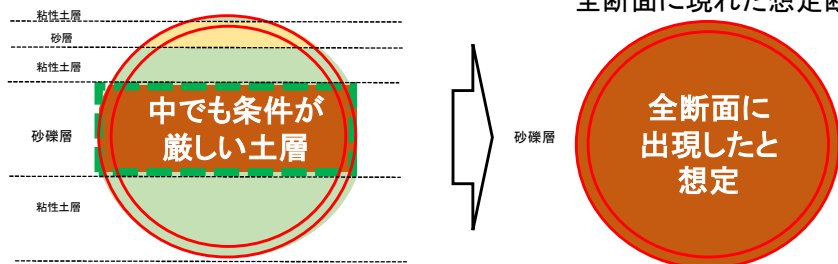
原因と対応

- 夜間の停止中に削った土と添加材が分離
- 下部に土砂がたまり、土が締め固まってしまった
- 翌朝、カッターが回らなくなってしまった

- 停止中も土が締め固まらない添加材を実験で確認
- 実際には出現しがたい厳しい条件でも実験








具体的な対応

- 実際の掘削断面で最も条件の厳しい断面と、
その中でも条件が厳しい土層が全断面に現れた断面
で添加材と土を配合する実験
- 添加材と混ぜた土が長期停止でも分離しないか確認
- これらを複数の添加材で実験し、適した添加材を確認
(実際の掘削断面で最も条件の厳しい断面) (中でも条件が厳しい土層が
全断面に現れた想定断面)



実験の様子

- 厳しい条件も含め、複数の添加材を用いることで
締め固まりが起こらないことを確認

添加材	材令	添加直後	7日後 (年末年始等の長期停止を想定)
気泡材			 粘性が無く固まっている
		○(塑性流動性あり)	 まとまりが無くバラバラになっている
鉱物系 (ベントナイト)			
		○(塑性流動性あり)	 ○(塑性流動性あり)



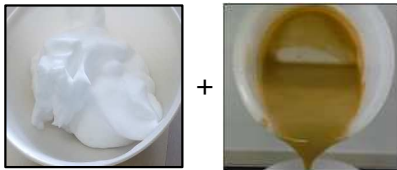

まとめ

- いずれの条件でも締め固まりが起こらない添加材を確認
- これら複数の添加材を常に使用可能な状態とする
- 課題発生時の対応を事前に取り決め

対応Ⅰ：掘進停止中も、土の締め固まりを生じさせません

ポイント

掘進地盤に適した添加材の選定等をするために、以下4種類の添加材で、事前配合試験を行っています。

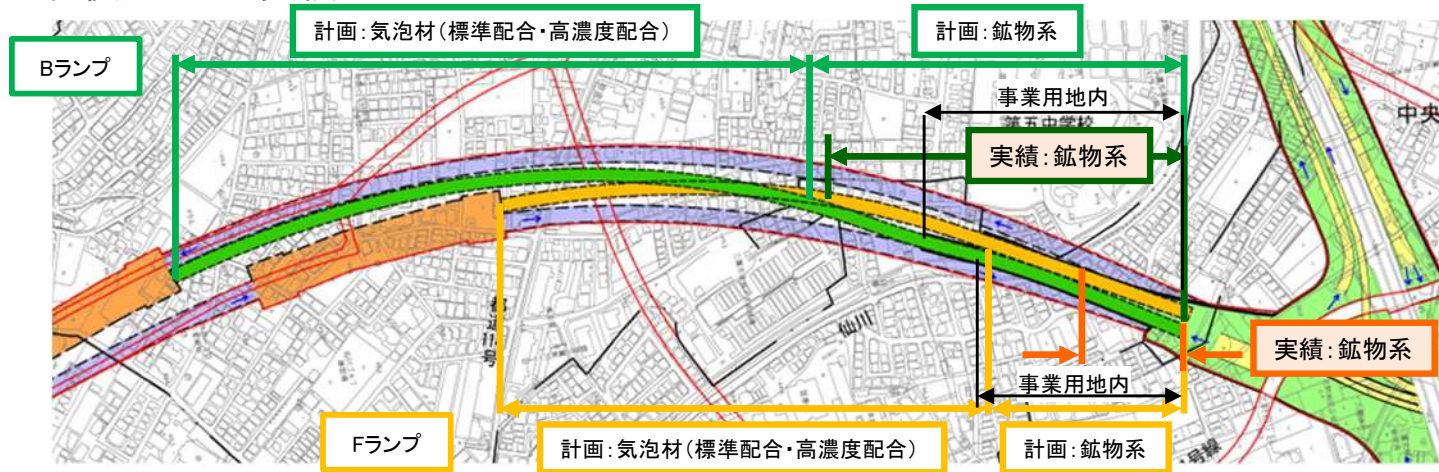
	CASE-1	CASE-2	CASE-3	CASE-4
添加材種別	気泡材(標準配合)	気泡材(高濃度配合)	気泡材+鉍物系 (気泡材の助材として使用)	鉍物系 (単体で使用)
外観				
特徴	・標準的に使用を予定している気泡材	・標準的な気泡材に対し、強度の高い気泡を得ることを目的として、起泡剤溶液の配合を変えた気泡材	・気泡材の添加と同時に、助材として鉍物系を添加することで細粒分を補うとともに、粘性を付与して、塑性流動性の改善を図るもの	・鉍物系を主材として添加
種類	・陰イオン系界面活性剤 (家庭用洗剤等と同じ成分)	・陰イオン系界面活性剤 (家庭用洗剤等と同じ成分)	気泡材と鉍物系を混ぜ合わせたもの。	・モンモリロナイト粘土混合物 (粘土の一種。高い粘着性や吸水性を利用して、土木工事のほか陶磁器製造、農薬、食品添加物など様々な用途に使用されるもの)

対応 I : 掘進停止中も、土の締め固まりを生じさせません

実施状況

- 中央JCT B・Fランプシールドトンネル工事は、現在まで鉋物系の添加材を使用して土の締め固めを生じることなく、掘進を行っています。
- カッター回転不能となる事象は発生していません。

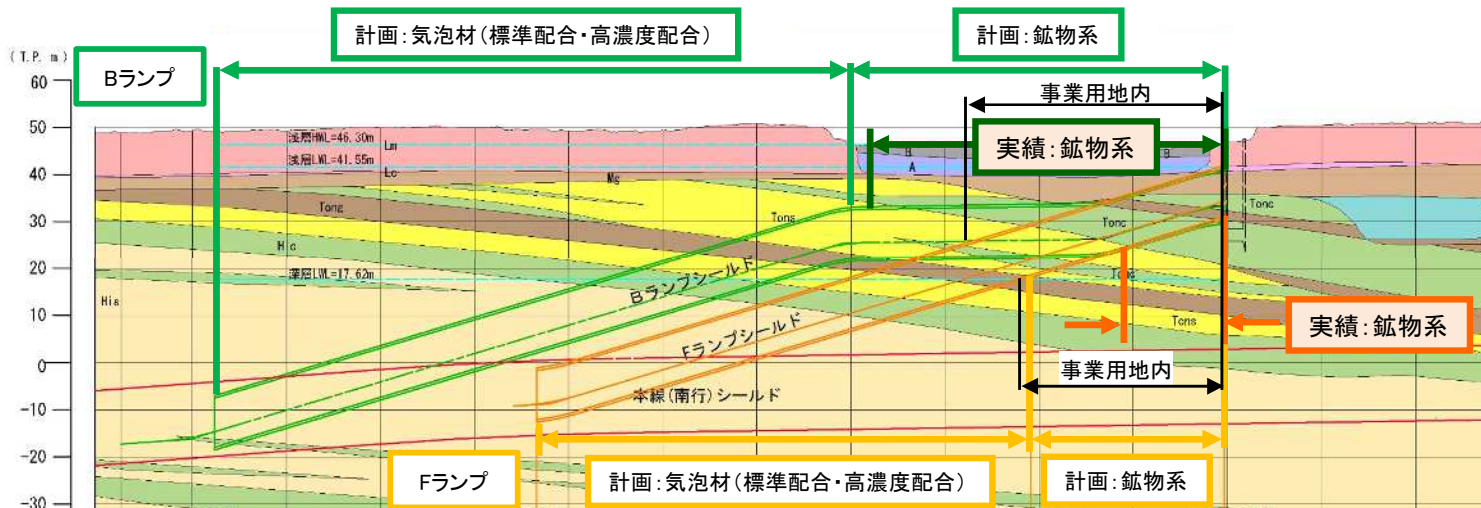
< 添加材使用計画・実績図 >



鉋物系添加材注入ポンプ



鉋物系添加材用泥水タンク



※路線地質縦断面図 (平成26年度時点)

凡例

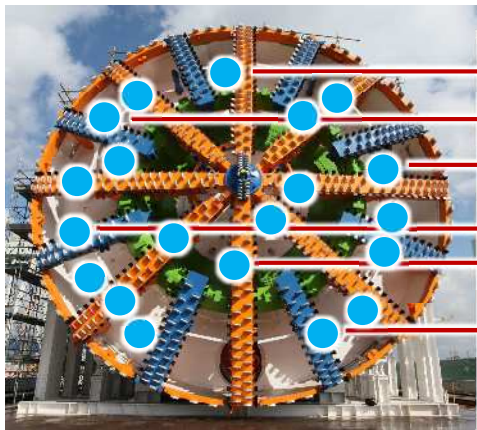
地質時代	地質層名	地質記号	層相
完新世	礫土、埴土	B	礫混じり土主体
	沖積層	A	軟質な粘性土、腐植土
第四紀更新世	関東ローム層	Lm	火山灰質粘性土
	ローム質粘土層	Lc	乳土化した関東ローム層
	立川礫層	Tg	砂 礫
	武蔵野礫層	Mg	砂 礫
	世田谷層	Setc	細粒分の多い粘性土
		Setg	砂 礫
		Eda	粘性土
		Edc	締まった砂礫が主体で、締まった砂、硬い粘性土を挟む地層
		Edg	砂 礫
		Tono	粘性土
上総層群	吾人層	Tons	締まった砂礫、砂、硬い粘性土が繰り返す地層
		Hi c	粘性土
	東久留米層	Hi s	締まった砂が主体で、硬い粘性土の薄層を挟む地層
		Hi g	砂 礫
	北多摩層	Ki c	硬い粘性土が主体の地層

対応 I : 掘進停止中も、土の締め固まりを生じさせません

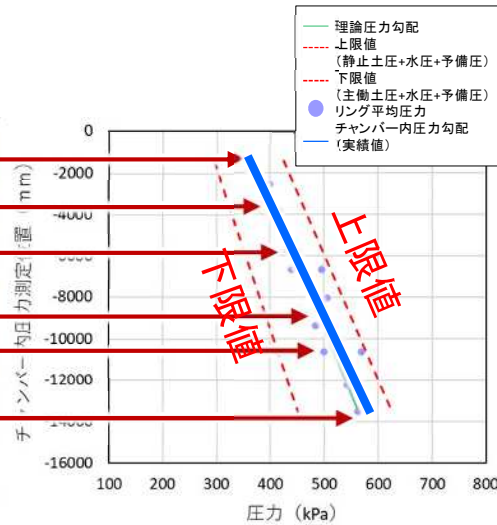
中央JCT B・Fランプシールドトンネル工事の塑性流動性とチャンバー内圧力のモニタリングと対応

実施状況

- カッタートルク※1、チャンバー内圧力勾配※2等の状況をリアルタイムで監視する設備を搭載しています。



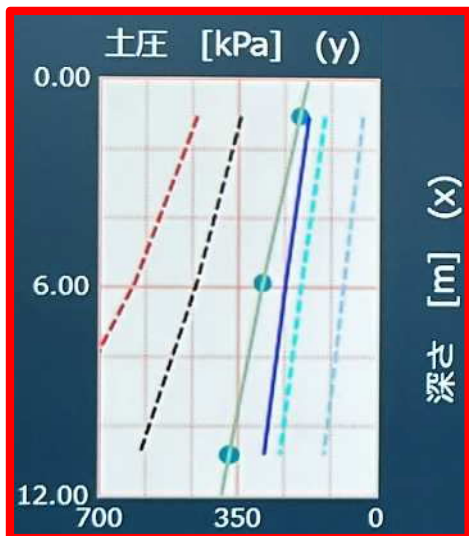
圧力計位置(参考例)



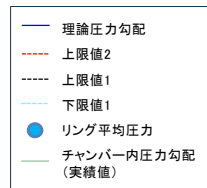
チャンバー内圧力勾配の確認



監視モニターによるリアルタイム監視の例



チャンバー内圧力勾配のリアルタイム監視状況の例



カッタートルクのリアルタイム監視状況の例

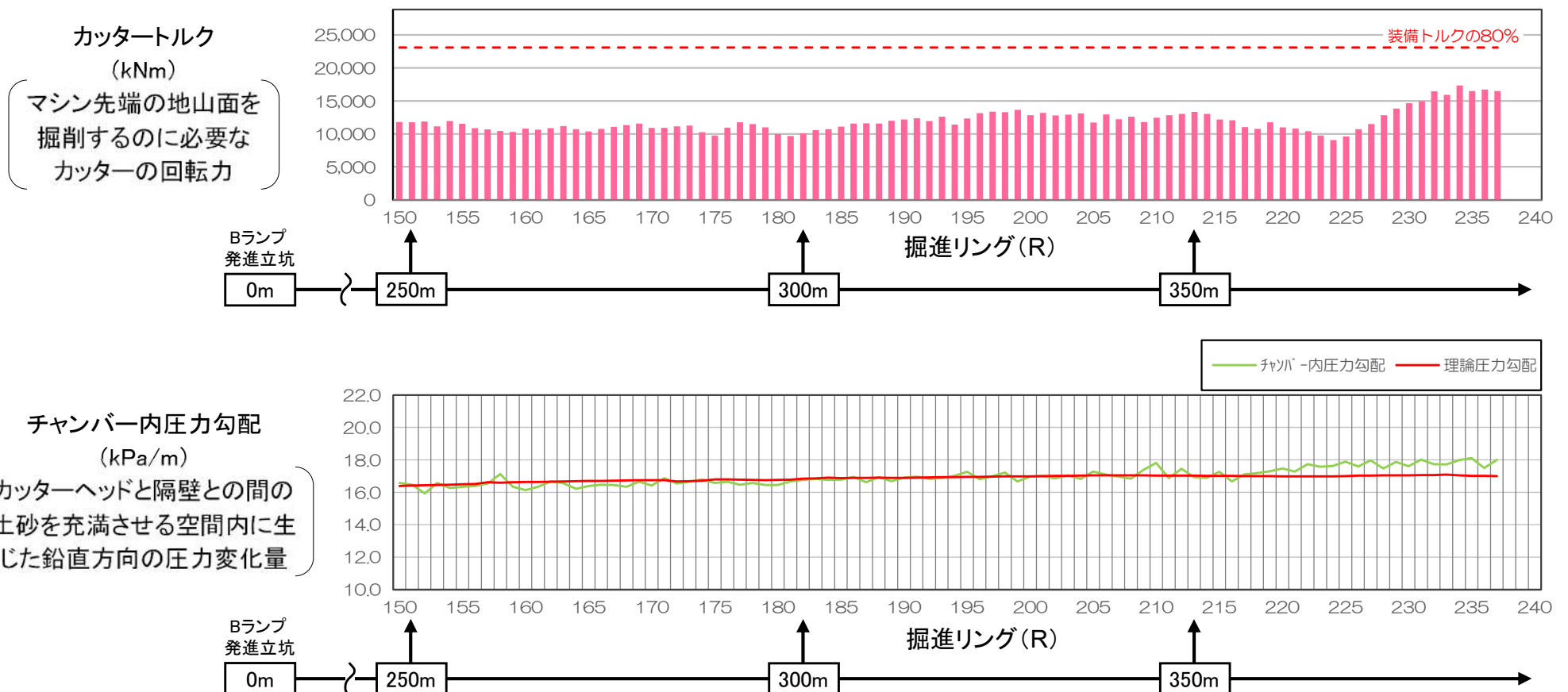
※1 カッタートルク : マシン先端の地山面を掘削するのに必要なカッターの回転力
 ※2 チャンバー内圧力勾配 : カッターヘッドと隔壁との間の土砂を充填させる空間内に生じた鉛直方向の圧力変化量

対応 I : 掘進停止中も、土の締め固まりを生じさせません

中央JCT Bランプシールドトンネル工事の施工データ(塑性流動性のモニタリング)

実施状況

- カッタートルクや新たな確認項目であるチャンバー内圧力勾配に異常がないことをリアルタイムで確認しています。
- 平日夜間・休日停止後のカッター起動も円滑に行われていることを確認しています。

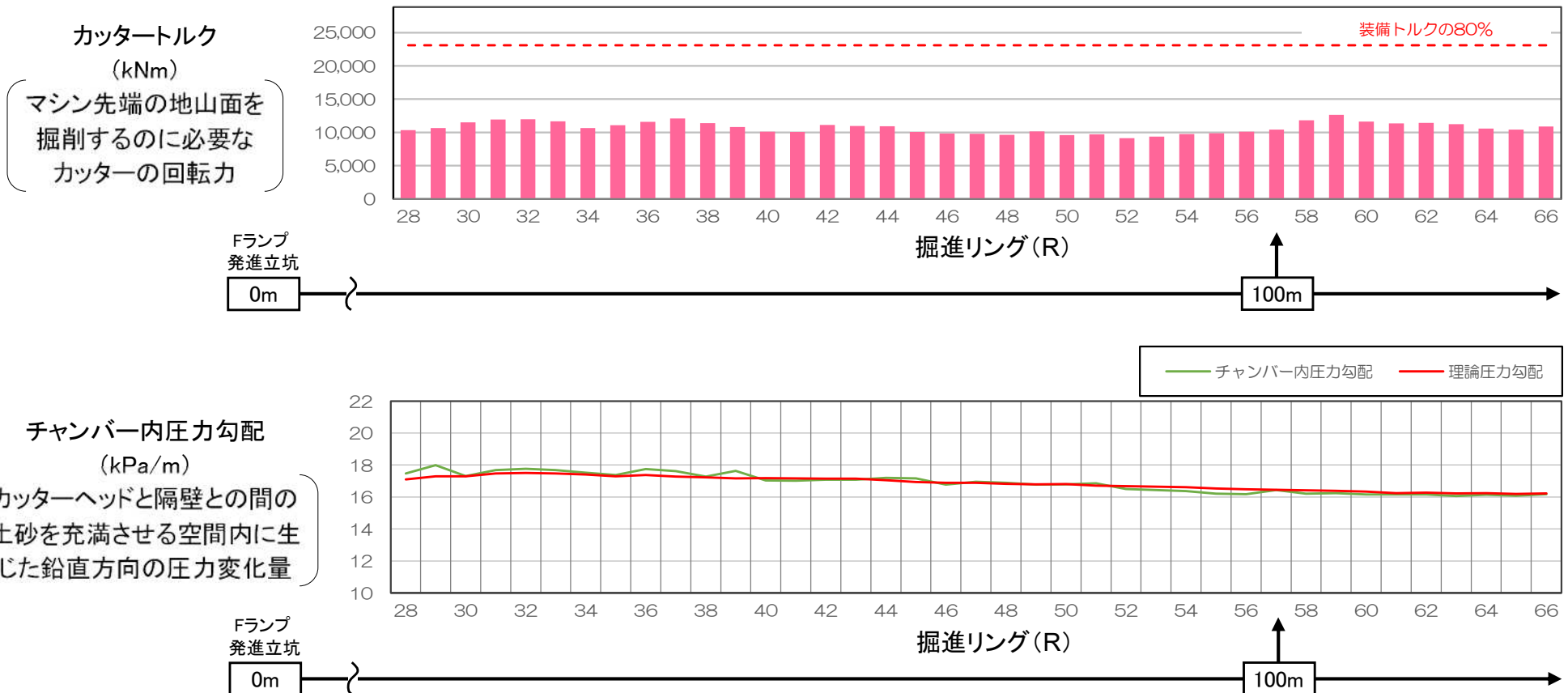


対応 I : 掘進停止中も、土の締め固まりを生じさせません

中央JCT Fランプシールドトンネル工事の施工データ(塑性流動性のモニタリング)

実施状況

- カッタートルクや新たな確認項目であるチャンバー内圧力勾配に異常がないことをリアルタイムで確認しています。
- 平日夜間・休日停止後のカッター起動も円滑に行われていることを確認しています。



対応Ⅰ：掘進停止中も、土の締め固まりを生じさせません

中央JCT Bランプシールドトンネル工事の排土性状確認結果（手触、目視、ミニスランプ試験、粒度分布）

実施状況

- モニタリングデータや排土性状確認結果より、排土性状の大きな変化は確認されていません。
- 掘削土を1日2回の頻度で採取し、手触、目視、ミニスランプ試験を行い、排土性状の変化を確認しています。
- 20リングに1回の頻度を基本として掘削土の粒度分布試験を実施し、細粒分や礫分の比率などを確認しています。

■手触・目視・ミニスランプ



160R 手触・目視



160R ミニスランプ

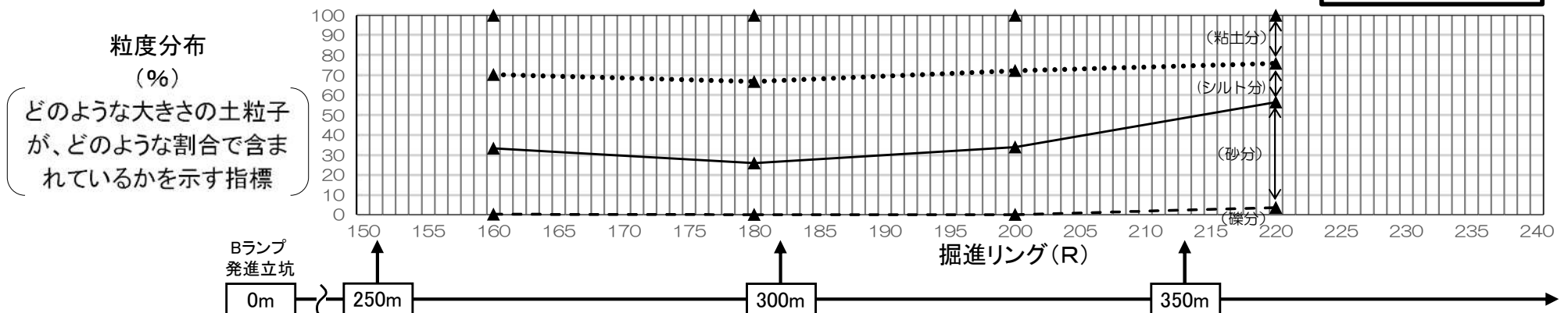


220R 手触・目視



220R ミニスランプ

■粒度分布試験結果



細粒分：地盤を構成する土粒子の内、小さな土粒子(0.075mm未満のシルト・粘土)のこと

対応 I : 掘進停止中も、土の締め固まりを生じさせません

中央JCT Fランプシールドトンネル工事の排土性状確認結果 (手触、目視、ミニスランプ試験、粒度分布)

実施状況

- モニタリングデータや排土性状確認結果より、排土性状の大きな変化は確認されていません。
- 掘削土を1日2回の頻度で採取し、手触、目視、ミニスランプ試験を行い、排土性状の変化を確認しています。
- 20リングに1回の頻度を基本として掘削土の粒度分布試験を実施し、細粒分や礫分の比率などを確認しています。

■手触・目視・ミニスランプ



43R 手触・目視



43R ミニスランプ

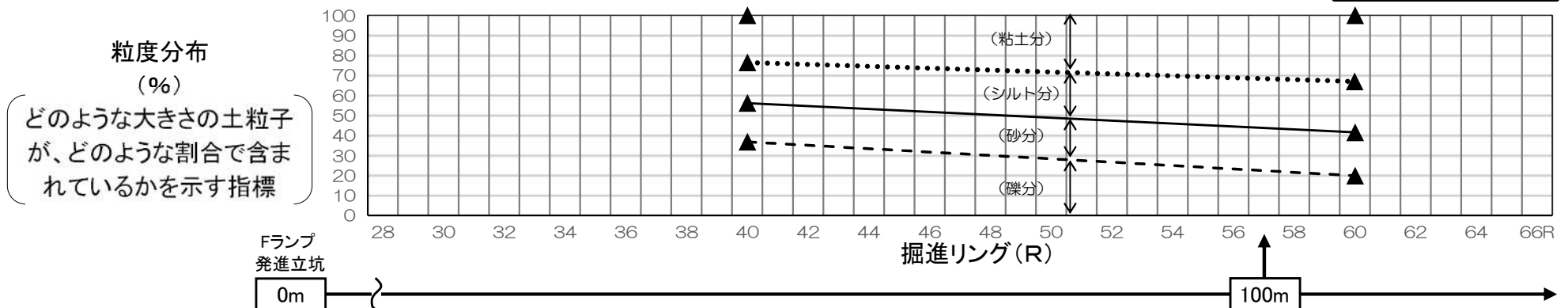


66R 手触・目視



66R ミニスランプ

■粒度分布試験結果



細粒分: 地盤を構成する土粒子の内、小さな土粒子(0.075mm未満のシルト・粘土)のこと

対応II：取り込んだ土の量を丁寧に把握します

ポイント

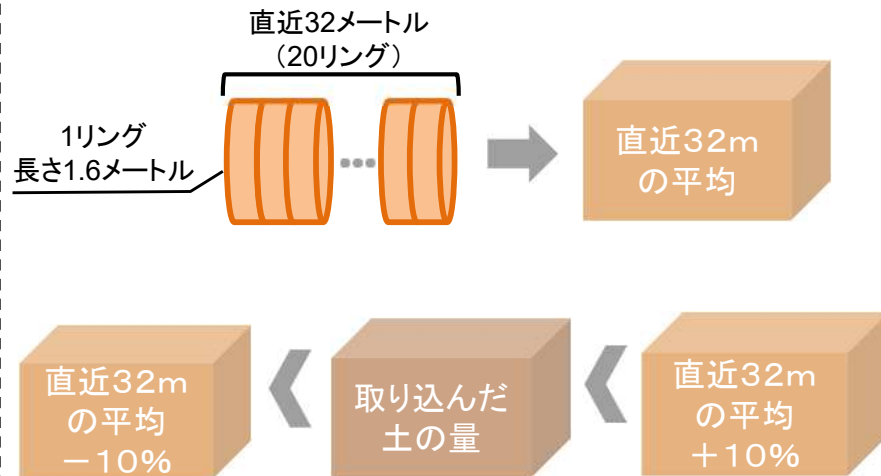
過剰な土の取り込みの兆候を早期に把握し、過剰な土の取り込みを生じさせない

原因と対応

○従来の管理方法では、異常の兆候が確認できなかった

＜従来の管理方法＞

- 直近32mの平均取り込み量と比較して管理
- 土の取り込み量の管理値は±10%に設定



- 土の取り込み量の管理値を厳格化
- 土の取り込み量の管理項目を追加
- 工事体制の強化

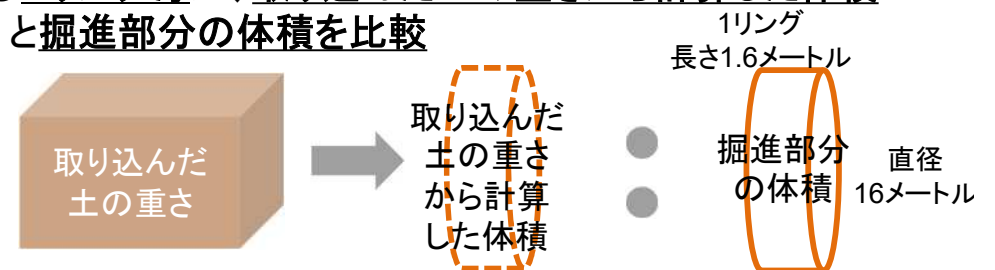
管理値の厳格化

○陥没発生箇所の実績から、管理値を±10%から±7.5%に厳格化



管理項目の追加

○1リング毎に、取り込んだ土の重さから計算した体積と掘進部分の体積を比較



■体積の比較(排土率)

$$\frac{\text{取り込んだ体積 (重さ} \div \text{単位体積重量)}}{\text{掘進部分の体積 (マシン面積} \times \text{掘進距離)}} \times 100(\%)$$

- 100%超過の場合…土の取り込みが多い傾向
- 100%未満の場合…土の取り込みが少ない傾向

○添加材が地山へ浸透した場合も考慮

工事体制の強化

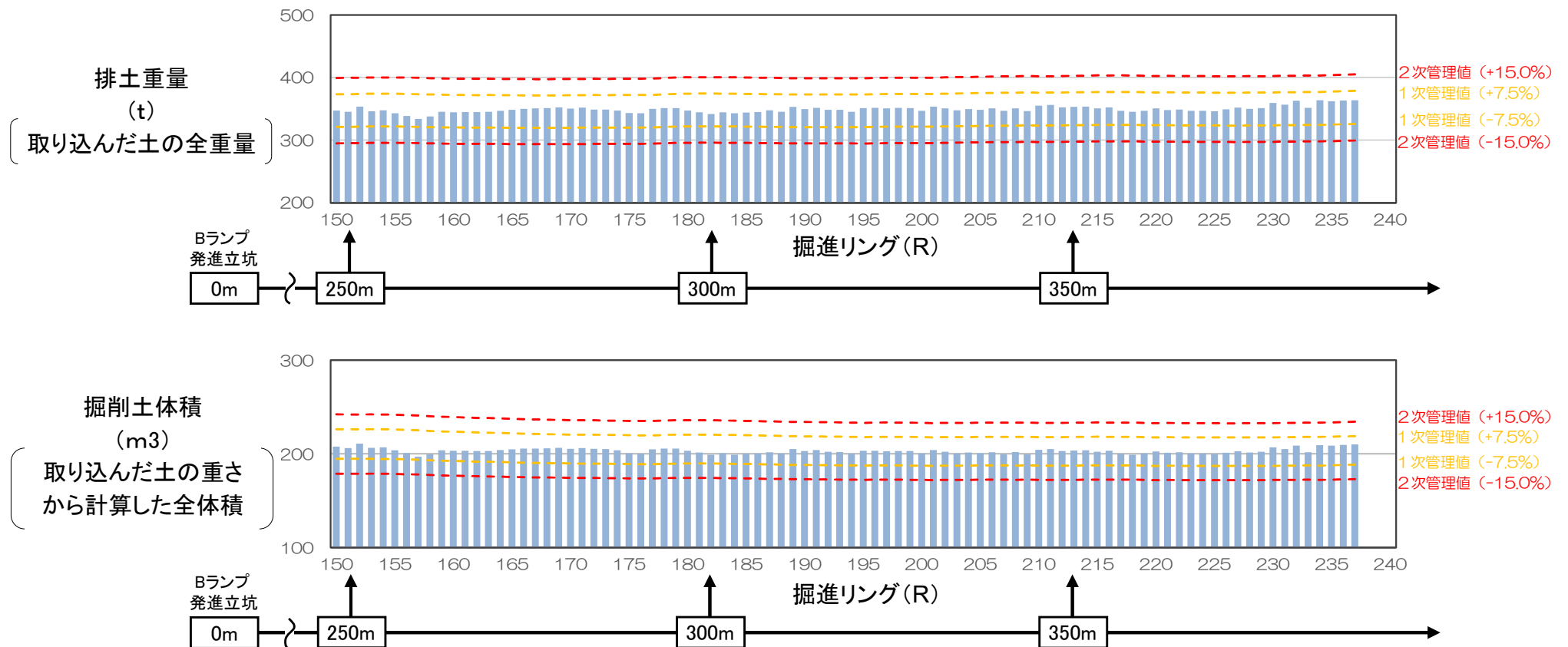
- 改善が見られない場合は掘進工事を一時停止
- 課題発生時の対応を事前に取り決め

対応II：取り込んだ土の量を丁寧に把握します

中央JCT Bランプシールドトンネル工事の施工データ(排土重量・掘削土体積・排土率)

実施状況

- 管理値を±10%から±7.5%に厳格化した排土重量、掘削土体積、新たな管理値として追加した排土率を用いて、排土量管理を実施しています。
- 排土重量、掘削土体積、排土率を確認し、掘進における管理フロー(切羽の安定管理、掘削土量)に基づき、適切に施工が行われていることを確認しています。
- 排土重量、掘削土体積は1次管理値の範囲内であることを確認しています。

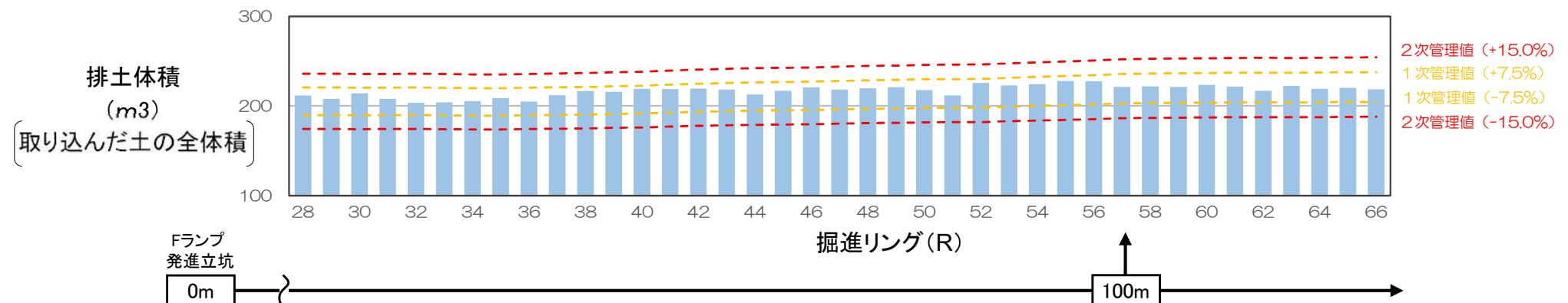
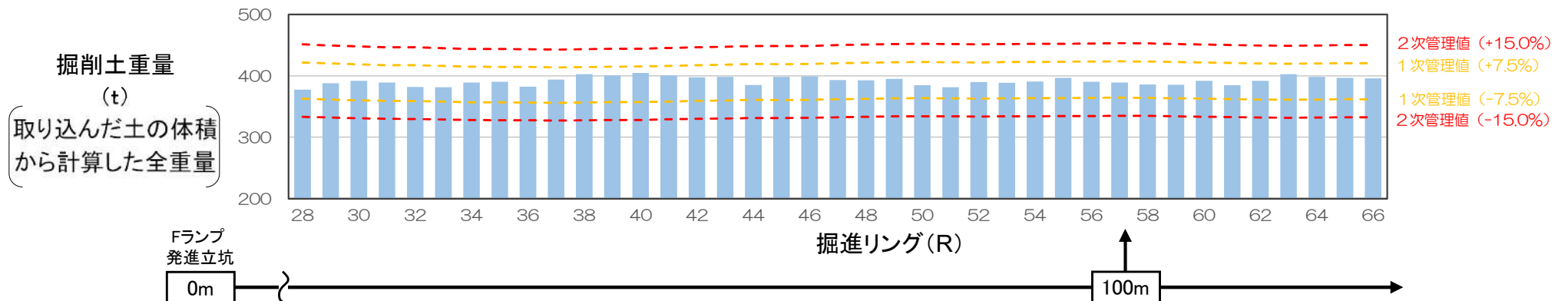


対応II：取り込んだ土の量を丁寧に把握します

中央JCT Fランプシールドトンネル工事の施工データ(掘削土重量・排土体積・排土率)

実施状況

- 管理値を±10%から±7.5%に厳格化した掘削土重量、排土体積、新たな管理値として追加した排土率を用いて、排土量管理を実施しています。
- 掘削土重量、排土体積、排土率を確認し、掘進における管理フロー(切羽の安定管理、掘削土量)に基づき、適切に施工が行われていることを確認しています。
- 排土重量、掘削土体積は1次管理値の範囲内であることを確認しています。

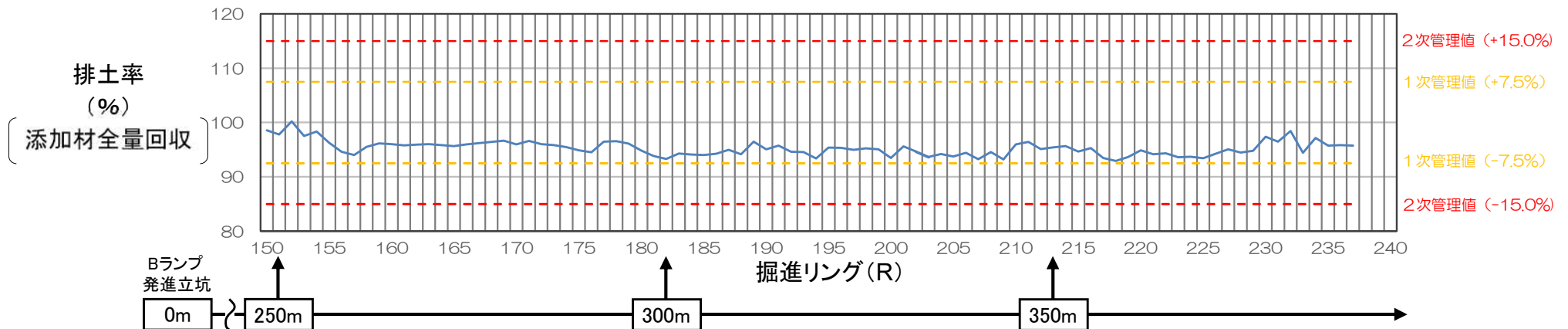


対応II：取り込んだ土の量を丁寧に把握します

中央JCT Bランプシールドトンネル工事の施工データ(掘削土重量・排土体積・排土率)

実施状況

- 体積の比較(排土率)は、1次管理値の範囲で収まっていることを確認しています。
- 掘進における管理フロー(切羽の安定管理、掘削土量)に基づき、適切に施工が行われていることを確認しています。



<排土率>

$$\frac{\text{取り込んだ体積 (重さ/単位体積重量)}}{\text{掘進部分の体積 (マシン面積×掘進距離)}} \times 100(\%)$$

100%超過の場合・・・土の取り込みが多い傾向

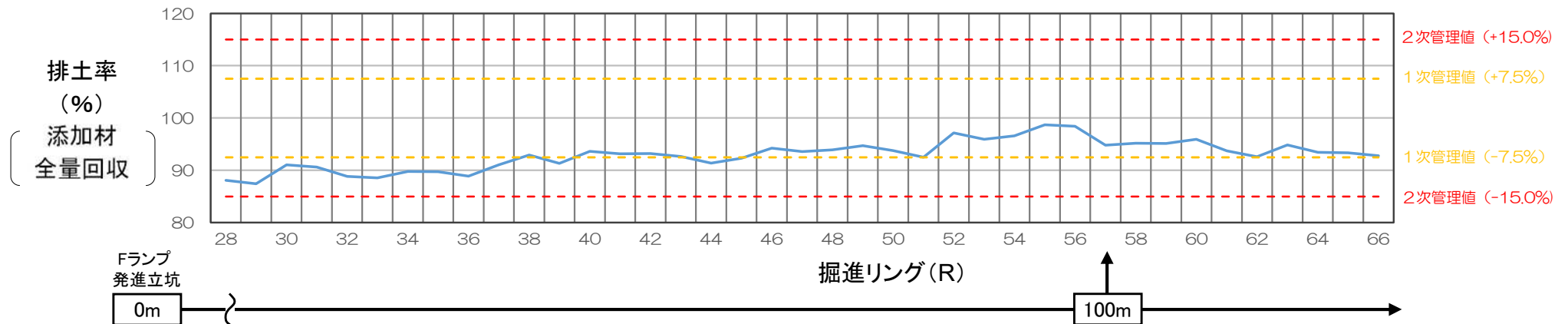
100%未満の場合・・・土の取り込みが少ない傾向

対応II：取り込んだ土の量を丁寧に把握します

中央JCT Fランプシールドトンネル工事の施工データ(掘削土重量・排土体積・排土率)

実施状況

- 掘進における管理フロー(切羽の安定管理、掘削土量)に基づき、適切に施工が行われていることを確認しています。
- 排土率は、下限側の1次管理値を超過する傾向が確認されたことから、各施工データの確認を行い、異常の兆候がないことを確認し、掘進を継続しています。



※1次管理値を超過した区間について(28~37R、39R、44R~45R及び51R)

- ・ 砂・礫分が比較的多い地盤であったため、掘進する際の圧力により、地山に存在する間隙水等が掘削断面の外に押し出されたことなどで、排土率が低くなったものと考えられます。

<排土率>

$$\frac{\text{取り込んだ体積 (重さ/単位体積重量)}}{\text{掘進部分の体積 (マシン面積×掘進距離)}} \times 100(\%)$$

100%超過の場合・・・土の取り込みが多い傾向

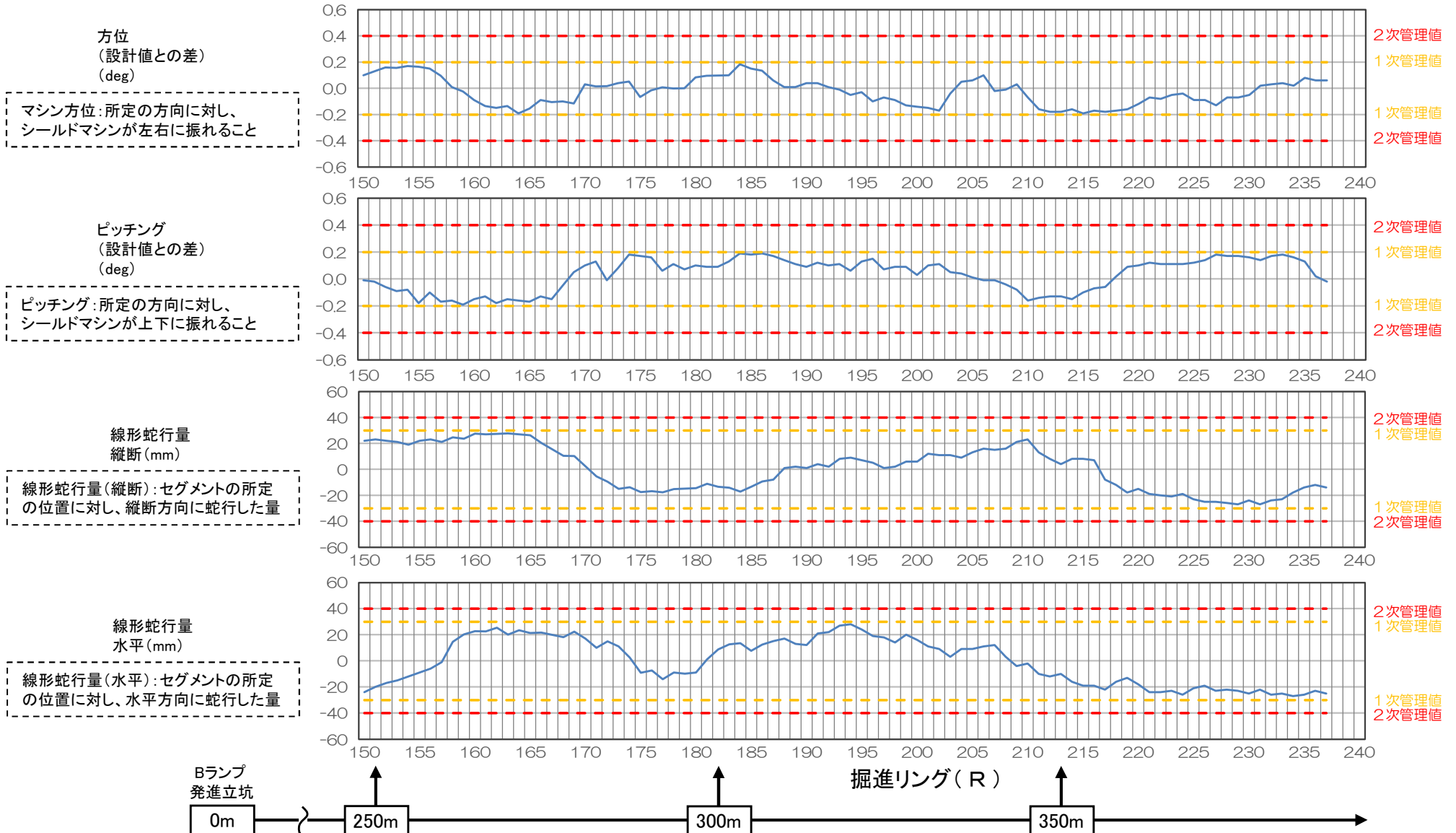
100%未満の場合・・・土の取り込みが少ない傾向

対応II: 取り込んだ土の量を丁寧に把握します

中央JCT Bランプシールドトンネル工事の施工データ(マシン制御等)

実施状況

- マシン方向制御の掘進管理項目(方位、ピッチング)及び線形蛇行量は、管理値の範囲で収まっていることを確認しています。

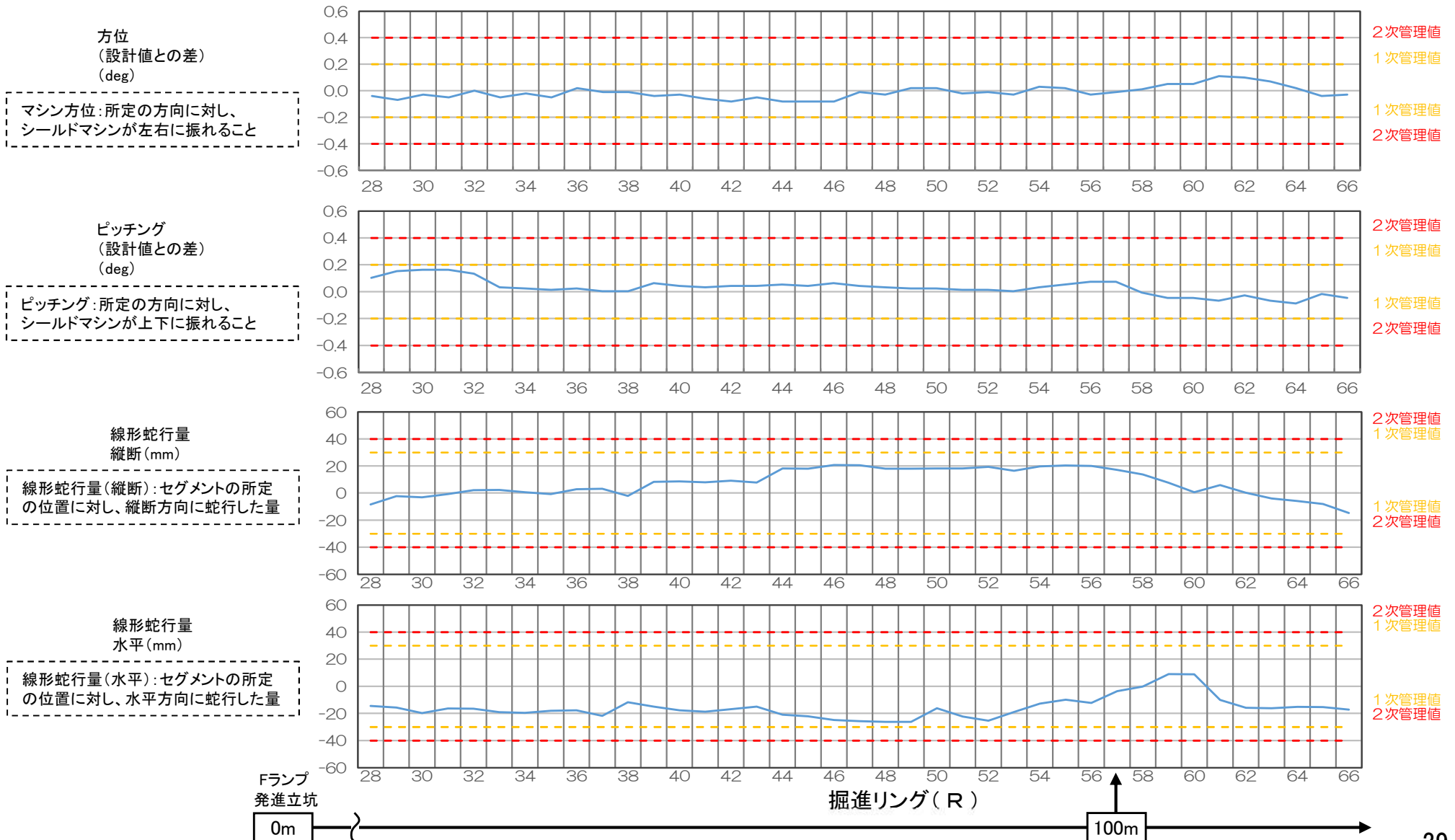


対応II: 取り込んだ土の量を丁寧に把握します

中央JCT Fランプシールドトンネル工事の施工データ(マシン制御等)

実施状況

- マシン方向制御の掘進管理項目(方位、ピッチング)及び線形蛇行量は、管理値の範囲で収まっていることを確認しています。



対応Ⅱ：取り込んだ土の量を丁寧に把握します

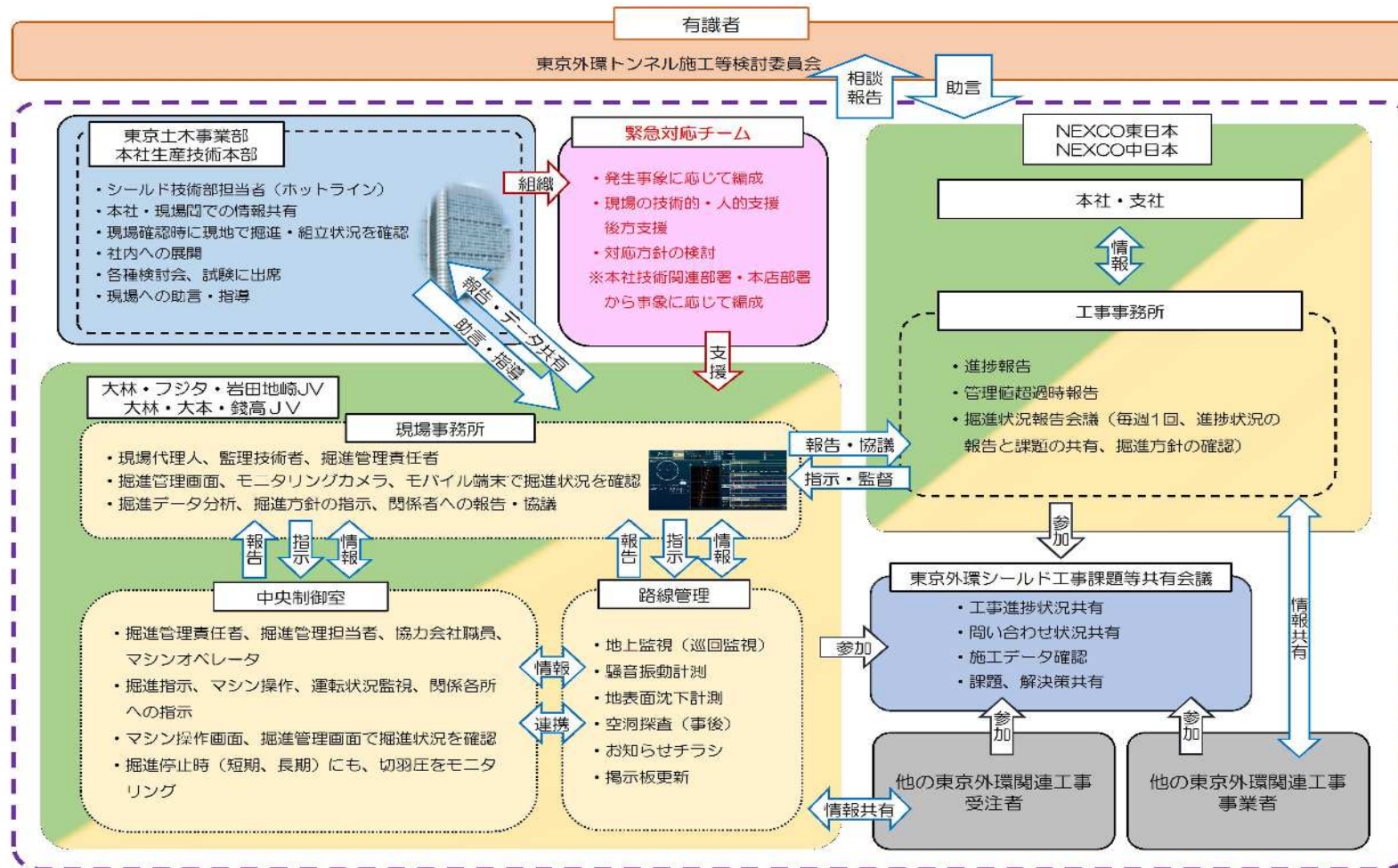
中央JCT B・Fランプシールドトンネル工事の工事体制強化

実施状況

- 関係者への日々の掘進状況の定時報告等の情報共有を確実に実施しています。
- 緊急時には同様にすみやかに情報共有がなされる体制を構築しています。

■掘進モニタリング体制

(中央JCT B・Fランプシールドトンネル工事の例)



※カッター回転不能（閉塞）時の対応

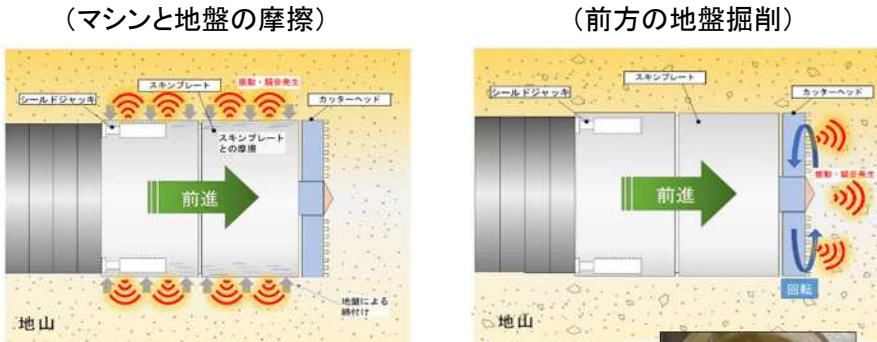
安全のために必要な措置を実施した上で、掘進を一時停止し、緊急対策チームを編成した上で、原因究明と地表面に影響を与えない対策を十分に検討する。また、閉塞解除後の地盤状況を確認するために、必要なボーリング調査等を実施していきます。

対応Ⅲ：地域の安全・安心を高めます

ポイント

- ・振動・騒音を低減
- ・モニタリングを強化
- ・情報提供を強化
- ・緊急時対応を整備

振動・騒音をできるだけ低減



■マシンと地盤の間に滑剤を投入



(滑剤)

地表面のモニタリングを強化

- 振動・騒音を日々計測し表示
- 掘進状況等を案内するガードマンを配置
- 3D計測など地表面計測方法
 - ・頻度を増加
- 巡回員等により24時間監視
- 掘進前後で路面下に空洞がないかを調査



(振動・騒音の表示)



3D点群データ調査



巡回員

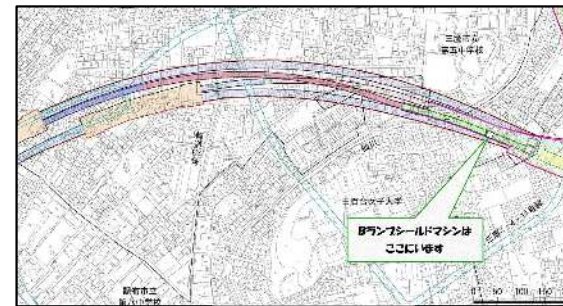


路面下空洞探査車

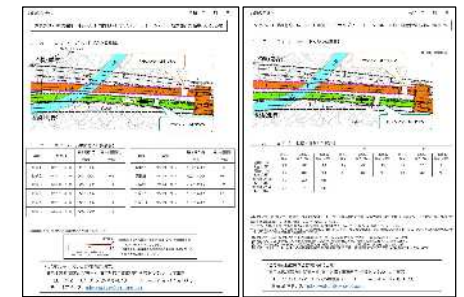
情報の提供

- お知らせチラシの配布頻度を増加
(1カ月前、通過前後)
- ホームページと掲示板で
工事情報や計測結果を公開
- お知らせチラシ等とあわせて計測結果を配布
- 相談窓口とフリーダイヤルを開設

(掲示板イメージ)



掘進状況公表例



モニタリング情報公表例

緊急時の対応をあらかじめ準備

- 掘進を一時停止する対応を予め整理
- 「安全・安心確保の取組み」を見直し、
連絡体制や情報提供の流れを確認
- 振動・騒音を特に気にされる方に
一時滞在所を提供
- お知らせチラシにおいて、一時避難先となる
オープンスペースを周知



(「トンネル工事の安全・安心確保の取組み」パンフレット)

対応Ⅲ：地域の安全・安心を高めます

中央JCT B・Fランプシールドトンネル工事の対応状況(振動・騒音)

実施状況

- 振動・騒音計測および振動・騒音の緩和に向けた対応を適切に実施しています。

- ・ スキンプレートと地山との間に滑剤をいつでも充填できる設備を搭載
- ・ 掘進速度の調整

滑剤注入口

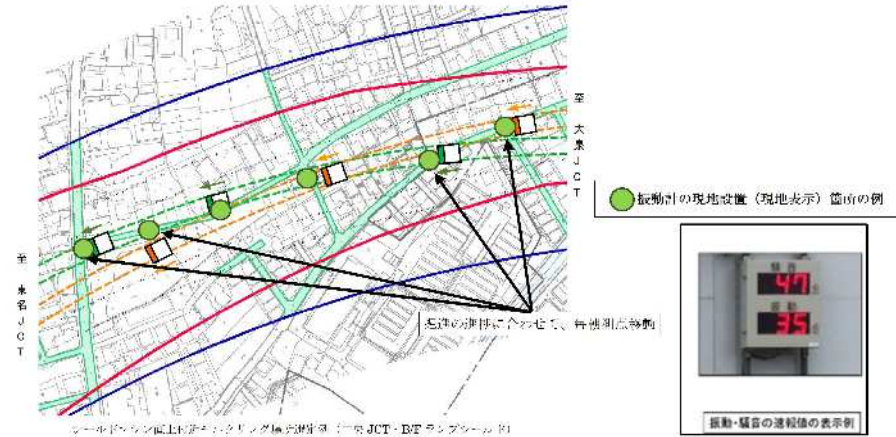


滑剤充填設備(中央JCT Bランプシールドトンネル工事の実績)

滑剤作液プラント

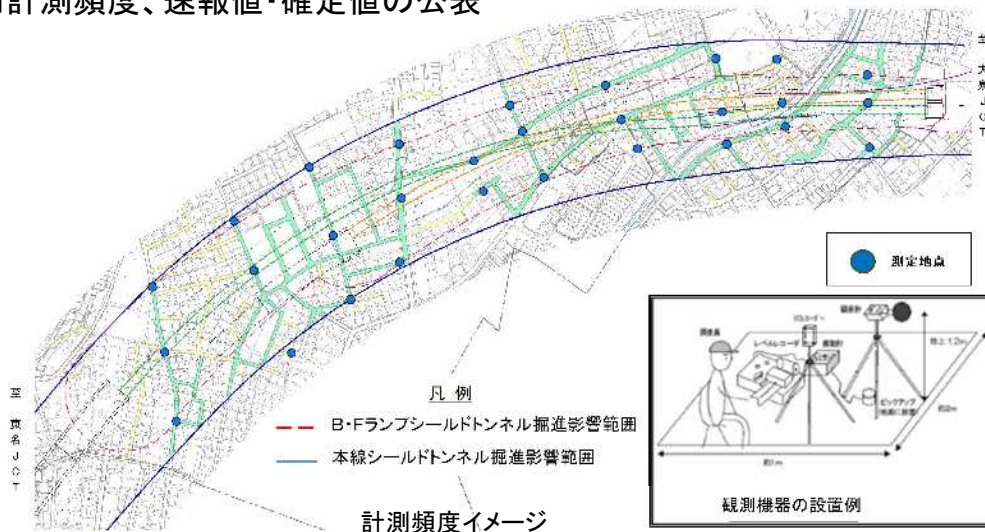


■シールドマシン直上付近でのモニタリング(簡易計測)



シールドマシン直上付近モニタリング場所選定イメージ

■計測頻度、速報値・確定値の公表



■計測箇所付近に状況をご案内するガードマンを配置



ガードマンの配置イメージ

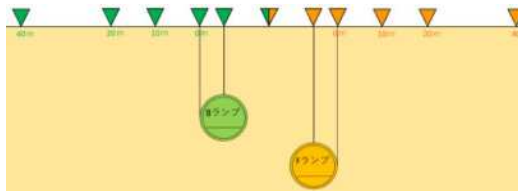
対応Ⅲ：地域の安全・安心を高めます

中央JCT B・Fランプシールドトンネル工事での対応状況(地表面変位等)

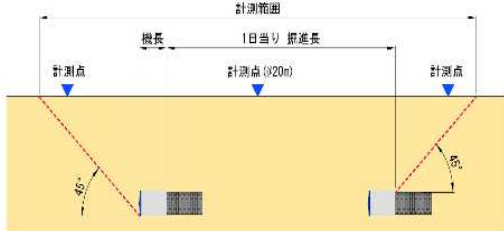
実施状況

- 地表面計測やMMS(3D点群調査)、巡回監視などを適切に実施しています。

■シールド掘進に伴う地表面計測

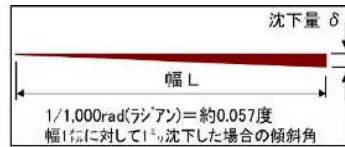


横断方向 計測範囲



縦断方向 計測範囲

地表面変位は掘進前後の最大地表面傾斜角(1,000分の1rad以下)により管理する。



- 地表面傾斜角1,000分の1rad以下とは家屋に影響を与えない地盤変位の目安である。
- 「建築学会小規模建築物基礎設計の手引き1998年」の記載を参考に設定。



掲示板での情報提供イメージ

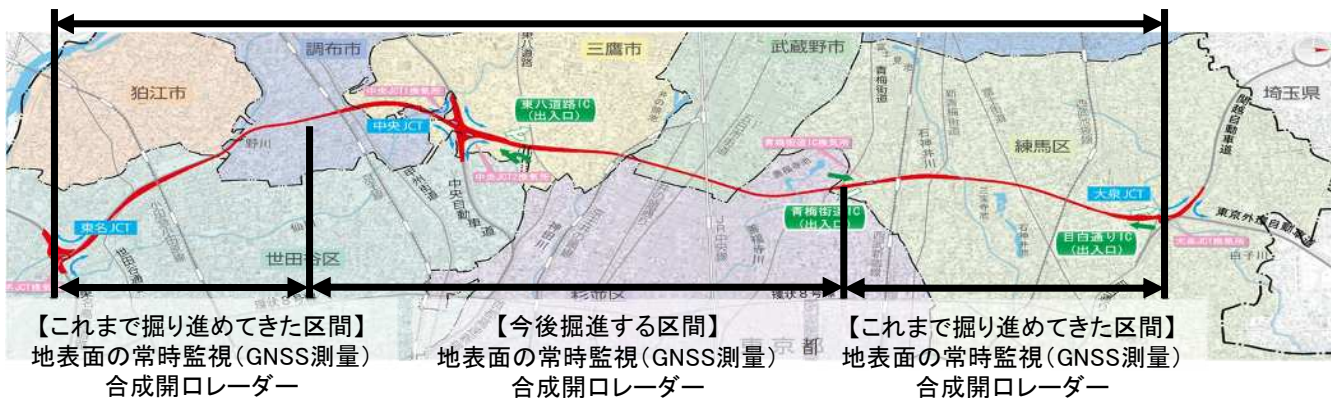
■MMS(3D点群調査)



■巡回監視



■GNSS・合成開口レーダー



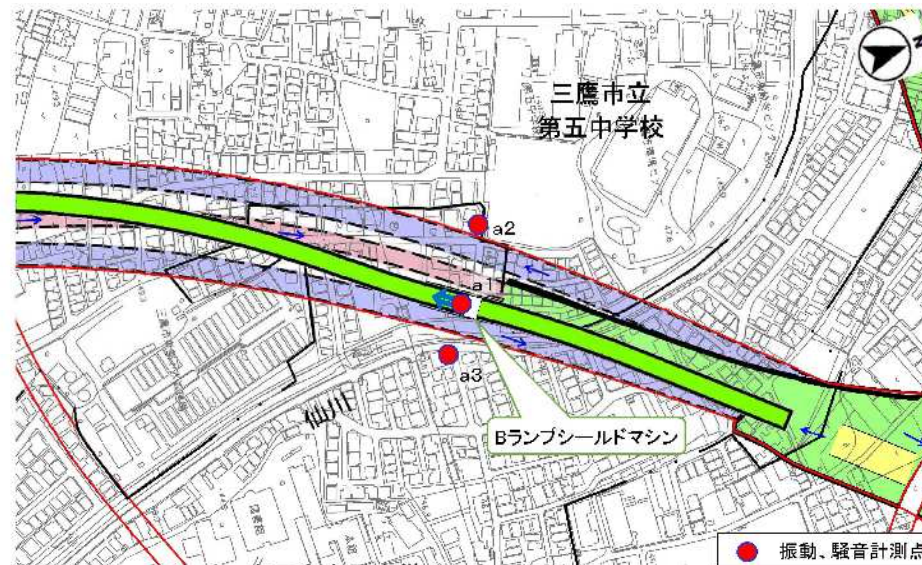
対応Ⅲ：地域の安全・安心を高めます

中央JCT Bランプシールドトンネル工事の対応状況(振動・騒音)

実施状況

- 振動レベル、騒音レベル、低周波レベルについて停止中と掘進中で明確な差異は確認されませんでした。

【令和7年5月28日(水) シールドマシン位置図】



【令和7年5月28日(水) 7:30~17:00 振動・騒音計測結果(確定値)】

	a1		a2		a3	
	停止中 最大	掘進中 最大	停止中 最大	掘進中 最大	停止中 最大	掘進中 最大
振動レベル L ₁₀ (dB)	32	35	29	32	35	34
騒音レベル L _{A5} (dB)	53	55	58	60	52	57
低周波レベル L ₅₀ (dB)	71	71				
低周波レベル L _{G5} (dB)	72	73				

* 振動レベル、騒音レベル、低周波レベルの測定はシールドマシン通過時にその直上付近で実施しています。計測点はシールドマシン中心および影響範囲端部を基本とし、事業用地や公道などで実施しています。

* 上表は、特異値(例:大型車両通過に伴う振動、緊急車両サイレンなど)を除外した数値を示しています。

【振動レベル L10】 振動レベルをある時間測定したとき、全測定値の大きい方から 10%目の値を L10と表します。

【騒音レベル LA5】 騒音レベルをある時間測定したとき、全測定値の大きい方から5%目の値を LA5と表します。

【低周波レベル L50】 1~80Hzの周波数範囲内をある時間測定したとき、全測定値の中央値を L50と表します

【低周波レベル LG5】 1~20Hzの周波数範囲内をある時間測定したとき、全測定値の大きい方から 5%目の値を LG5と表します

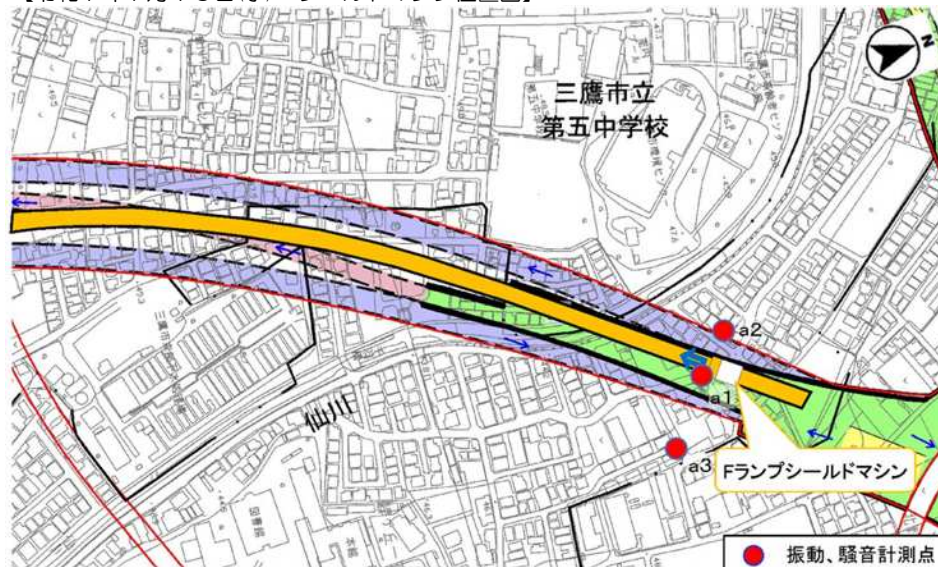
対応Ⅲ：地域の安全・安心を高めます

中央JCT フランプシールドトンネル工事の対応状況(振動・騒音)

実施状況

- a1地点(シールドマシン直上付近)で停止中と掘進中で振動レベルの上昇傾向が確認されましたが、規制基準値内でした。
- 騒音レベル及び低周波レベルについては停止中と掘進中で明確な差異は確認されませんでした。

【令和7年7月16日(水) シールドマシン位置図】



【令和7年7月16日(水) 7:30~17:00 振動・騒音計測結果(確定値)】

	a1		a2		a3	
	停止中 最大	掘進中 最大	停止中 最大	掘進中 最大	停止中 最大	掘進中 最大
振動レベル L ₁₀ (dB)	38	49	29	35	35	43
騒音レベル L _{A5} (dB)	57	54	55	57	57	55
低周波レベル L ₅₀ (dB)	64	67				
低周波レベル L _{G5} (dB)	67	74				

* 振動レベル、騒音レベル、低周波レベルの測定はシールドマシン通過時にその直上付近で実施しています。計測点はシールドマシン中心および影響範囲端部を基本とし、事業用地や公道などで実施しています。

* 上表は、特異値(例:大型車両通過に伴う振動、緊急車両サイレンなど)を除外した数値を示しています。

【振動レベル L10】 振動レベルをある時間測定したとき、全測定値の大きい方から 10%目の値を L10と表します。

【騒音レベル LA5】 騒音レベルをある時間測定したとき、全測定値の大きい方から5%目の値を LA5と表します。

【低周波レベル L50】 1~80Hz の周波数範囲内をある時間測定したとき、全測定値の中央値を L50と表します

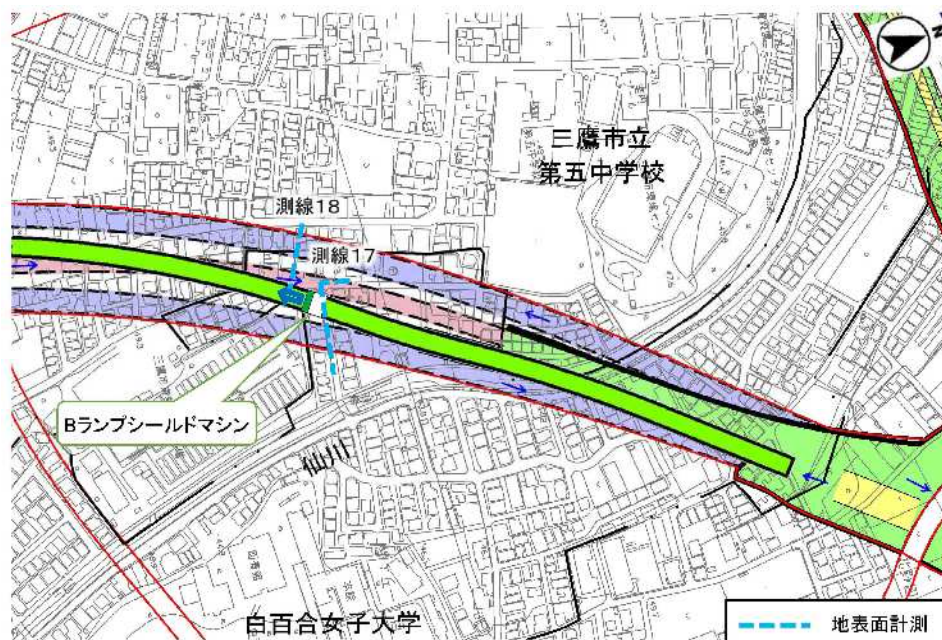
【低周波レベル LG5】 1~20Hz の周波数範囲内をある時間測定したとき、全測定値の大きい方から 5%目の値を LG5と表します

対応Ⅲ：地域の安全・安心を高めます

中央JCT B・Fランプシールドトンネル工事の対応状況(地表面変位)

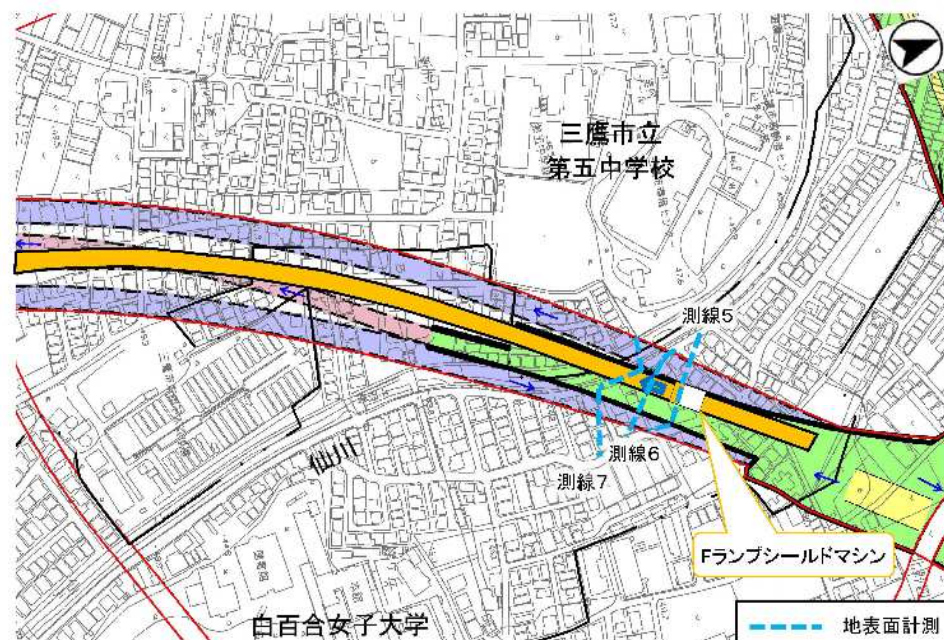
実施状況

- 掘進前後の地表面変位は基準値以下であることを確認しています。
基準値：最大傾斜角は1000分の1rad以下※



【令和7年10月21日(火) 地表面変位計測結果】

測線	基準日	最大傾斜角 (rad)	最大鉛直変位 (mm)
測線17	令和7年 9月22日	0.2/1,000	+2
測線18	令和7年10月11日	0.0/1,000	-2



【令和7年10月21日(火) 地表面変位計測結果】

測線	基準日	最大傾斜角 (rad)	最大鉛直変位 (mm)
測線5	令和6年10月15日	0.1/1,000	-3
測線6	令和6年10月25日	0.3/1,000	-3
測線7	令和6年11月7日	0.1/1,000	+2

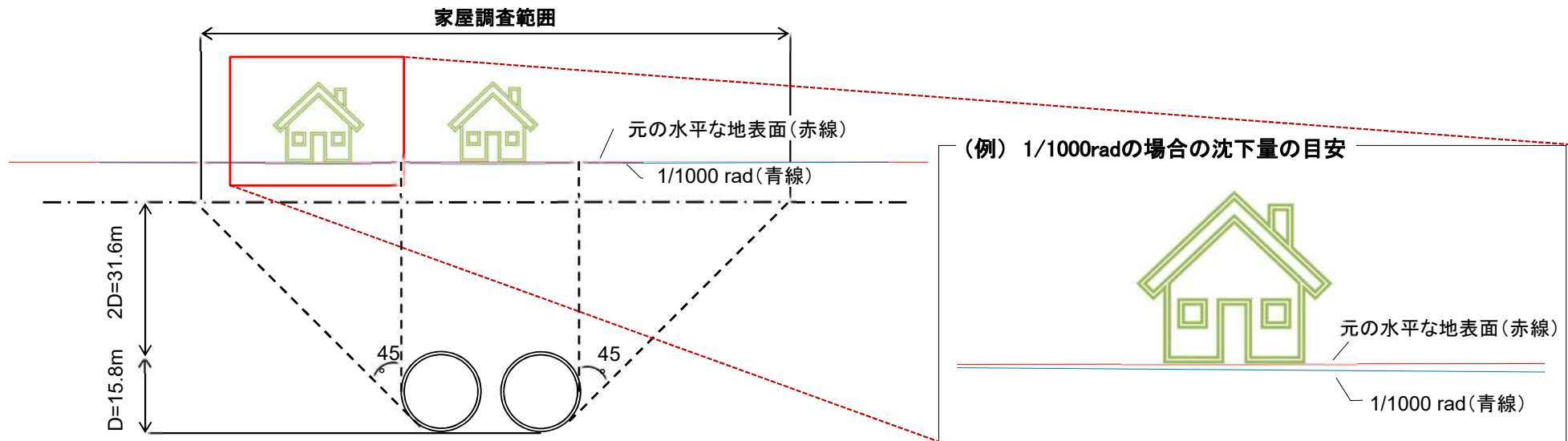
※最大傾斜角は、計測地点間の傾斜角の最大値を示しています



対応川：地域の安全・安心を高めます

- 家屋に影響を与えない地表面変位の目安は、地表面傾斜角1000分の1rad以下となります。
「日本建築学会 小規模建築物基礎設計の手引き(1998)」に記載を参考に設定しています。

<イメージ>



地表面傾斜角と一般家屋の影響		概要※
地表面 傾斜角	10/1000rad	柱が傾き、建具の開閉が不良となる。床が傾斜して支障を生じる。
	5/1000rad	壁と柱の間にすきまが生じ、壁やタイルにきれつが入る。窓・額縁や出入口枠の接合部にすきまが生じ、犬走りやブロック塀など外部構造物に被害が生じる。
	3/1000rad	つか立て床の不陸を生じ、布基礎・土間コンクリートにきれつが入る。
	1/1000rad	モルタル外壁・コンクリート犬走りにきれつが発生する。

傾斜を感じる
方がいらっしゃる

↑

傾斜を感じない

↓

※:出典:日本建築学会 小規模建築物基礎設計の手引き(1988)

対応Ⅲ：地域の安全・安心を高めます

中央JCT B・Fランプシールドトンネル工事での対応状況(自治体と連携した路面下空洞調査)

実施状況

- 掘進作業実施前に、今後掘進する区間の安全を確認するため、公道を対象に路面下空洞調査を実施しています。



(車道部)



(歩道部)

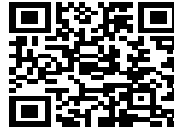
対応Ⅲ：地域の安全・安心を高めます

中央JCT B・Fランプシールドトンネル工事での対応状況(情報の提供)

実施状況

- ホームページや現場付近に設置する掲示板にてシールド工事の掘進状況やモニタリング情報をお知らせしています。

- ホームページでの公表 URL: <https://tokyo-gaikan-project.com>



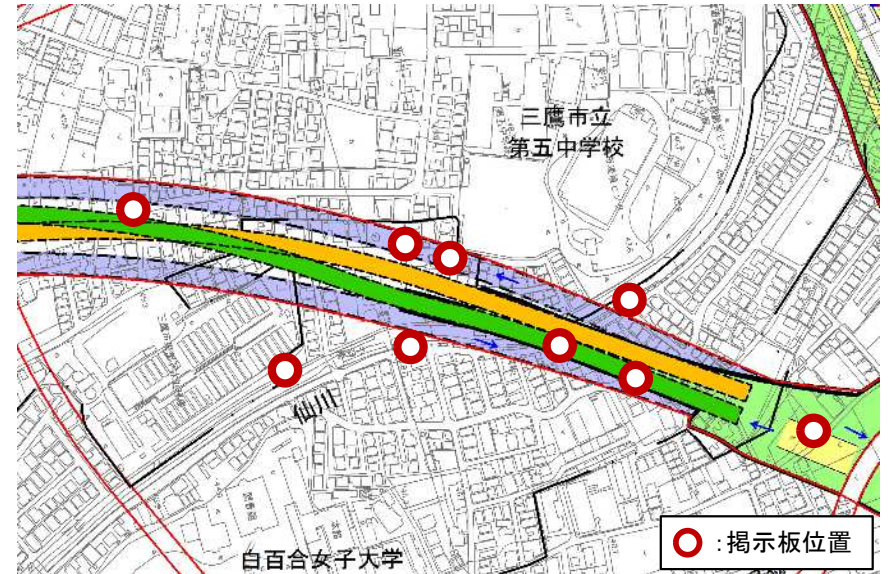
※日々更新

■ 定点写真



■ シールドマシン位置

■ 掲示板設置箇所(現状)



○ : 掲示板位置

■ 掲示板での公表



モニタリング情報公表例

■ お知らせチラシ



通過1ヶ月前

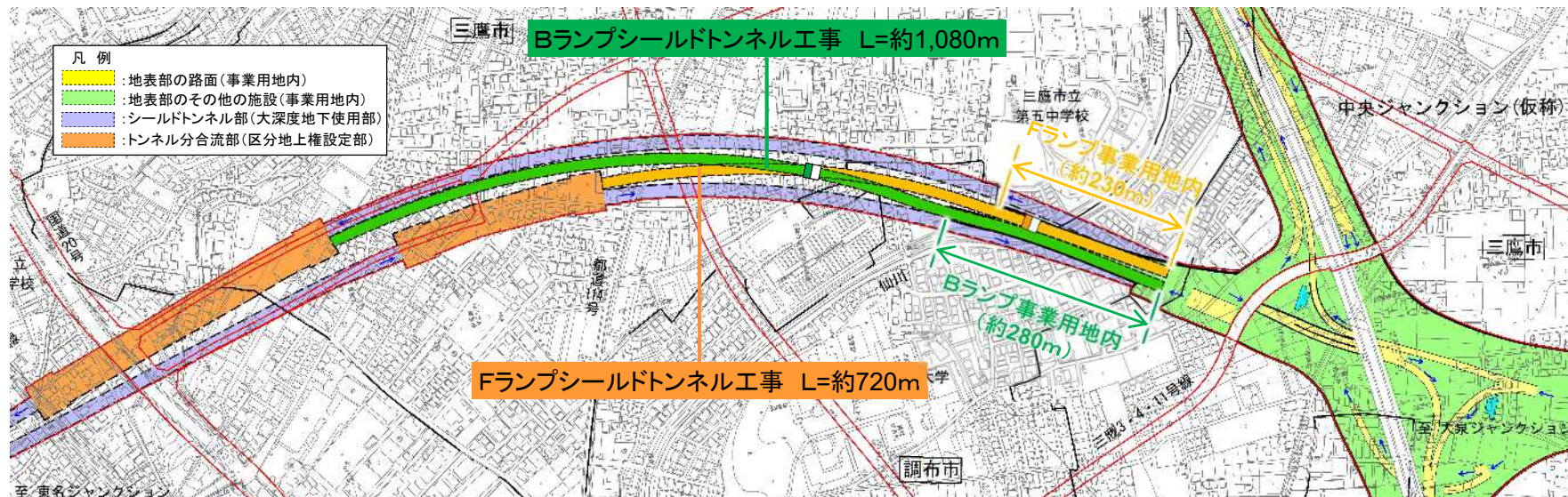
通過1週間前

通過後1ヶ月

※お知らせチラシに合わせてモニタリング情報を配布します。

今後の掘進について

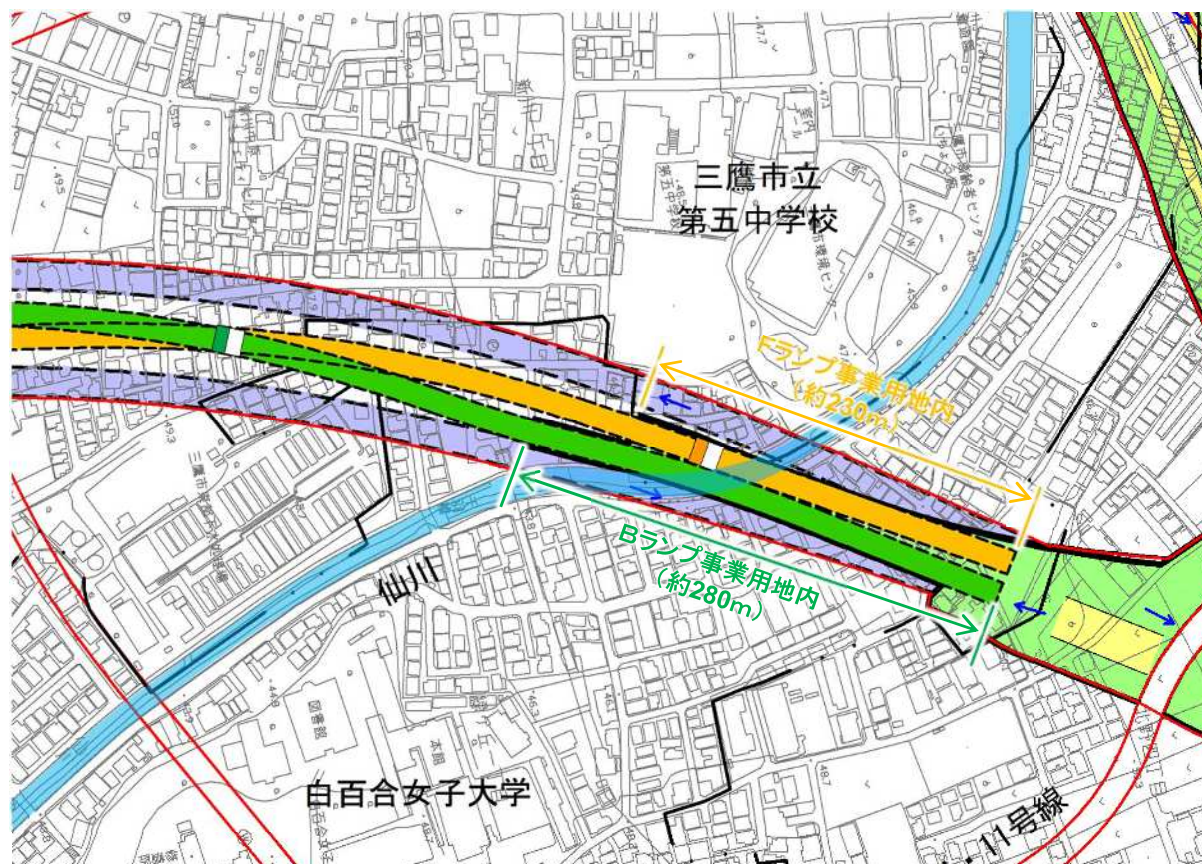
- 第26回(令和4年12月1日)東京外環トンネル施工等検討委員会において、中央JCT B・Fランプシールドトンネル工事の「再発防止対策及び地域の安全・安心を高める取り組み」について、妥当性を確認しております。
- 第33回(令和7年11月20日)の東京外環トンネル施工等検討委員会において、中央JCT B・Fランプシールドトンネル工事の再発防止対策等が有効に機能していることを確認しております。
- これを踏まえ、中央JCT Bランプシールドトンネル工事については、引き続き、事業用地外の掘進作業を丁寧かつ慎重に行ってまいります。また、中央JCT Fランプシールドトンネル工事については、引き続き事業用地内の掘進作業を進め、準備が整い次第、順次、事業用地外の掘進作業を丁寧かつ慎重に行ってまいります。



河川下及びその周辺における掘進管理

■河川部への掘進添加材等漏出の可能性について

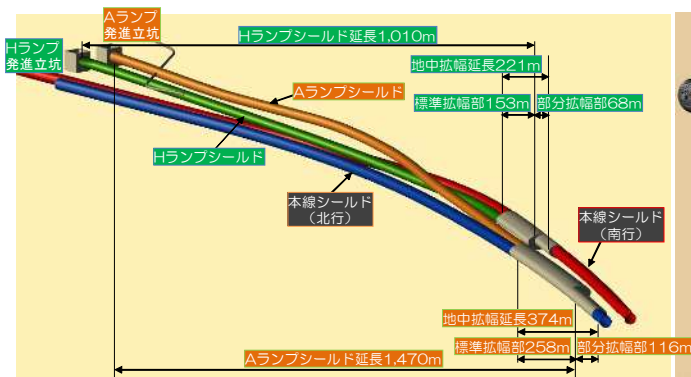
- Bランプは令和7年4～5月、Fランプは令和7年11～12月に、地盤に含まれる泥分や鉍物系添加材の一部が河川内に漏出することなく通過しました。
- 河川通過後の気泡材を添加材として使用する区間において、ごく一部の空気が、河川内に漏出する可能性があります。
- 仮に漏出した場合でも、地中から漏出した空気は、大気に対して微量であり希釈されるため、周辺環境に影響を与えるものではないと考えております。



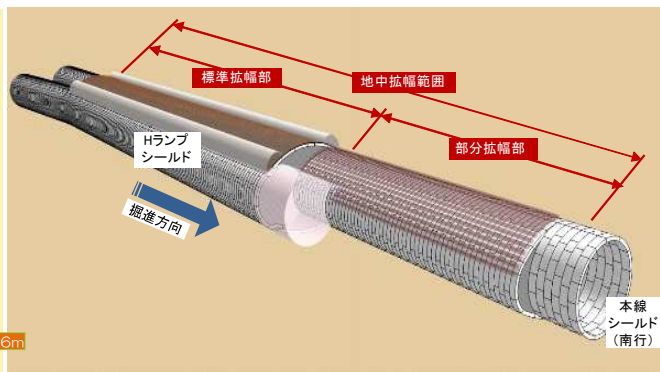
令和7年11月30日時点

東名JCT地中拡幅部の概要

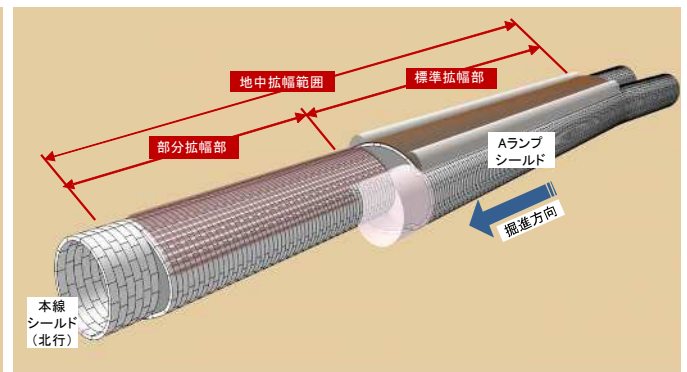
- 第30回(令和6年9月10日)東京外環トンネル施工等検討委員会において、東名JCT地中拡幅工事の施工計画及び地域の安全・安心を高める取組みは、施工を行う上で安全性・確実性が確保された妥当なものであること等が確認されました。
- 東名JCT地中拡幅部は、多くの施工実績を有する都市部山岳工法(NATM)を適用するとともに、中央環状品川線で施工実績を有する「セグメントを用いたシールドトンネル地中拡幅工法」と部分拡幅部における「本線シールドトンネルを利用した本線部分拡幅工法」を適用し、現在準備工及び内部支保工設置を実施しています。
- 東名JCTの地中拡幅部の施工状況を踏まえ、中央JCT、青梅街道ICの地中拡幅部についても引き続き検討を進めていきます。



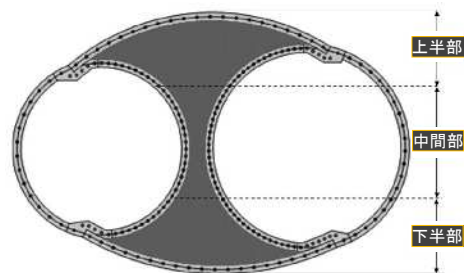
東名JCT全体概要図



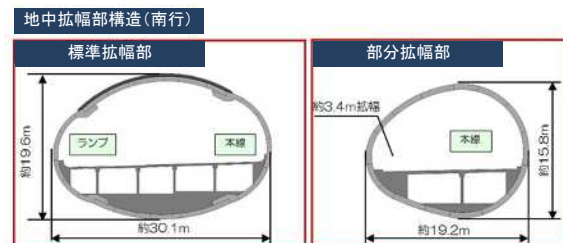
東名JCT地中拡幅(南行)全体概要図



東名JCT地中拡幅(北行)全体概要図



東名JCT ランプシールドトンネル・地中拡幅の断面図



東名JCT地中拡幅(南行)の現地の状況

今後の工事状況などのお知らせについて

工事の進捗状況にあわせたお知らせ

- トンネル地上部周辺にお住まいの皆さまには、掘進作業の準備が整った時点、シールドマシン到達前、シールドマシンの通過前後など工事の進捗にあわせお知らせチラシを配布します。

緊急時やその他必要により各種調査を実施する場合など

- 地上部での振動・騒音、地表面計測の作業予定、状況やシールドマシンの位置、緊急時やその他必要により実施する各種調査内容や時期など、箇所周辺の皆さまにお知らせをいたします。

家屋調査について

- 工事は細心の注意を払って進めてまいりますが、万が一、建物や工作物に損害等が発生し、工事に起因するものと確認された場合には、当該損害等に対して補償をさせていただくために、工事施工前の建物等の状況を把握する家屋事前調査を実施しております。

工事による建物等に損傷等が生じた場合の対応の流れ

事前調査(工事開始前)

- 専門機関による調査、写真及びスケッチによる調査記録

工事着手

- 工事期間中に損害等が発生した場合

損害等の申出

建物等の損傷等が生じた場合は、ご連絡ください。

原因、建物等の調査

建物等の損傷等の状況および、発生原因の調査をします。

補修等対応

日常生活に支障をきたす場合、応急補修等の対応をします。

工事完了

- 工事完了前でも、お申込みいただけます。

損害等の申出

建物等の損傷等が生じた場合は、ご連絡ください。

原因、建物等の調査

建物等の損傷等の状況および、発生原因の調査をします。

補償等対応

調査結果に基づき、補償などを対応します。

家屋調査について

- 平成27年度以降、沿線にお住まいの方にも家屋事前調査を実施させていただきましたが、今後、下記の方を対象に家屋事前調査を実施いたします。
 - ✓ 今まで調査未実施で新たに調査をご希望される方
 - ✓ ご自宅を新築された方
 - ✓ ご自宅の建替えやリフォームをされた方
- 過去に実施させていただいた調査結果については今後も有効なものとして取扱いいたしますが、再度の調査をご希望される方は、下記お問合せ先までご連絡ください。
- 家屋事前調査をお受けいただくかは任意であり、みなさまのご意向に沿って調査を実施いたします。

●家屋事前調査の進め方

チラシ配布

- 調査範囲の各戸にご案内のチラシを投函します

日程調整

- 調査会社が各戸にお伺いし調査の日程調整を行います

調査実施

- 調査会社が各戸にお伺いし調査を実施します

報告書のお渡し

- 調査会社が各戸にお伺いし調査結果をご説明し、報告書を手交します

世田谷区・狛江市・調布市・三鷹市内の家屋調査に関するお問い合わせ先

中日本高速道路(株) 東京支社 東京工事事務所

TEL:0120-016-285(フリーコール:受付時間 平日9:00~17:30) FAX:03-3770-6281

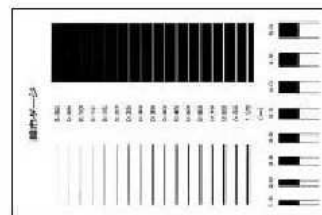
e-mail : mail-gaikan@c-nexco.co.jp

家屋調査について

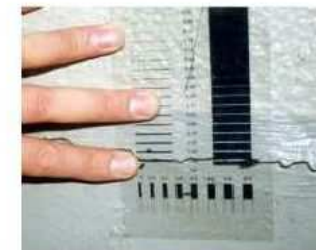
●建物基礎の地盤沈下、外壁や基礎のひび割れの幅や長さなどをスケッチ・写真撮影後、調書にとりまとめたうえ記録をご協力いただいた方にお渡しするとともに、事業者でも成果品として厳重に保管します。なお、調査結果は当該目的以外には使用いたしません。

【家屋調査での調査箇所】

- ◆基礎
- ◆軸部(柱・敷居)
- ◆開口部(建具等)
- ◆床
- ◆天井
- ◆内壁
- ◆外壁
- ◆屋根
- ◆水回り(浴槽、台所、洗面所等)
- ◆外構(屋外工作物)
- ◆井戸の状況



クラックスケール



例: 亀裂損傷調査

身分証明書

腕章



発行年月日	自 令和〇年〇月〇日	至 令和〇年〇月〇日	発行年月日	令和〇年〇月〇日
調査期間	自 令和〇年〇月〇日 至 令和〇年〇月〇日			
発行者	発注者名 中日本高速道路株式会社 東京支社 東京工事事務所長 ○○○○印			
受注者名	株式会社 ○○○○			
氏名	○○○○			
生年月日	昭和〇年〇月〇日			

右のものは、調査等請負契約書に基づき、家屋調査の業務に従事するものであることを証明する。

※調査箇所は家具等の移動は行わず、目視で確認できる範囲となります。

※所要時間:3時間~半日程度(一般的な家屋の場合)

家屋調査 調査員

相談窓口について

■相談窓口とフリーダイヤルの開設状況

●中央JCT南側ランプシールドトンネル工事に関して、地域住民の方からご相談やご意見をお受けするために、相談窓口を開設するとともに、お問合せ用のフリーダイヤルを開設しています。

【場所】

東京都調布市緑ヶ丘1丁目38番内

【運営について】

- ・開設日：月曜日から金曜日（祝日は休み）
- ・開設時間：9:00～16:00
- ・混雑した場合はお待ちいただくことがあります。予めご了承ください。

【お問合せ先】

TEL:0120-737-220(フリーダイヤル:平日9:00～16:00)



地下水位の観測結果について

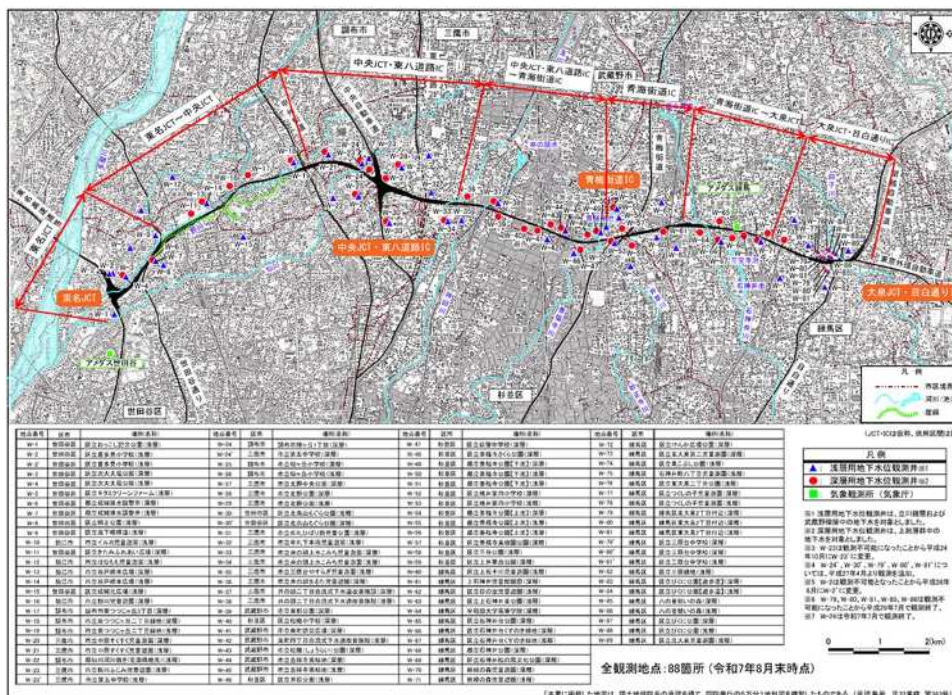
これまでの取り組みの概要

- 外環事業では、沿線環境への影響を考慮し、常時地下水位観測を行い周辺環境への影響を監視しています。
- 地下水位観測は、平成22年度より連続観測を実施しています。

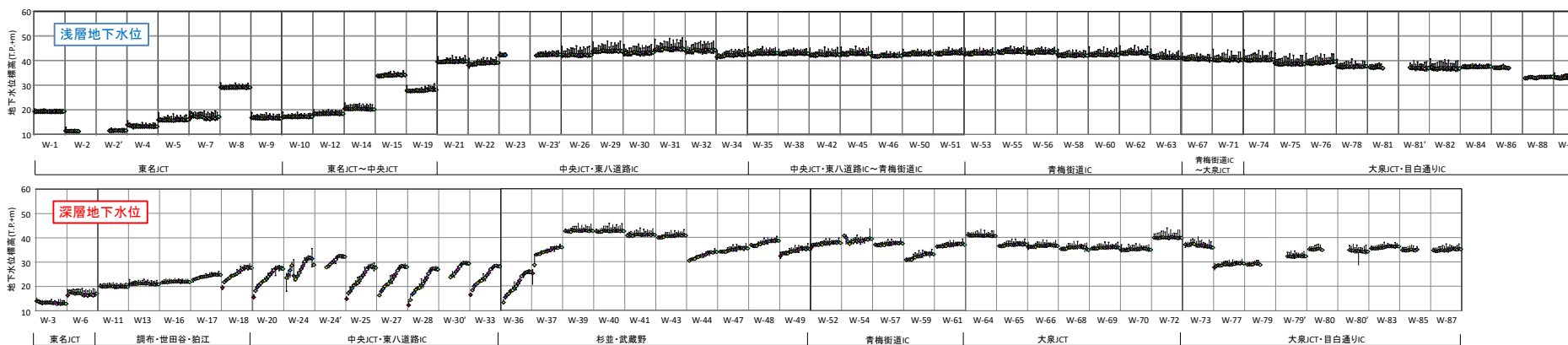


地下水位の観測状況

地下水位観測地点位置図



地下水位の観測結果



令和7年度の地下水位は、令和7年4月より令和7年8月末までの観測結果を表記しています。

浅層地下水：地表面から約5~25mの立川礫層及び武蔵野礫層中に存在する地下水を浅層地下水と定義しました。

深層地下水：立川礫層及び武蔵野礫層より深い位置の上総層群中の砂層及び砂礫層中に存在する地下水を深層地下水と定義しました。



東京外環周辺の地質・地下水について

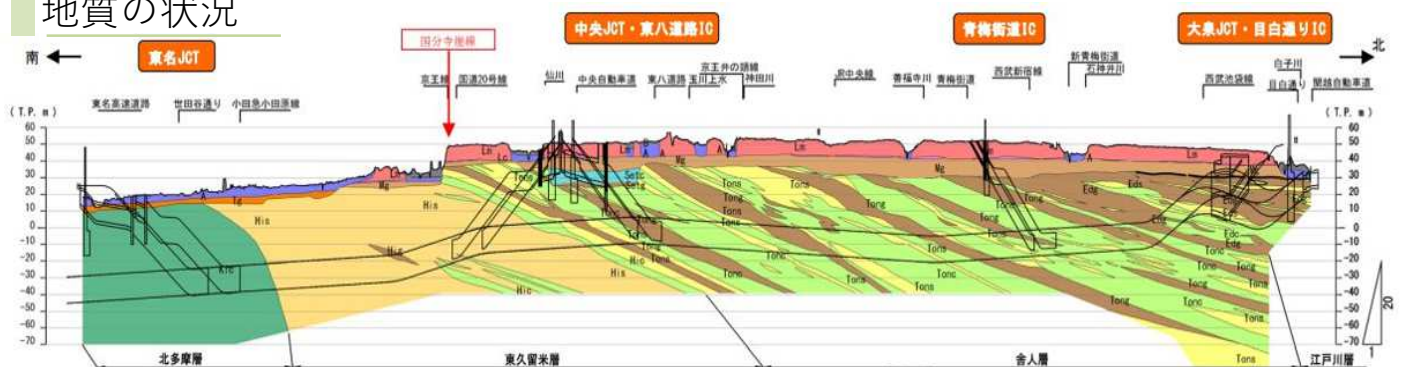
これまでの取り組みの概要

- 東京外環（関越～東名）の地下構造物により、地下水が遮断され、地下水位の低下による地盤沈下、湧き水や井戸水が涸れてしまうのではないかと心配があるかと思えます。
- そのため、外環事業では浅層地下水及び深層地下水の水位を観測し、観測結果を公表するなど、皆さまがお住まいの周辺環境の保全に努めながら工事を進めて参ります。

東京外環（関越～東名）周辺の地質・地下水の概要

- 東京外環（関越～東名）周辺の地質は、国分寺崖線を境にして北側は台地、南側は低地となっています。
- 浅層地下水の帯水層は、国分寺崖線の南側は立川礫層（深度3m～6m）、北側は武蔵野礫層（深度10m～20m）であり、地下水面は概ね帯水層上端付近に存在しています。

地質の状況



地下水の状況

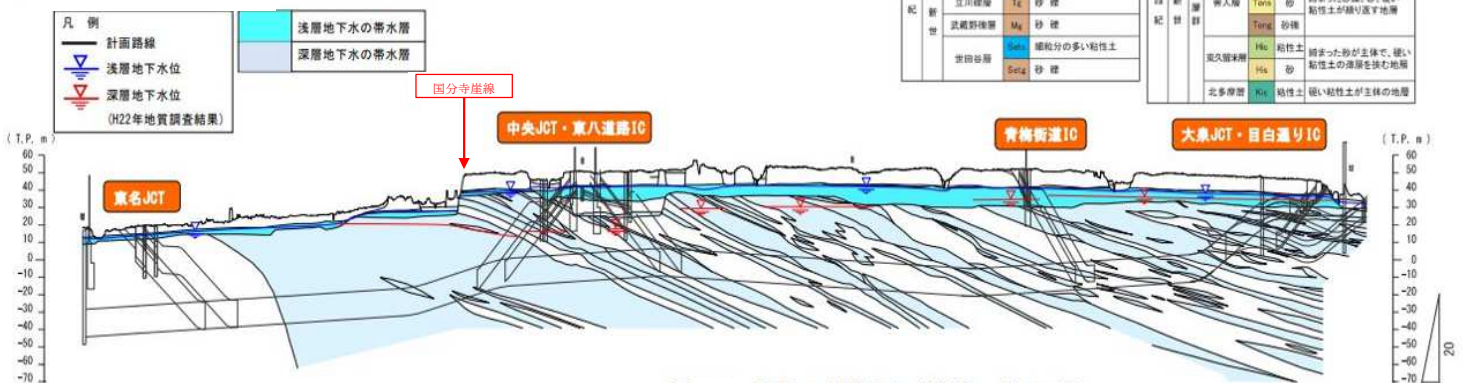


図 路線の縦断面図（地質、地下水）

注1：帯水層とは、透水性の良い砂、砂礫層で地下水を貯えている地層である。
 注2：深層地下水位とは、上層帯水層の帯水層で観測した圧力水頭の高さ（井戸を設置した時の地下水の高さ）を示している。
 注3：縦断面図は縦横比を1:20で表している。

本線シールドによる深層地下水への影響について

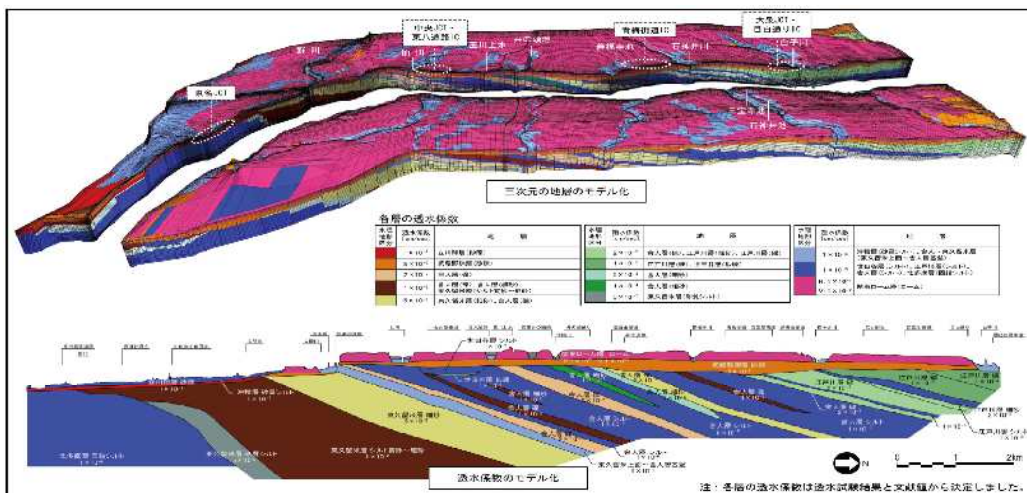
これまでの取り組みの概要

- ・東京外環（関越～東名）の本線シールドによって地下水が引き込まれ、地上部の河川や池沼が涸れてしまうのではないかと心配があるかと思えます。
- ・そのため、外環事業では、トンネル構造の密閉性が高く、地下水に与える影響が小さいシールド工法を採用しています。
- ・三次元浸透流解析と呼ばれる数値シミュレーションにより地下水位及び水圧の変動量を予測した結果、深層地下水の水圧低下量は、年間の水圧変動量以下とわずかであり、影響の範囲内に深層地下水を利用している井戸が存在しないことから、深層地下水は保全されるものと考えています。

三次元浸透流解析による予測

三次元浸透流解析モデルは、既存資料及び現地調査結果を基に、地層、地下水、構造物を三次元モデル化し、降水量や井戸の揚水量等の条件を設定しました。

三次元浸透流解析は、現況再現解析により三次元浸透流解析モデルの検証を実施した後、事業の実施による地下水影響解析及び環境保全措置の検討を実施しました。



三次元浸透流解析における計算格子モデル

出典：環境影響評価書（平成19年）

深層地下水への影響



出典：「外環」の概要（計画図の参照）（平成28年7月）
IC名、JCT名は仮称（開通区間は除く）

大気質・騒音・振動の調査結果について【中央JCT】

これまでの取り組みの概要

- ・ 外環事業では「環境影響評価書」及び「対応の方針」に基づき工事中の大気質（NO₂、SPM、粉じん等）、騒音、振動のモニタリング調査を行っています。

調査内容

■大気質の調査

- ・ 建設機械の稼働や工事用車両の運行に伴う二酸化窒素（NO₂）及び浮遊粒子状物質（SPM）を季節毎（年4回）、1週間、現地測定
- ・ また、粉じん等を季節毎（年4回）、1箇月間、現地測定

■騒音、振動の調査

- ・ 建設機械の稼働や工事用車両の運行に伴う騒音、振動を月1回、1日間、現地測定

モニタリング状況



大気質 (NO₂, SPM) 測定状況



大気質 (粉じん等) 測定状況

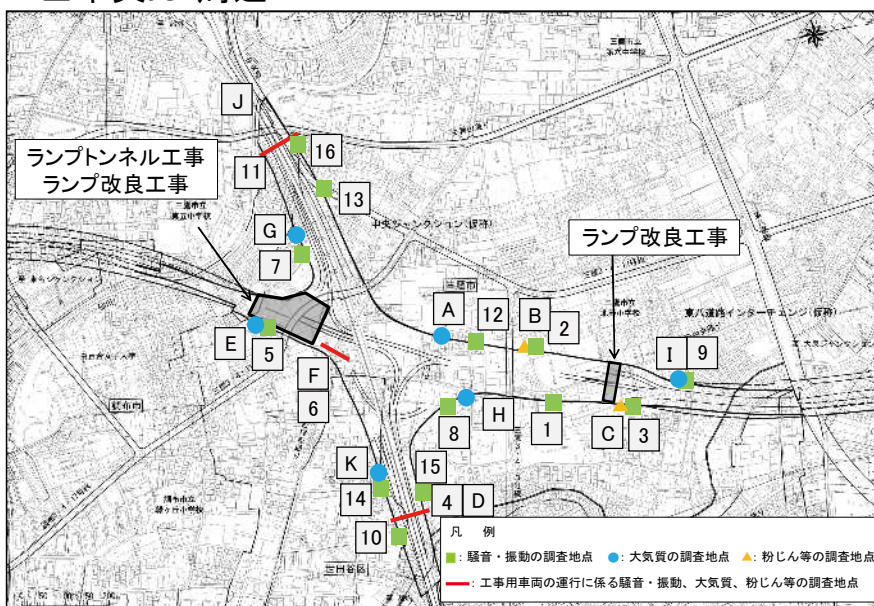


騒音、振動測定状況

騒音のめやす		dB (デシベル)
80	地下鉄の車内	
70	騒々しい事務所、街頭掃除機、電車の発車ベル	
60	特かな乗用車、普通の会話	
50	特かな事務所、テラーの室外機	
振動のめやす		dB (デシベル)
70	大勢の人に感ずる程度のもので、戸、障子がわずかに動くくらい	
60	静んでいる人や、特に地震に注意深い人だけに感ずる程度	
50	人体に感じないで、地震計に記録される程度	
40		

調査結果 (R7.6~R7.8)

■中央JCT周辺



※調査結果の詳細については、東京外環のホームページ(環境保全対策)に掲載しているとともに、各現場へ掲示しています。

○建設機械の稼働に係る調査結果

調査項目	調査結果	条例、環境基準による基準値又は参考値
騒音レベル	65~70dB	条例による騒音基準 80dB以下
振動レベル	40~49dB	条例による騒音基準 70dB以下
二酸化窒素	0.004~0.008ppm	環境基準により0.04~0.06ppm又はそれ以下
浮遊粒子状物質	0.025~0.089mg/m ³	環境基準により0.20mg/m ³ 以下
粉じん等	1.3t/km ² /月	指標となる参考値により 20t/km ² /月

○工事用車両の運行に係る調査結果

調査項目	調査結果	環境基準による基準値又は参考値
騒音レベル	53~65dB	環境基準により70dB以下
振動レベル	40~52dB	要請限度により65dB以下
二酸化窒素	0.003~0.013ppm	環境基準により0.04~0.06ppm又はそれ以下
浮遊粒子状物質	0.015~0.056mg/m ³	環境基準により0.20mg/m ³ 以下
粉じん等	1.0~2.9t/km ² /月	指標となる参考値により 20t/km ² /月

※ 調査結果は調査地点1~16における騒音・振動レベルの各調査日最大値の幅値、調査地点A~Jにおける浮遊粒子状物質の各調査日最大値の幅値を表す。二酸化窒素は1日の平均値の幅値、粉じん等は調査地点の幅値を表す。なお、建設機械の稼働に係る粉じん等の調査地点B,Cの周辺では、R7.3~R7.5は工事が行われなかったため、調査を実施していない。

安全対策の取り組み事例 トンネルの防災安全設備

これまでの取り組みの概要

災害や事故発生時におけるトンネルからの避難方法や、事故防止の対策が十分取られているかご心配かと思えます。災害時における安全確保や事故発生時の対策等については、有識者の意見も伺いながら、検討を進めています。

首都高速 中央環状線 4号新宿線～5号池袋線（山手トンネル）の事例

通常時の安全設備

1. 管制室

24時間体制でトンネル内を見守ります。



2. テレビカメラ

トンネル内の状況を管制室に伝えるため、約100m間隔で死角なく設置します。



3. トンネル照明設備

安全で快適に走れる走行環境を確保します。



火災発生時の防災設備

4. 自動火災検知器

トンネル側面に約25m間隔で設置し、火災を自動的に感知します。



5. 水噴霧設備

放水区画は約25m、火災の延焼や拡大を防ぎます。



6. トンネル警報板

火災、事故状況をドライバーの方へお知らせします。



7. 排煙口（排気口）

火災時の煙を外に排出します。

火災発生時、ドライバーの方に利用していただく設備

8. 消火器・泡消火栓

約50m間隔で設置してありますので、無理のない初期消火をお願いします。



9. 押ボタン式通報装置

約50m間隔で設置し、非常時に管制室へ通報できます。



10. 非常口

350m以内に設置された非常口から避難してください。



11. 非常電話

約100m間隔で設置し、非常時に管制室と連絡が取れます。



利用者等の避難について

これまでの取り組みの概要

災害や事故発生時におけるトンネルからの避難方法や、事故発生時の対策等については、有識者の意見も伺いながら、検討を進めています。

避難方式について

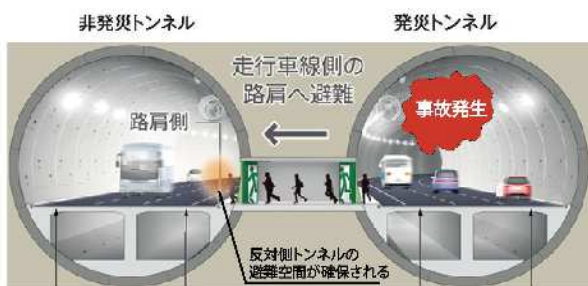
- 火災時等における避難安全性の確保を目的とし、避難施設を設置します。
- 設置する避難施設は、本線・ランプの状況に応じ、次の避難方式を検討します。

＜避難方式概要図＞



＜横連絡坑方式の避難イメージ＞

発災トンネルから非発災トンネル(安全空間)へ、横連絡坑を利用して避難



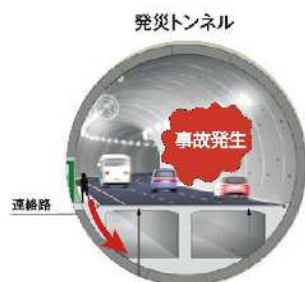
上下線連絡口



首都高速中央環状新宿線の例

＜床版下方式の避難イメージ＞

発災トンネルの床版下(安全空間)へ、すべり台を利用して避難









路面下への非常口(路面から)



すべり台(路面下から)

お問合せ先・HP等

お問合せ内容	お問合せ先
<p>今回の説明内容に関すること 家屋調査に関すること 外環事業全般に関すること</p>	 <p>国土交通省 関東地方整備局 東京外かく環状国道事務所 TEL : 0120-34-1491(フリーダイヤル) 受付時間: 平日 9:15~18:00</p>  <p>東日本高速道路株式会社 関東支社 東京外環工事事務所 TEL : 0120-861-305(フリーコール) 受付時間: 平日 9:00~17:30</p>  <p>中日本高速道路株式会社 東京支社 東京工事事務所 TEL : 0120-016-285(フリーコール) 受付時間: 平日 9:00~17:30</p>
<p>今回の説明内容に関するご質問の受付</p>	<p>e-mail : tokyo-gaikan@e-nexco.co.jp</p>
<p>24時間工事情報受付ダイヤル (工事に関するお問合せ)</p>	<p>練馬区、杉並区(久我山4丁目を除く)、武蔵野市(吉祥寺南町3丁目を除く)の外環沿線地域の方 TEL 03-6904-5886</p> <p>世田谷区、狛江市、調布市、三鷹市、杉並区(久我山4丁目)、武蔵野市(吉祥寺南町3丁目)の外環沿線地域の方 TEL 03-5727-8511</p>

HP掲載内容	HP掲載先
<p>外環事業全体の状況 最新情報</p>	<p>○外環プロジェクト https://tokyo-gaikan-project.com/</p>  <p>○国土交通省 東京外かく環状国道事務所 https://www.ktr.mlit.go.jp/gaikan/</p> 
<p>シールドトンネル工事の 詳細な施工データ</p>	<p>○東京外環 トンネル施工等検討委員会 委員会資料 https://www.ktr.mlit.go.jp/gaikan/pi_kouhou/tu2_kiroku.html</p> 

用語集

<シールドマシン関係>

名称	説明
切羽(きりは)	シールドマシンの先端の地山を掘削している面のこと。
スキンプレート	シールドマシンの外側(外周部)の鋼板(各装備を保護するもの)。
カッターヘッド	シールドマシン前面の回転して地山を掘削する部分。地山を掘削する刃(ビット)等が備わっている。
チャンバー	カッターヘッドと隔壁との間に土砂を充填させる空間。常に掘削した土砂で充填されており、充填した土に圧力を加えることで、切羽の安定を図る。
隔壁(かくへき)	チャンバーとシールドマシン機内を隔てる壁。
シールドジャッキ	シールドマシンを前進させるための押す力を加えるもの。
スクリーコンベヤー	チャンバー内の土砂を排出する機械。シールドマシンが前進した分の土量と排出する土量を調整させるため、回転数等の調整を行う。
塑性流動性 (そせいりゅうどうせい)	土砂の性状を表現する言葉で、力を加えると容易に変形し、適度な流動性を有した性状のこと。(切羽の安定に必要な土圧を保持し、シールドの掘進量にあわせた土量の排出を行うために、チャンバー内に充填した掘削土砂が適度な流動性を有することが必要。)
閉塞(へいそく)	チャンバー内で土砂の堆積によりカッターが回転不能になること。
土圧の不均衡(ふきんこう)	チャンバー内圧力と切羽土圧のつり合いが取れなくなること。
止水性(しすいせい)	水が通りにくい性質のこと。(チャンバー内に充填した土砂は、地下水の流入が生じないように止水性を高めることが必要。)
泥土圧(でいどあつ)シールド	掘削土を泥土化して所定の圧力を与えることにより切羽を安定させるシールド工法。
セグメント	シールドトンネルの壁面を構築するコンクリート又は鋼製のブロック。
リング	セグメントを円形に組立てたシールドトンネルの一単位のこと。
掘進(くっしん)	カッターヘッドを回転させて掘削し前進すること。
チャンバー内圧力勾配 (ないあつりょくこうばい)	チャンバー内に生じた鉛直方向の圧力変化量のこと。
カッタートルク	切羽を掘削するのに必要なカッターの回転力。
静止土圧(せいしどあつ)	切羽面とマシン圧力が釣り合っている圧力のこと。
主働土圧(しゅどうどあつ)	切羽面がマシンを押している圧力のこと。
予備圧(よびあつ)	掘進時に圧力損失を補完するための圧力。
装備(そうび)トルク	マシンが備えているカッターを回転させる力。
圧力分布(あつりょくぶんぷ)	切羽面の圧力の分布のこと。
加速度(かそくど)	単位時間当たりの速度の変化率のこと。
排土(はいど)	チャンバー内からシールド内に排出する土。
掘削土(くっさくど)	シールド掘進時に掘削した土。
監視(かんし)モニター	シールド操作室または中央制御室でシールド稼働状況を総合的に監視する画面のこと。
土砂ピット(どしゃ)	掘削した土砂を一時的にストックする仮の置き場
テールシール	裏込材や土砂を伴う地下水のシールド内への流入を防止するための部品
テールクリアランス	シールドの後端部におけるセグメントの外側とシールド機筒部分内側の間の施工上の余裕量
テールボイド	セグメント外面と掘削された地山との空隙のこと
裏込材(うらごめざい)	テールボイドを充填するための材料。

<土質関係>

名称	説明
地山(じやま)	自然のままの地盤。
ローム質土層(しつどそう)	砂やシルトや粘土などが含まれた混合土層。
砂層(さそう)	砂を主体とする地層。
礫層(れきそう)	礫を主体とする地層。
凝灰質粘土 (ぎょうかいしつねんど)	火山から噴出された火山灰が堆積してできた粘土。
細粒分(さいりゅうぶん)	地盤を構成する土粒子の内、小さな土粒子(0.075mm未満のシルト・粘土)のこと。
細砂分(さいさぶん)	地盤を構成する土粒子の内、粒径が0.075mm～0.25mmの土粒子のこと。
均等係数 (きんとうけいすう)	砂の粒径の均一性を示す指標。1に近いほど粒径がそろっている。
配合試験(はいごうしけん)	土砂と添加材の適正配合を確認する試験。
不透水層(ふとうすいそう)	シルトや粘土などのように水を通しにくい地層。
透水性(とうすいせい)	土の中での水の通しやすさ。
武蔵野礫層 (むさしのれきそう)	礫を主体として中程度～粗い砂を含んだ締まった礫層で、水を通しやすい地層。
細粒分含有率(さいりゅうぶん がんゆうりつ)	75μmふるいを通過分の土砂が占める割合を、質量百分率で表したもの。
通過質量百分率(つうかしつ りょうひゃくぶんりつ)	ふるいにより分けられた土粒子の割合を、質量百分率で表したもの。
帯水層(たいすいそう)	砂や礫などのように地下水をよく通しやすい地層。
高水圧層(こうすいあつそう)	大きな圧力を有した地下水のある地層。
ミニスランプ	土の流動性を確認する試験。
粒度分布(りゅうどぶんぷ)	どのような大きさの土粒子が、どのような割合で含まれているかを示す指標。
ベルトスケール	ベルトコンベヤーによって輸送された土を計量する機器。
泥漿(でいしょう)	個体粒子が液体の中に懸濁している流動体。泥状の混合物。

土の粒径区分

粒径mm	0.005	0.075	0.25	0.85	2	4.75	19	75
粘土	シルト		細砂	中砂	粗砂	細礫	中礫	粗礫
	砂				礫			
	細粒分		粗粒分					

※地盤を構成する土の粒径の分布状態を粒径ごとに分類するもの

用語集

<材料関係>

名称	説明
添加材(てんかざい)	掘削土砂を泥土化(塑性流動化)するために添加する材料。
気泡材(きほうざい)	添加材の一種で、シェービングクリーム状のきめ細かい泡。
起泡溶液 (きほうようえき)	気泡材を作るための元材料。これに空気を混合して発泡させることで気泡材を作成する。
滑剤(かつざい)	摩擦抵抗を少なくするためにシールドマシンと地山との間に充填する材料。
良分解性(りょうぶんかいせい)	環境中に残留することなく容易に分解する物質のこと。
鉱物系(こうぶつけい)	性質が均一で天然に存在する物質のこと。
高分子系(こうぶんしけい)	土の水分を凝集させる物質のこと。

<調査関係>

名称	説明
ボーリング調査	地中に孔を掘り、地盤の状況を確認する調査。
微動アレイ調査	地表面から行う地盤の物理探査手法。地盤は微小な振動(人工振動・交通振動・海岸線に押し寄せる波浪振動)などによって絶えず振動をしており、この微小な振動を測定・解析することにより地盤の状況を把握する。
音響トモグラフィ	ボーリング孔に設置した発信器から周波数と振幅を制御した音波を発信し、地中を伝播してきた音波を受信器で受信し、地盤の状況を把握する。
S波	地盤を伝わる振動横波。固い地盤は、速度が速くなる。
P波	地盤を伝わる振動縦波。固い地盤は、速度が速くなる。
N値	地盤の固さの指標で、数値が高いと固い。
水準測量	高低差や標高を求める測量のこと。
GNSS	人工衛星を利用した測位システムの総称で、複数の衛星から信号を受信し、地上での現在位置を計測するシステム。
合成開口(ごうせいかいこう)レーダー	レーダーの一種で航空機や人工衛星に搭載し、電磁波を照射し反射して返ってきた信号で観測するもの。
地表面傾斜角	シールド掘進前の水準測量で得た観測点の標高を基準とし、その後の観測点の標高の変位で発生した地表面の傾斜角のこと。
3D点群(てんぐん)データ	3次元レーザースキャナーなどで物体や地形を計測したデータ。
路面下空洞調査	地中レーダー探査機を用いて、路面下の空洞発生の有無を探査・解析する調査。異常信号が確認された場合、空洞がある可能性がある部分の路面を削孔してスコープカメラにより確認する。

<その他>

名称	説明
開削(かいさく)	土地や山などを掘り起こして平らにし、構造物を構築すること。
パイプルーフ	本体構造物の掘削作業を安全に構築するためにパイプを本体構造物の外周に沿って等間隔にアーチ状または柱列状に水平に打設し、屋根や壁をつくり、地上および地下埋設物などの防護を目的とする補助工法
土被り(どかぶり)	地中に埋設された構造物の天端から地表面までの高さ。